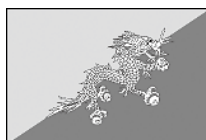


平成 24 年度

教師海外研修報告書

～国際理解教育の授業実践事例集～

研修国：ブータン王国
(東京都・群馬県教員)



目 次

■はじめに	2
■参加者リスト	3
■教師海外研修概要	4
■国内研修・授業実践報告会	6
■海外研修	11
・研修国概要	12
・研修日程	13
・研修トピックス	14
・私の1枚	16
・参加者の声／同行者より	18
・新聞掲載記事	20
■授業実践	21

氏名 学校名	タイトル	授業実施学年 授業実施教科	
河合 一洋 東京都港区立東町小学校	多文化共生社会を目指して	小4 総合的な学習の時間	22
山口 亮介 東京都足立区立梅島小学校	ブータンから世界へ、そして日本へ、 自分へ	小6 総合的な学習の時間、 外国語活動、道徳	28
山藤 旅間 東京都立両国高等学校附属中学校	私の「幸せの地図」を描こう	中2 総合的な学習の時間	34
藤木 正史 東京学芸大学附属国際中等教育学校	ブータンを通して考える“幸せの指標”	中2 国際教養	39
大塚 圭 中央大学杉並高等学校	高校生のための国際協力入門	高1～3 総合的な学習の時間	45
奈木 いずみ 東京都立雪谷高等学校	近代日本を“幸せ”にしてみよう！	高2 日本史B	51
保坂 理絵 東京都立田柄高等学校	ブータンにおける日本の国際協力 ～ブータンとネパールの違いを考える～	高3 異文化理解	57
生形 文子 群馬県立万場高等学校	21世紀の世界と日本	高3 日本史B	64
清水 マヤ 東京都立小平特別支援学校	“ブータン”ってどんな国？	小5 総合的な学習の時間	70
清水 香奈 群馬県立榛名養護学校	みんなちがってみんないい ～文化も考え方も～	高1 ロングホームルーム	75

■過去に参加した教員の取り組み	82
-----------------	----

- | | |
|---|--|
| ○国際協力エッセイコンテストを活用した取り組み
群馬県立伊勢崎興陽高等学校
中山 見知子、関口 めぐみ | ○特別支援学校／学級における国際理解教育を推進
東京都立城北特別支援学校 相沢 友紀
千葉県立長生特別支援学校 鈴木 優成 |
| ○グローバル教育コンクールに入賞
新潟県村上市立村上第一中学校 小黒 淳一 | ○国際理解教育に関する教育委員会への協力
埼玉県立鴻巣高等学校 田島 雅野
新座市立片山小学校 原 真奈美
加須市立加須南小学校 平澤 由美子 |
| ○国際協力出前講座を活用してキャリア教育を展開
東京都立松原高等学校 藤木 優子 | |

■ JICA 国際理解教育支援プログラムのご案内	88
■おわりに	90

はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している「教師海外研修」は、国際理解教育／開発教育を担う教員の方々が、開発途上国の現状や日本との関係などへの理解を深め、学校における教育活動の一層の充実を図ることを目的に、JICA の各国内機関が毎年企画・実施するものです。

平成 24 年度、JICA 地球ひろばでは所管地域から 20 名の教員を募り、国内研修を経て、ブータン、エルサルバドルの 2 カ国に派遣いたしました。本報告書は、今年度の研修の概要及び帰国後の勤務校における授業実践の実例を中心にまとめたものです。

現在、学校教育をとりまく環境は、グローバル化の急速な進展にともなって刻々と変化しています。平成 23 年度より順次実施されている新しい学習指導要領には、新たに持続発展教育の視点が盛り込まれました。これは、私たちが生きる世界が相互に依存した一つの世界であり、将来に渡って安心して生活できる持続可能な社会を築いていくためには、地球的な視野と豊かな人間性を兼ね備えた将来の担い手を育むことが急務であるとの判断に立ったものと考えられます。こうした中、国際理解教育／開発教育が積極的に推進されることを期待するとともに、学校現場の先生方にとって本報告書が少しでもお役に立てれば幸いです。

なお、「国際協力を日本の文化に」をキャッチフレーズとして 2006 年に東京・広尾に開設した JICA 地球ひろばは、昨年 10 月に市ヶ谷に移転いたしました。新・JICA 地球ひろばでも、これまでと同様、見て、聞いて、触って体験できる展示と現場での国際協力の経験を持つ「地球案内人」の体験談と説明で、開発途上国の現状と世界の課題を体験いただけます。ぜひ校外学習等でご活用ください。

結びに、本研修の実施にあたりご支援をいただいた外務省、文部科学省、各教育委員会並びに関係諸団体に感謝を申し上げますとともに、今後とも JICA が取り組む市民参加協力事業にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月



独立行政法人国際協力機構（JICA）地球ひろば

所長 貝原孝雄

平成 24 年度教師海外研修参加者

ブータンコース（10 名）

氏名	都県名	学校名	担当教科
河合 一洋	東京都	東京都港区立東町小学校	全教科
山口 亮介	東京都	東京都足立区立梅島小学校	全教科
山藤 旅間	東京都	東京都立両国高等学校附属中学校	理科（生物）
藤木 正史	東京都	東京学芸大学附属国際中等教育学校	社会 / 地理歴史・公民 MYP Humanities
大塚 圭	東京都	中央大学杉並高等学校	外国語（英語）
奈木 いずみ	東京都	東京都立雪谷高等学校	地理歴史
保坂 理絵	東京都	東京都立田柄高等学校	外国語（英語）
生形 文子	群馬県	群馬県立万場高等学校	地理歴史
清水 マヤ	東京都	東京都立小平特別支援学校	音楽
清水 香奈	群馬県	群馬県立榛名養護学校	数学

エルサルバドルコース（10 名）

氏名	都県名	学校名	担当教科
桑原 洋文	新潟県	小千谷市立東山小学校	全教科
金子 綱基	千葉県	市原市立五井小学校	全教科
金子 直也	千葉県	船橋市立若松小学校	全教科
松崎 奈穂	埼玉県	上尾市立大谷小学校	全教科
高橋 直美	千葉県	柏市立柏第三小学校	全教科
阿部 範子	埼玉県	春日部市立豊春中学校	外国語（英語）
川上 舞子	埼玉県	狭山市立狭山台中学校	音楽
石井 卓	埼玉県	埼玉県立岩槻高等学校	地理歴史・公民
花田 洋司	埼玉県	埼玉県立大井（ふじみ野）高等学校	地理歴史・公民
泉 貴久	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史・公民

海外研修同行者

氏名	所属	コース
保坂 直人	株式会社 埼玉新聞社 編集局 報道部記者	エルサルバドル
掛川 達雄	JICA 地球ひろば 学校教育アドバイザー	エルサルバドル
田村 美由紀	JICA 千葉デスク 国際協力推進員	エルサルバドル
滝下 智佳	JICA 地球ひろば 地域連携課員	ブータン

教師海外研修概要

■研修の目的

国際理解教育／開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的として実施します。

また研修参加後は、JICA地球ひろばと協力し、教育現場で国際理解教育／開発教育の推進に活躍していただくこともねらいとしています。

■主催：独立行政法人国際協力機構

■後援：外務省、文部科学省、各都県及び政令指定都市の教育委員会、各都県の私立中学高等学校協会、各都県の国際交流協会

■研修国と募集人数

ブータンコース：10名（東京都、群馬県、栃木県の学校に所属の教員）

エルサルバドルコース：10名（埼玉県、千葉県、新潟県、山梨県の学校に所属の教員）

※研修国は年度により異なります。

■応募資格

- ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校において教育活動に従事していること。
- ・応募時の年齢が満50歳以下であること。
- ・所属校の校長の推薦があること。
- ・過去に、本研修、JICA海外ボランティア事業、JICA専門家、ODA民間モニター／国際協力レポーター等で海外に派遣された経験がないこと。

■参加条件

- ・研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施及び、以後JICAが実施する国際理解教育／開発教育支援事業に協力可能であること。
- ・国内研修及び海外研修の全行程に参加可能であること。
- ・研修国の事情を勘案した上で、参加するに耐えうる健康状態であること。
- ・帰国後、所定の期日内に海外研修報告書を提出することに同意すること。
- ・帰国後、本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行い、当該授業の実践報告書を提出し、JICAのウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。
- ・パソコンメールアドレスでの連絡が可能なこと。
- ・参加者メーリングリストでの情報共有に賛同いただけること。

※平成24年度の募集要項は、JICA地球ひろばのホームページでご覧いただけます。

※平成25年度の募集要項は、4月上旬にJICA地球ひろばのホームページに掲載します。

研修の流れ（平成24年度）

◇国内事前研修

■第1次研修：6月10日(日)

研修の趣旨および JICA 事業概要を理解する。研修国事業を知る。
国際理解教育/開発教育を理解する。ワークショップ体験など。

■第2次研修：6月30日(土)・7月1日(日)

研修国の事前学習。海外研修日程の確認。渡航手続きなど。



◇海外研修

8月1日(水)～8月11日(土)(11日間) ブータン

8月7日(火)～8月17日(金)(11日間) エルサルバドル

帰国後2週間以内に海外研修報告書の提出



◇帰国時研修

8月26日(日)

授業の計画・教材作成について、他コースの参加教員と情報を共有する。



◇勤務校における授業実践 9月～12月

研修で得られた経験、資料を活かし、参加者がそれぞれの勤務校において授業を実践する。

授業実践報告書の作成



◇授業実践報告会

■都県別授業実践報告会：12～2月

研修で得られた経験、資料を活かして実践した授業について、地域に公開で報告。



◇全体会

3月10日(日)

1年間の研修のまとめ。また、過去の参加者が集まり、ネットワークを構築することで今後の国際理解教育の推進につなげる

国内研修 授業実践報告会



第1次研修

日時：平成24年6月10日（日）10:30～17:00

場所：JICA 地球ひろば

対象：教師海外研修参加者

目的：☞ JICA や日本の国際協力に関する理解を深める

☞ 教師海外研修の目的・内容について理解を深める

☞ ESD や国際理解教育についての理解を深める

☞ 研修国の概要を知る



講師の石川先生による開発教育に関する
講義とワークショップ

時 間		内 容	講 師
10:30	35 分	開会 (主催者挨拶、共催団体挨拶、参加者紹介)	
11:05	25 分	JICA 概要説明 「国際協力事業と市民参加協力事業」	JICA 地球ひろば 地域連携課 長谷川敏久
11:30	30 分	JICA 国際理解教育 / 開発教育支援事業の紹介 教師海外研修について	教師海外研修担当者
12:00	30 分	アイスブレイク（自己紹介）	拓殖大学 石川一喜氏
12:30	60 分	昼食休憩	
13:30	40 分	持続発展教育（ESD）と 国際理解教育について	文部科学省国立教育政策研究所 五島政一氏
14:10	40 分	開発教育ワークショップ体験	拓殖大学 石川一喜氏
15:50	15 分	休憩	
15:05	15 分	海外研修プログラムの説明	教師海外研修担当者
15:20	50 分	<コース別> 青年海外協力隊の体験談	太田幸輔氏（元青年海外協力隊／ブータン） 角一大輝氏（元青年海外協力隊／エルサルバドル）
16:10	15 分	休憩	
16:25	25 分	渡航ブリーフィング (渡航手続きについて)	教師海外研修担当者
16:50	10 分	閉会	



講師の五島先生による ESD と
国際理解教育に関する講義



参加型学習の手法を体験

第2次研修

日時：平成 24 年 6 月 30 日（土）10:30 ～ 18:00

7 月 1 日（日）10:00 ～ 17:00

場所：JICA 地球ひろば

対象：教師海外研修参加者

目的：☞ 研修国の開発課題や、訪問先の概要を知る

☞ 参加型学習の手法への理解を深める

☞ 帰国後の授業実践について考える

☞ 海外研修における各自の目的や役割分担を明確にする

☞ 参加者・関係者同士の関係を築き、深める



【1日目】

時 間		内 容	講 師
10:30	10 分	開会	
10:40	40 分	渡航ブリーフィング（海外での健康と安全）	教師海外研修研修担当者
11:20	10 分	休憩	
11:30	30 分	JICA 地球ひろば体験ゾーン見学	地球案内人
12:00	60 分	昼食休憩	
13:00	15 分	海外研修について（研修日程説明）	
13:15	50 分	<コース別> 訪問国の開発課題と JICA 事業について	JICA 中南米部 細川幸成 JICA 南アジア部 大島歩
14:05	10 分	休憩	
14:15	50 分	<コース別> 過年度参加者体験談	練馬区立中村中学校 松木園 英理教諭 千葉県立長生高等学校 植草 智代教諭
15:05	15 分	休憩	
15:20	70 分	<コース別> チームビルディングと参加型研修の準備	海外研修同行者
16:40	10 分	休憩	
16:50	70 分	参加者・スタッフとの情報交換会	

【2日目】

時 間		内 容	講 師
10:00	120 分	開発教育・国際理解教育について	拓殖大学 石川一喜氏
12:00	60 分	昼食休憩	
13:00	50 分	授業作りのコツ	文部科学省国立教育政策研究所 五島政一氏
13:50	10 分	休憩	
14:00	120 分	<コース別>海外研修の準備	海外研修同行者
16:00	15 分	休憩	
16:15	25 分	全体共有と海外研修に向けて	拓殖大学 石川一喜氏
16:40	20 分	連絡事項・閉会	

帰国時研修

日時：平成 24 年 8 月 26 日（日）10:00 ～ 17:00

場所：JICA 地球ひろば

対象：教師海外研修参加者

目的：☞海外研修の体験を振り返り、気付きを共有する

☞研修の経験を活かした授業実践について考える



時 間		内 容	講 師
10:00	15 分	開会	
10:15	30 分	研修体験の共有（ワールド・カフェ）	拓殖大学 石川一喜氏
10:50	60 分	各チームからの研修報告	
11:50	40 分	教材化のコツ	拓殖大学 石川一喜氏
12:30	60 分	昼食休憩	
13:30	40 分	授業実践に向けて	文部科学省国立教育政策研究所 五島政一氏
14:10	5 分	休憩	
14:15	90 分	実践授業の計画作り	海外研修同行者
15:45	15 分	休憩	
16:00	30 分	全体共有と研修のまとめ	拓殖大学 石川一喜氏
16:30	30 分	連絡事項・閉会	

全体会

日時：平成 25 年 3 月 10 日（日）13:00 ～ 17:00

場所：JICA 市ヶ谷ビル

対象：教師海外研修の今年度参加者、過去参加者

目的：☞1年間の研修の学びを振り返る

☞教師海外研修の過去の参加者の、年度や地域を越えたネットワークを構築する

時 間		内 容	講 師
13:00	10 分	開会	
13:10	30 分	アイスブレイク（自己紹介）	拓殖大学 石川一喜氏
13:40	25 分	平成 24 年度教師海外研修実施報告	
14:05	25 分	修了式	
14:30	10 分	休憩	
14:40	60 分	過去参加教員による実践報告	教師海外研修過去参加教員
15:40	60 分	開発教育ワークショップ体験 「アフリカを知ろう！」	JICA 地球ひろば担当者
16:40	10 分	休憩	
16:50	30 分	研修のまとめ	拓殖大学 石川一喜氏
17:20	10 分	連絡事項・閉会	

授業実践報告会

授業実践報告会は、各都県において一般公開で実施されました。各県からの参加者が、海外研修の体験を活かしてどのような授業を実施したのかを、地域の国際理解教育セミナーで発表しました。

■千葉県報告会

イベント名：国際フェスタ CHIBA

(国際理解教育セミナー)

日時：12月2日(日) 13:00～16:00

場所：千葉県青少年女性会館

主催：(財)ちば国際コンベンションビューロー、
千葉県ユニセフ協会、JICA 地球ひろば



■新潟県報告会

イベント名：国際理解教育セミナー

日時：1月26日(土) 13:30～17:00

場所：まちなかキャンパス長岡

主催：JICA 地球ひろば



■埼玉県報告会

イベント名：グローバルセミナー 2013

～地域で育むグローバル市民～

日時：12月9日(土) 10:15～16:30

場所：With you さいたま

主催：埼玉国際協力協議会、(財)埼玉県国際交流協会、JICA 地球ひろば



■群馬県報告会

イベント名：ぐんまグローバルセミナー

日時：2月16日(土) 10:30～15:00

場所：群馬県庁

主催：(財)群馬県観光国際物産協会、JICA 地球ひろば



■東京都報告会

イベント名：国際理解教育セミナー

～ワークショップ体験と授業実践報告～

日時：2月24日(日) 10:30～17:00

場所：JICA 市ヶ谷ビル

主催：JICA 地球ひろば



海外研修 ブータン王国



研修国の概要

ブータン王国

正式名称：(和文) ブータン王国

(英文) Kingdom of Bhutan

首都：ティンブー (Thimphu)

元首：ジグメ・ケサル・ナムギャル・
ワンチュク国王陛下 (第5代)

政体：立憲君主制

面積：約 38,394 平方キロメートル

人口：約 70.8 万人

(ブータン政府資料 2011 年)

民族：チベット系、東ブータン先住民、
ネパール系等

言語：ゾンカ語 (公用語)、英語等

宗教：チベット系仏教、ヒンドゥー教等

通貨：ニュルタム (Nu)

※ 1 ニュルタム = 約 1.5 円 (2012 年 8 月現在)

日本との時差：マイナス 3 時間

主要産業：農業 (米、麦等)、林業、電力

GNI：15.3 億米ドル (世銀資料 2011 年)

一人当たりGDP：2,288 米ドル (世銀資料 2011 年)

経済成長率：8.5% (ブータン政府資料 2011 年)

略史：9 世紀北方から到来したチベット人がヒマラヤの先住民と融合。

17 世紀ラマ教の高僧ガワン・ナムゲルが現国土に相当する地域での聖俗界の実権を掌握。

1865 年イギリスと衝突、講和条約により南部のドゥアル地方がイギリス領となる。

1907 年現王朝の初代国王が即位。1910 年イギリスとの間にプナカ条約を調印し、関係を強める。

1947 年インド独立とともに、独立国として認定される。

1972 年国連加盟。

1974 年国王ジグミ・シンゲ・ウォンチュック戴冠。

2008 年 11 月にジグメ・ケサル・ナムギャル・ワンチュック国王戴冠。

2008 年より民主化を目指して二院制議会を設立し、立憲君主制をとっている。

気候：北部は山岳性気候、首都ティンブーのある中部は内陸性、南部は亜熱帯性気候に属する。

全般に南西モンスーンの影響が強いため降雨量が多い。

在留日本人：117 人 (2011 年 10 月現在)

JICA 事務所開設：1987 年 ※ 青年海外協力隊の派遣は 1988 年から

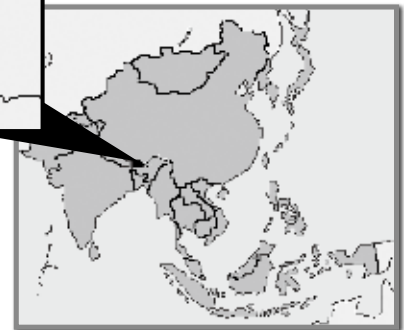
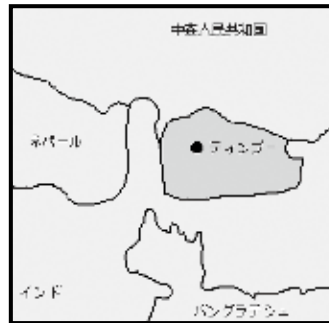
【参考資料】

・ 外務省ホームページ - 各国・地域情勢 (ブータン)

< <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bhutan/index.html> > (2013 年 2 月アクセス)

・ JICA ホームページ - 国別生活情報 (ブータン)

< <http://www.jica.go.jp/regions/seikatsu/ku57pq000005g185-att/Bhutan-p.pdf> > (2013 年 2 月アクセス)



海外研修日程

期間：平成24年7月31日（火）～8月11日（土）

日	曜日	時間	訪問先・活動	主な面会者	場所
7月31日	火	午後	 羽田→バンコク		
8月1日	水	午前	 バンコク→ティンブー		ティンブー
		午後	JICAブータン事務所（ブリーフィング）	仁田 知樹 所長	
8月2日	木	午前	デチェンチョリン小中学校 （JICAボランティア活動視察/学校見学/生徒・教員との交流）	青年海外協力隊 山根 大典氏（体育）	ティンブー
			教育省（表敬訪問）	学校教育局 Mr. Chencho Dorji	
		午後	ブータン国営放送局 （JICAボランティア活動視察）	シニア海外ボランティア 平野 信也氏（放送技術設備）	
			在留日本人との懇親会		
8月3日	金	午前	メラカごみ処理場 （JICAボランティア活動視察）	シニア海外ボランティア 柏木 昭雄氏（廃棄物対策）	ティンブー
			 ティンブー→プナカ		プナカ
		午後	クルタン職業訓練校 （JICA技術協力「職業訓練校の質的強化プロジェクト」視察）	JICA専門家 水野 文雄氏（職業訓練） 馴田 義美氏（電気）	
			プナカゾン		
8月4日	土	午前	クルタン小中学校 （JICAボランティア活動視察/学校見学/生徒・教員との交流）	青年海外協力隊 堀内 美里氏（小学校教諭）	プナカ
			 プナカ → パロ		パロ
		午後	ホームステイ体験	Mr. Pema Dorji一家、他4家族	
8月5日	日	午前	市内散策 （市場、ダシヨ-西岡チオルテン、農業機械化センター訪問）		パロ
		午後	ホームステイ体験		
8月6日	月	午前	デュゲル小中学校 （JICAボランティア活動視察/学校見学/生徒・教員との交流）	青年海外協力隊 榎本 智恵子氏（青少年活動） 平野 好乃氏（体育）	ティンブー
		午後	中間振り返りミーティング		
8月7日	火	午前	タンゴ僧院		ティンブー
		午後	ブータン電力公社 （JICA技術協力「地方電化促進プロジェクト」視察）	JICA専門家 大類 久里氏（地方電化）	
8月8日	水	午前	地方行政局 （JICA技術協力「地方行政プロジェクト」視察）	JICA専門家 津川 智明氏（地方行政）	ティンブー
		午後	市内視察と教材収集		
8月9日	木	午前	教育省（研修報告）	学校教育局 Mr. Chencho Dorji	ティンブー
		午後	JICAブータン事務所（研修報告）		
8月10日	金	午前	 パロ→バンコク		バンコク
8月11日	土	午前	 バンコク→成田着		

海外研修トピックス

◆デチェンチョリン小中学校

青年海外協力隊の活動する学校を訪問し、隊員や現地の先生の授業見学、日本の文化紹介を通してブータンの教育事情への理解を深めました。朝礼時には、全校生徒 1,000 人以上を前に日本の歌と踊り（よさこいソーラン）を披露し、昼休みには生徒たちに「幸せを感じるとき」のインタビューを行いました。



◆ブータン国営放送

1999 年にテレビ放送が開始したブータンに対して、JICA は放送機材の提供やボランティアの派遣等を通じた支援を行っています。シニアボランティアの説明を通して、全国民に情報を届けることを目指したメディア支援は、ブータンの民主化の促進にもつながっていることへの理解を深めました。



◆メラカごみ処理場

首都ティンプーでは、人口の集中や生活スタイルの変化に伴うごみの増加が問題になっています。ごみ処理場に足を運び、都市環境問題の現状と課題について学びました。また、シニア

ボランティアよりごみの分別回収やコンポスト・プラントの運用についての説明を受けました。



◆クルタン職業訓練校

日本の政府開発援助（ODA）事業の一環として、JICA が実施している技術協力プロジェクト「職業訓練校の質的強化プロジェクト」の現場を訪問し、日本人専門家からブータンの雇用問題や、その改善のための人材育成事業に関する話を伺いました。



◆ホームステイ

4 つの家庭に分かれて 2 泊 3 日のホームステイを体験しました。地元の市場を訪れたり、家族と夕食を共にしたり、仏間で就寝したりといった忘れられない異文化交流を通して、ブータンの文化や生活に対する理解を深めました。



◆ダショー西岡 Cholten、農業機械化センター

1964年に日本の初期の国際協力プロジェクトの専門家としてブータンに渡り、現地で28年間農業指導にあたった西岡京治氏を記念する Cholten（仏塔）と農業機械化センターへ訪問しました。ダショー西岡と働いていた現地の方々の話は、日本とブータンの友好関係や国際協力について考える機会となりました。



◆デュゲル小中学校ろう学級

ブータン唯一のろう学級が併設されている学校で、同校で活動している青年海外協力隊の授業見学や教員との意見交換を通して、ブータンにおける障がい児教育についての理解を深めました。朝礼や交流授業では、生徒たちに手話を交えながら日本の歌（上を向いて歩こう）も紹介しました。



◆ブータン電力公社

ブータン政府は2013年までに全国100%電化を目指して、ブータン電力公社が電化を進めています。JICAが資金協力や技術協力を実施している研修センターを訪問し、日本人専門家と現地スタッフの説明を通して、ブータンの地方電化政策と日本の支援について理解を深めました。



◆地方行政局

県や地区の行政にかかる法律や規程を整備している地方行政局を訪問し、行政官よりブータンの地方行政に関して説明を受けました。また、当局で活動する日本人専門家より、ブータンのGNH（Gross National Happiness / 国民総幸福量）政策に関する話を伺い、“幸せを求める国ブータン”への理解を深めました。



◆教育省

教育省を訪問し、ブータンで10日間の研修について報告を行いました。参加者から、ブータンの「教育とGNH」と「日本の支援」の二つの側面から学びの成果をまとめた発表を行うとともに、若者の雇用の促進等の提言もなされました。報告の様子は、当日の夜のブータン国営放送のニュースで放映され、翌朝の新聞「KUENSEL」にも記事が掲載されました。



教師海外研修 私の1枚

in ブータン



10日間のブータンでの海外研修では、様々な学びや出会いがありました。
参加された先生方に、印象に残ったシーンの1枚の写真を選んでいただきました。

出会いと途上国からの学び



何より、この研修での宝は、「出会い」です。すべての出会いが「異文化」、「異業種」、「異年齢」のため刺激的でした。写真を1枚だけ選ぶのに頭を悩ませるほど、すべての出会いが新鮮で、いただいた「言葉」のすべてが学びにつながっています。中でも印象に残った言葉の1つは、「仕事、家族、休息のバランス」です。

名 前 山藤 旅間 学 校 東京都立両国高等学校附属中学校

チョルテンでくるくる



ティンブーのメモリアルチョルテンの周りをタ刻、くるくる歩きまわる人々。僧侶も、一般人も、シーンスをはいた人も、ゴを着た人も、思い思いに、それぞれの思いでお祈りをしています。チョルテンでお祈りの時間を過ごすことはブータン人にとってなくてはならない時間です。

名 前 保坂 理絵 学 校 東京都立田柄高等学校

GNHを実感した瞬間



研修中ずっと一緒に過ごしたバスの運転手、ゴパールさんと撮った写真です。「ご飯が食べられる。冗談が言える。写真が撮れる。仕事がある・・・」これこそがGNHであり、「足るを知る」ということである。ゴパールさんとの何気ない会話からブータンの幸せの源流を感じることができました。

名 前 山口 亮介 学 校 東京都足立区立梅島小学校

幸せな時間の過ごし方



ティンブーの夕方、仕事を終えた人たちが集まってメモリアル・チョルテンのまわりを歩く時間。ソーパンの若者がおじいさんの歩幅に合わせてゆっくりゆっくり歩く姿が印象的でした。

名 前 奈木 いずみ 学 校 東京都立雪谷高等学校

いざ、ブータン！



ブータンへ着いて初めての交流。車を降りたとたん、子どもたちと囲まれ思わず涙しそうになったのを覚えている。無邪気で礼儀正しいその子たちは、ブータンの国民性そのものを象徴しているようだった。交流前の緊張を解き放ってくれたのは、こんなにも多くの笑顔に囲まれたからだと思う。

名前 清水 マヤ 学校 東京都立小平特別支援学校

幸せな家族



仲のいい夫婦、仲のいい兄妹。そして中央には、お婆さんの体調が悪く心配して毎週末通う親戚。二人の兄妹とは、おはじきで遊んだり、ゾンカ語を教えてもらったり、彼らの屈託のなさが忘れられない。お母さんの手料理は辛すぎず、いくらでも食べたい家庭料理。礼儀正しく、温かいぬくもりに包まれた家庭での体験は、まさに「幸せの国『ブータン』」を体現するものであった。

名前 河合 一洋 学校 東京都港区立東町小学校

幸せなひととき



クルタン小中学校で子どもたちと交流した後、みんなでパチリ。その後、1人の男の子が寄ってきて、飴をくれました。心がとても温くなったことを今でもよく覚えています。言葉が通じなくても子どもとは繋がるのだなと思いました。交流はとても幸せなひとときでした。

名前 清水 香奈 学校 群馬県立榛名養護学校

ゴとキラと誇り



「時短テクニック」「早技」という言葉をよく耳にするが、現代人にとっての切実な欲求は時間を短縮することらしい。洋服もその1つ。簡単に着られて機能的なものが良いのだろう。明治維新を境に着物文化を排除していった日本ではすっかり見られぬ光景となってしまった。面倒で着るには時間はかかるけど、相手の手の温もり・思いやりを感じられる民族衣装。ブータン人にとっての「ゴ・キラ」は強制や義務ではなく、誇りであって欲しい。

名前 生形 文子
学校 群馬県立万場高等学校

大きな葉に包まれたモノは？



プナカのローカルマーケットでの一コマ。大きなパラソルで日が当たらないようにして売っているモノは、バターです。マーケットは、その土地の特徴があらわれるもの。こちらでは、バターや、ダツィ（チーズ）などの自家製品のほか、とうがらしをはじめとした野菜類や、仏教の儀式で使うパウダーなどが売られていました。

名前 藤木 正史 学校 東京学芸大学附属国際中等教育学校

ちょっとしたおみやげ



教育省でのインタビュー。What impressed you the most about the Cultural Exchange Program? と聞かれたとき、「JICA」「国際協力」「幸せ(GNH)」「伝統文化」「近代化」、さまざまなキーワードが頭をめぐり、改めて充実した研修であったと実感した瞬間だった。さらに、ニュースとして放映されたことは、ちょっとしたおみやげを頂いた気分であった。

名前 大塚 圭 学校 中央大学杉並高等学校

参加者の声（海外研修報告書から）

◆海外研修の所感

- 現地の人たちの生活・文化やそこで起きている課題について実感を持って体験するという、観光旅行では得られない体験ができた。
- ・ 教員として、まず自分自身が体験を通して、見聞と視野を広げることができた。
 - ・ 研修で得たものは、授業実践はもちろん、子どもたちと向き合う一つ一つの場面に活かされる。
 - ・ 日本人として日本の国際協力を誇りに感じた。
 - ・ 国際協力という仕事は、お互いに学び、共に成長していくことであると実感した。
 - ・ 専門家やボランティアの現地に根差した活動を見て、聞いて、時には共にやってみることで学びを広げられた。
 - ・ 子どもたちの歌や踊りの歓迎を受け、私たちも感謝の気持ちを込めて歌ったり踊ったりしたことで繋がれたと感じた。
 - ・ どの国でも変わらない子どもたちの素朴でキラキラした笑顔が印象に残った。
 - ・ 現地の教員の姿から、忘れかけていた教師の使命を見た思いがした。
 - ・ 校種や年齢の違う教員が集まったことで、見る視点や意見も違い、学びが広がった。
 - ・ 国際理解教育を推進しようとする同じ志を持った仲間と出会い、つながりを持てたことが大きな収穫の一つである。
 - ・ 研修で学んだことを、生徒のみならず、教職員や保護者、地域に還元していきたい。



■児童生徒に伝えたいこと、考えてもらいたいこと

- ・ 日本の常識は、世界の非常識であること。地球レベルで常識とは何かを考えて欲しい。
- ・ 世界で活躍する日本人について伝えたい。
- ・ お金や物資だけではなく、心の幸せについて考えてもらいたい。
- ・ 両親や友達に感謝する心や相手の気持ちを考えることを伝えたい。
- ・ 海外の国を知ることを通して、自国を振り返り、より深く考えようとする態度を養いたい。
- ・ 日本人として、一人の人間として、自分は「どう生きるか」を考えてほしい。
- ・ 国際協力は、一方的な支援ではなく、日本人の暮らしを支えるために必要であることを伝えたい。
- ・ 次世代を担う生徒たちに、国際協力の魅力をもっと伝えていきたい。
- ・ よりよい世界をつくるにはどうしたらよいかを考えてもらいたい。



■今後の参加者へのアドバイス

<海外研修前>

- ・ 事前のメーリングリストによる情報交換は、研修国の情報を得るだけでなく、チームワークを高めるためにも大切なので積極的にコミュニケーションをとると良い。
- ・ どんな授業を展開したいかの構想を練っておくと、現地で情報が収集しやすい。
- ・ 現地での時間は限られているので、「どんな情報を得たいか」「そのためにどんな準備が必要か」を明確にしてチーム内で相談しておくとうい。
- ・ 現地でしか分からないことにフォーカスする

ためにも、事前学習で知識を得ておくことは大切。

- ・メンバーとしっかり対話し、それぞれの特徴を活かした役割分担をすることが研修の充実につながる。



<海外研修中>

- ・ハードスケジュールと日本との環境の違いから、普段できていることでもできないことがあるので、無理しないことが10日間有意義に過ごせる秘訣かもしれない。
- ・その時に感じた疑問や想いをそのままにせず、仲間や訪問先で出会った方にぶつけてみるのが大切。
- ・教材を探すことも目的の一つではあるが、その国を訪れたその教員自身が何よりの教材に

なるので、五感をフルに働かせて多くのことを感じて欲しい。

- ・バスなどでの移動の時間などはぜひ車窓からの風景やそこで暮らす人々の生活、その国の文化をよく欲しい。
- ・単独の観光旅行ではないので協力が大切と分かっているけど、目の前のことに夢中になって忘れがちなので常に意識が必要。
- ・発展途上国では、日本にいるときのように予定通りことが進むとは限らない、というより予定外のことが何かしら起こるもの。何があっても楽しむつもりで構えずに受け入れることが大切。
- ・チームの和・輪・話が、充実した研修につながる。



海外研修同行者より

2011年11月の国王夫妻の来日以来、「幸せの国」として日本でも注目が集まっているブータン。伝統や文化を大切に守りながら開発を進めるブータンで、私たちは温かいもてなしを受け、ブータンの人々が大切にしている思いやりとつながりを実感しました。一方で、グローバル化に伴う課題も目の当たりにし、研修中の様々なシーンで幾度となく、国や個人の幸せについて意見が交わされました。

帰国後、多くの先生方が子どもたちに「幸せってなんだろう？」と問いかけ、日本の暮らしや自分自身を振り返り、「どう生きるのか」「どのような社会を創るのか」を考える授業を実施されました。また、ブータンで活躍する日本人についても触れ、子どもたちに、グローバルな視点を持って地球や自分自身の未来を切り拓いて欲しいというメッセージを伝えられました。このような国際理解教育の実践を通して、世界の問題にも地域の問題にも同じように共感し、自分にできる取り組みを始める子どもたちが育っていくことを期待しています。

JICA地球ひろば 地域連携課 滝下 智佳

Observations from Japanese teachers

THINELY ZANGMO

Physical education and arts is not given as much importance as academics in schools, the 10 teachers from Japan observed from their school visits during their 10-day stay in the country.

VISIT

The teachers were in the country to understand the education system in light of GNH and how its concept was applied in schools.

Yesterday, they shared their observations from the school visits at the education ministry. An English teacher from Japan, Kei Otsuka, said the concept of GNH has become very well known in their country after His Majesty and Gyalsuen's visit. "It is amazing how well spoken the students are in the English language whereas in Japan even if English is taught from junior schools, most do not speak that well," one of the presenters said.

"The main difference we found between Japanese and Bhutanese schools was about culture and tradition," a teacher said. "While teaching in Japan, we sometimes don't care about our culture and tradition but I was very impressed with the way Bhutanese teachers uphold and respected the culture and traditions."

The Japanese teachers



While teaching in Japan, we sometimes don't care about our culture and tradition but I was very impressed with the way Bhutanese teachers uphold and respected the culture and traditions"

Teacher

agreed that there are similar problems faced by teachers in both countries such as discipline issues and teaching methods. "Discussing education system in the future will be a great opportunity for teachers from both the countries," one of them said.

Education officials with the education ministry said they are looking into introducing Arts in the curriculum and that teachers taking bachelor's degree in physical education from Paro and Samtse College of education will soon be out to teach in schools.

Program officer of volun-



10 teachers, 10 days: The volunteer teachers leave for Japan today

teer and training program with JICA, Tshering Palden, said the teachers visited Dechencholing middle secondary school, Drukgyel lower secondary school, Kuruthang Institute of electrical engineering, Bhutan Power

Corporation, garbage disposal plant at Memelakha, Bhutan Broadcasting Services and the department of local government.

"They observed how other volunteers from JICA were

teaching in these schools and even took some classes on Japanese culture," Tshering Palden said. The Japan International Corporation Agency has been supporting Bhutan for the last 24 years.

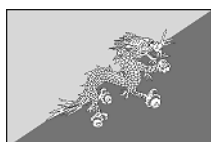
授業実践

研修を活かした国際理解教育の事例



※教員、および児童/生徒の原文を活かして掲載しています。一部表現のばらつきがありますがご了承ください。
※過去の実践事例を、JICA地球ひろばのホームページに掲載しています。

<http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/teacher/>



学校名：東京都港区立東町小学校

氏名：河合 一洋

[担当教科：小学校全科]

- 実践教科等：道徳
総合的な学習の時間
- 時間数：6時間
- 対象生徒：4年生
- 対象人数：14人

[1]単元名

多文化共生社会を目指して ～ブータンを通して考える『幸せ』と『自分』、そして『日本』～

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・ブータンの文化・生活を通して、文化の多様性を知る。
- ・「幸せ」に必要なものを考え、多様な価値観に気付く。
- ・日本以外の文化を知ること、日本の文化や自分の住む地域、学校を見つめ直す。
- ・世界で活躍する日本人の姿から、自分の夢や生き方について考える。
- ・自分の考えや気持ちを、人へ伝える力を高める。
- ・お互いの考えを受け入れ、協働的に活動していく大切さに気付く。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1	【「幸せ」って何？「幸せ」に必要なものは何だろう？】 ・自分にとっての「幸せ」「豊かさ」とは何かを考える。 ・友達の意見なども聞き、幸せについて考え方の多様性に気付く。	・「幸せ」についてのアンケートを実施する。 ・友達と考えを共有する。 ・国民の90%以上が「幸せ」だと感じている国があることを知る。 ・「幸せの国」とはどんな国か、イメージを共有する。	・アンケート用紙 ・ワークシート	・アンケートやワークシートの記述の確認
2 3	【幸せの国「ブータン」ってどんな国だろう】 ・ブータンの文化や生活の様子を知り、ブータンのイメージをつかみ、興味をもつ。 ・ブータンと日本との価値観の共通点・相違点に気付く。	・クイズなどを通して、ブータンの衣食住などの生活の様子を知る。 ・ブータンを写真から分析し理解を深める。 ＜フォトランゲージ＞ ・「幸せの国」に抱いたイメージの予想と実際を照らし合わせる。 ・自分にとっての幸せと、ブータンの同世代の子たちの幸せとを比較する。	・パワーポイント ・ワークシート ・実物のミニ車 ・民族衣装「ゴ」 ・映像資料	・学習活動の観察 ・ワークシートの記述の確認
4	【GNHに学ぶ】 ・「幸せ」には多種多様なとらえ方があることに気付く。 ・ブータンの人々が大切にしていることを確認する。 ・自分の「幸せ」へのとらえ方を振り返る。	・ブータンの人たちが感じている「幸せ」の要素を考える。 ・ブータンのGNH(国民総幸福量)の考え方を紹介する。	・映像資料 ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシートの記述の確認

5	【世界で活躍する日本人】 ・西岡京治さんのブータンでの活躍を知る。 ・青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、JICAの活動を知る。	・西岡さんがブータンに遺したものに気付く。 ・ブータンで活躍するJICAの人たちや、日本人の活動や考えを知る。	・ワークシート ・パワーポイント	・学習活動の観察 ・ワークシートの記述の確認
6	【世界と日本とのつながり】 ・世界の中での日本人としての生き方を考える。	・自分たちのくらしで「幸せ」を増やすためにどんなことができるだろう ・これから日本人として大切にしていきたいことを考える。	・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシートの記述の確認

〔4〕授業の詳細

1 時限目：【「幸せ」って何？「幸せ」に必要なものは何だろう？】

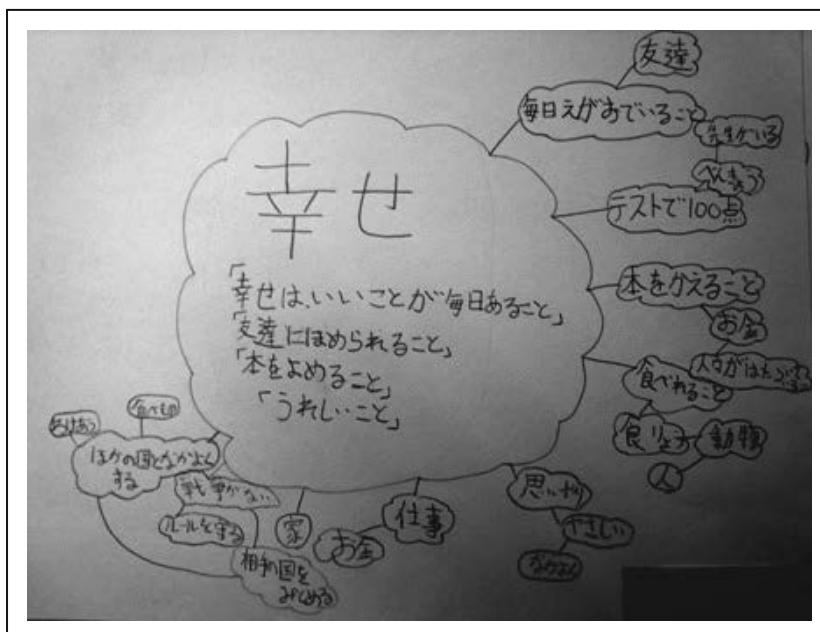
まず、幸せについてのアンケートを行った。このアンケートを行うことにより、自分がどんな考えをもっているのかを当事者に改めて認識させる。また指導者はそのアンケートを参考に、今後の変容をみとっていく。（右の写真は、児童のアンケート例）

次に各自で「幸せとは何か」をテーマに、ウェビングマップ方式で発想を広げていくことにした。中心に「幸せ」を書き、周りにそこから発想されるものをどんどん書いていく。なお、この時間は学校公開にあてたため、児童だけでなく保護者にも参加していただいた。そして自分の考える「幸せ」について、代表者数名が発表した。

ココがポイント！

幸せについては、個人の考えを尊重し、まずは自由な発想で書いていく。また学校公開などで保護者がいれば参加していただき、大人の考えを発表してもらえ则认为が広がり、盛り上がりを見せる。

（下の写真は、児童が書いた「幸せ」マップ例）



そして最後に、1グループ4人づつに分かれて、自分たちの考える「幸せの国」を話し合い、発表した。

「幸せの国」とは・・・

仲の良い家族・生き物を大切にすること・学校がある・給食が食べられる・仲間がいる・いじめがない・環境がよい・地震がない・台風がない・戦争がない・みんな仲が良い・ケンカがない・自然がいっぱいある・食べ物がある・いつでも食べられる

（あるグループのまとめ）

授業実践

– 24 –

5 時限目:【世界で活躍する日本人】

ブータンの農業指導に深く関わった西岡京治さんについて、5年生の道徳教材を使用し学習した。西岡さんがブータンに遺したものの、そして国際貢献にかける情熱。その長きにわたる農業指導の苦勞と、ダショーの称号を授かるほどの功績は、児童たちにとって国際貢献を考える契機となった。

この後、ブータンで活躍する青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、JICA の活動をパワーポイントで写真を効果的に使って児童に伝えた。

(パワーポイントの内容は[8]使用教材を参照。)



6 時限目:【世界と日本とのつながり】

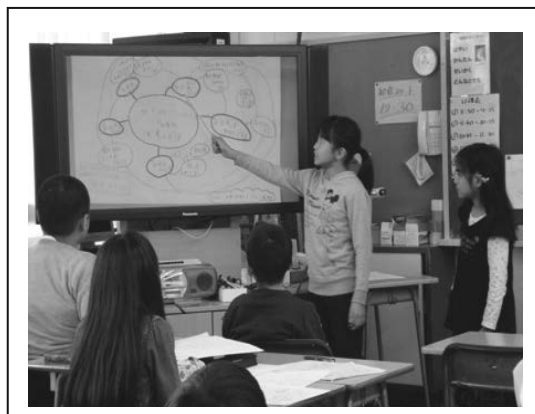
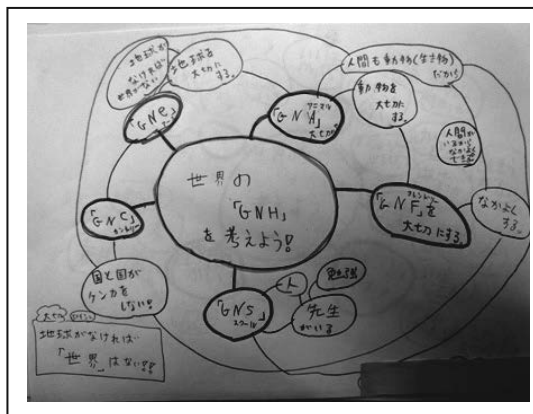
最後の授業に入る前に、ある宿題の答え合わせをした。それは「日本がもっと幸せな国になるためには？」というテーマで家族にインタビューする宿題であった。

- ・子供たちがたくさん勉強できること、そしてその子供たちが未来の日本をささえること、地球にやさしい社会をつくること
- ・一人ひとりが互いに思い合う心をもつこと
- ・一人ひとりがみんなに迷惑をかけない、みんなが前向きになる、優しい気持ちになる、経済が安定する
- ・夕御飯を家族全員で6時に食べられるようにする。
- ・戦争がない国、何にも困らない国、貧しい人がいなくなる国
- ・一人ひとりが今の現状を幸せだと思うこと
- ・無駄なことはしない。コミュニケーションを大事にする。不便を楽しむ。

それぞれ調べてきた答えを、児童は真剣に聞いて、同じようにウェビングマップにまとめた。そして本題である「世界の GNH について考えよう」というテーマについて取り組んだ。いままで学習してきた中で、「幸せ」には多くの要素があることがわかった。よって仲間と話し合い、大切な柱を5つにしぼることで独りよがりにならない、「世界の幸福」を考えてみることにした。短い時間ではあったが、4つのグループに分かれて話し合いをし、それぞれが発表をして本単元のまとめとした。

.....
ココがポイント！
.....
条件をしぼること
.....
で、万人にとって
.....
大切な幸せの要
.....
素について考える
.....
ことができる。
.....

A group	B group	C group	D group
・健康	・思いやりをもつ	・GNC(カントリー)	・自由
・平和	・自分の長所を大切にする	・GNS(スクール)	・仲間
・食糧	・礼儀正しさ	・GNF(フレンドリー)	・ゆとり
・家族	・健康な生活	・GNE(アース)	・安全
・生存	・一人ひとりが楽しいと思える社会	・GNA(アニマル)	・健康



[5]児童・生徒の反応/変化

今回の単元でのねらいは大きく分けて二つあった。一つ目は「幸せ」についての考え方を広げ、深めていくことである。その点、単元のはじめでは「幸せ」といっても、ピンとこなかったり、視点が浅い児童が多かったが、授業を進めるにつれて、自分だけでなく「他」を意識した幸せの捉え方をするように変化していった。また二つ目のねらいは、お互いの考えを伝え合い、共有することで、より広い考えまたは新たな考えを生み出すことであった。この点でも、話し合うことが徐々に浸透する中で、仲間同士でお互いの考えをまとめ、高めていく様子がみられた。

[6]授業実践の成果と課題

成果としては、[5]で記述した点、および世界への見聞をまたひとつ深めたこと、そして学校公開や宿題を通して、保護者の方々とも「幸せ」について考えることができ、より広い活動になったことである。

しかし課題として残るのは、GNH の考え方をはじめとするブータンの人々の「幸せ」感を、児童に十分に味わわせることができなかったことである。資料映像や写真では、国王の存在感やチベット仏教といった現地の様子を、十分に伝えることは難しいことを痛感した。

[7]参考文献(引用文献・参考資料)

- ・「私たちの地球と未来『ブータン王国』」(公益財団法人 愛知県国際交流協会 2012年3月)
- ・「ブータンに日本の農業を」小学校道徳副読本かがやけみらい(5年)(学校図書 平成21年)
- ・「アグネスの教育アドバイス: 幸せの国ブータンの教育事情」(内田洋行 教育総合研究所)

[8]使用教材(写真／図などの実物)

<ブータン紹介編>

世界一「●●」の難しい空港

正解は「着陸」。国のほとんどが山地です。

ブータン・クイズ

ブータンの人口はどのくらいでしょう？

①日本	1億3000万人
②東京都	1300万人
③大田区	70万人

正解は③「大田区」でした！
人口は約70万人です。

世界で唯一●●のない首都

答えは「信号」でした。昔、信号を作ったのですが、この国にあわしくないと手旗信号に戻しました。

首都●●●●●：人口は約10万人

ちなみに江戸の人口(1600年ころ)は？
15万人！

ブータンは世界初の●●国

宗教的な面から喫煙は禁品。2004年には「禁煙」国家を宣言



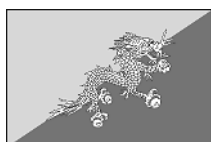
<世界で活躍する日本人編>



[9]教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

今回研修を終え、多くのことを感じ学んできたつもりであったが、いざ授業の題材にするととなると、この特徴的なブータン王国ですら難しいと痛感した。一方的なお国紹介では広がりや深まりがなく、とはいえ小学4年生の経験の中で、有意義な国際理解教育につなげるにはどうしたらよいかを模索し続けたように思う。本校の研究とも合わせて、「幸せ」と「話し合い」をテーマに絞って授業を展開したが、他のアプローチではどうだったかと考えは尽きない。

しかし他校の研修メンバーの授業を参観し、協議することで、非常に刺激を受け、さらに多くのことを学んだ研修であったと思う。この経験を活かし、さらに国際理解教育への研鑽に励みたい。



学校名：東京都足立区立梅島小学校

氏名：山口 亮介

[担当教科：小学校全科]

- 実践教科等：外国語活動、
道徳、総合的な学習の時間
- 時間数：12時間
- 対象生徒：小学6年生
- 対象人数：37人

[1]単元名

ブータンから世界へ、そして日本へ、自分へ

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・ブータンの国土や文化、生活様式について興味をもつ。
- ・世界(ブータン)の文化・生活様式を知ること、日本の文化を見つめ直す。
- ・世界で活躍する日本人の姿から、自分の夢や生き方について考える。
- ・異文化との出会いから、課題を見出だして調べ、自分なりの考えを持つ。
- ・「幸せ」に必要なものを考え、多様な価値観に気づく。

[3]単元の構成

時 限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1	【ブータンを知ろう】	・5ヒントクイズをする。 「どこの国に行ったでしょう？」 ・ブータンクイズをする。	・地図 ・国旗 ・写真 ・民族衣装 ・お土産 ・紙幣 ・パワーポイント	・学習活動の観察
2	【ブータンで活躍する 日本人①】	・「ブータンに日本の農業を」 (道徳 5年 学校図書)から なぜ、西岡京治さんがブータン で成功したのかを考える。 ・ブータンで活動している青年 海外協力隊員を紹介する。	・写真 ・副読本 ・パワーポイント	・話し合いの観察
3 4	【ブータンで活躍する 日本人②】	・ブータンで活躍した元青年海 外協力隊員の話聞く。	・写真 ・パワーポイント ・民族衣装 ・お土産(お茶) ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート
5	【ブータンに学ぶ】	・GNH(国民総幸福)の考え方を 紹介する。	・DVD ・模造紙	・学習活動の観察
6 7 8 9 10	【ブータンから世界へ そして、日本へ】	・ブータンから学んだことを生か して、調べてみたいことを考える ・課題別グループで調べ、発表 (ポスターセッション)する。	・模造紙	・学習活動の観察 ・ワークシート ・発表
11	【本当の幸せとは何か？】	・ディベートをする 「どっちが幸せ？物質的な豊か さと精神的な豊かさ？」		・学習活動の観察
12	【ブータンから世界へ そして日本へ、自分へ】	・これまでの学習活動を振り返り、これから日本人(人間)として大切にしていきたいことを考える。	・ワークシート	・ワークシート ・学習活動の観察

〔4〕授業の詳細

1 時限目：【 ブータンを知ろう 】

◆5ヒントクイズ

羽田空港で撮った集合写真を提示し「どの国に行ったでしょう？」とクイズを出した。

ヒント1 お土産を見せた。

ペンケース、コースター、バック、ルンタ ②CD を聴かせた ③レモングラスを嗅がせた

ヒント2 言語を紹介した。(ゾンカ語)

こんにちは(クズザンポー) ありがとう(カンディチェ)

ヒント3 通貨を紹介した。

ニュルタム(1円・・・1.5ニュルタム)

ヒント4 5枚のブータンの写真を紹介した。

街並、学校、料理、国技(アーチェリー)、お店

.....ココがポイント！

.....興味・関心をもっともうために、クイズ形式にした。また、五感を使いお土産を提示したことで、児童は、ブータンを体全体で感じる事ができた。

◆ブータンクイズ

パワーポイントを使い、テンポよくクイズを出した。(場所、首都、国旗、面積、人口、料理、宗教等)

●児童の感想

- ・お土産やクイズを通して、ブータンに興味をもつことができました。
 - ・ブータンについてたくさんのがわかりました。面白いし、とても勉強になりました。これから、ブータンの学校や国民の暮らしについて調べたいです。
 - ・ブータンクイズをやって日本と違うところがたくさんありました。驚いたことは、国王を尊敬していることです。服にバッジを付けるくらいなので本当に尊敬しているのだと思いました。
 - ・ブータンの言語、国教、文化などいろいろなことがわかったのよかったです。特に首都に信号がないということにびっくりしました。私も一度ブータンに行ってみたいなと思いました。
 - ・ブータンの細かいことがよくわかった。他の国もやってみたい。特に民族衣装を調べたい。
 - ・とても平和な国だとわかり、興味が出てきました。是非、これから調べたい。
 - ・ブータンの暮らしなどから、「幸せとは何か」を見つけ、これからの生活にも生かしたいと思いました。
- 次回のブータンの授業がすごく楽しみです。
- ・ブータンの王室について調べてみたいです。

2 時限目：【 ブータンで活躍した日本人① 】

◆『ブータンに日本の農業を』(かがやけみらい 5年 学校図書)を読み、「なぜ、西岡京治さんがブータンで成功したのか」を考えさせた。その後、パワーポイントを使い、研修中に実際に訪問した、パロの市場、西岡 Cholten (仏塔)、農業機械化センターを児童に紹介した。最後に、ブータンで今、現在活躍している青年海外協力隊員、シニアボランティア、専門家の方々を紹介した。

.....ココがポイント

.....実際に訪問した、パロの市場や西岡 Cholten、農業機械化センターの写真を提示しながら授業を展開することで、児童の興味・関心が高まり、考えが深まった。

●児童の感想

- ・自分の力をブータンに全てさげる西岡さんの気持ちにとっても感動しました。自分の意見を否定されても落ち込まず、ただ前だけを見て頑張ってきた姿に感動しました。
- ・今回一番驚いたことは、西岡さんがダショーという最高の称号をもらったということです。同じ日本人としてほこりに思います。
- ・ブータンの人々にあれだけ立派なチオルテンを作ってもらえるほど、ブータンで活躍した西岡さんは、すごいと思いました。
- ・世界で活躍できるっていいなと思いました。これから、大変なことがあっても、ねばり強く西岡さんのように世界で活躍したいと思いました。また、そのために、色々な世界を知りたいです。
- ・日本とブータンは、深い関わりがあることがわかった。
- ・西岡さんのねばり強さがすごかったし、時間をかけても理解してもらえるようとする根性がすごかった。
- ・西岡さんは、すごい人だと感動しました。次は、実際にブータンで青年海外協力隊員として活躍された先生が来てくださるそうです。「ブータン王国は、どんないいところがあるのか質問したいです。」

3・4時限目：【 ブータンで活躍した日本人② 】

◆元青年海外協力隊員（ブータン体育）西浦信幸先生、関健作さんによる出前授業を行った。

●児童の感想

- ・この2時間でブータンは、素敵な国だと改めて思いました。1日1日を笑顔で楽しそうに過ごしているスライドを見て、なんだか素敵だなあと思いました。
- ・家から学校まで3時間もかかる子どもがいると聞いて驚きました。
- ・今日の授業を通して、「今を楽しく生きる」、「感謝」の2つを学びました。今までの生活ではわからなかったことをブータンの人たちに教えてもらいました。
- ・印象に残ったのは、ブータン人の性格です。日本人は、向上心があって、ここがだめだと思ったら直そうとします。しかし、ブータン人は、いつも通りの暮らしに満足していて、変えたいと思っていないようでした。そういう国民の考え方が幸せだと思っている国民の増加につながっているのかなと思いました。
- ・ブータンの子供たちは、体育を知らなかったそうなので、1から教えるのは、とても大変だったと思いました。でも、最後には、子どもたちが体育を好きになったのでとても感心しました。
- ・西浦先生や関さんのように世界で活躍できるような人になりたいです。
- ・今、住んでいる日本の良い所もたくさん知りたいです。
- ・今日1日でぼくのブータンへの意欲と知識がとても高まりました。

5時限目:【 ブータンから学ぶ 】

- ◆GDP(国民総生産)とGNH(国民総幸福)の世界ランキングを提示し、「これは、何のランキングか」をグループで考えさせた。正解を発表し、GDP と GNH について、簡単に説明した。そして、DVD「未来世紀ジパング【池上章がブータンへ！ ついに“幸福の国”の秘密があきらかに】」を視聴した。最後にGNH(国民総幸福)の4本の柱、9つの指標を紹介した。

6・7・8・9・10時限目:【 ブータンから世界へ、そして日本へ 】

- ◆今までのワークシート(イメージマップ)を振り返り、ブータンについて、ブータンから学んだことを生かして、さらに調べたいことを考えさせた。児童から出た意見を参考に、次の9つの課題別グループに分けて、調べ学習を進めていくことになった。

●9つの課題別グループ

・ゾンカ語(言語)→世界の言葉 ・ニュルタム(通貨)→世界の通貨 ・ゴ、キラ→世界の民族衣装
 ・ブータンの国旗→世界の国旗 ・アーチェリー(国技)→世界の国技 ・ブータン料理→世界の料理
 ・ターキン(国獣)→世界の国獣 ・西岡京治さん→世界で活躍した日本人 ・バター茶→世界のお茶

- ◆7・8・9時間目にインターネットを使い調べ学習をした。模造紙へのまとめの作業も同時並行に行った。また、終わったグループから発表の練習にも取り組ませた。

◆10時間目 「ブータンから世界へ、そして日本へ」発表会

課題別グループを前半と後半に分け、ポスターセッションによって発表をさせた。最後に参観された校長先生、一緒に参加した研修メンバーから授業の感想をいただいた。

●児童の感想

- ・世界には、日本と違ったたくさんの文化があったことがわかり、おもしろかったです。これから、世界の色々な出来事に目を向けていきたいです。
- ・発表が終わると、笑って拍手をしてくれてうれしかったです。発表していて、とても楽しかったです。達成感あり、やってよかったと思いました。
- ・特にわかりやすかったのが、世界の通貨です。色々な国のお金にのっている人のちょっとした説明や日本円に直すとどうなのかをきちんと説明していて、とてもわかりやすかったです。また、私たちがいつも使っている日本のお金についての説明もありました。
- ・特におもしろかったのが国旗グループです。国旗には、願いや思い、宗教など複雑な意味が込められていたことに驚きました。日本の国旗の意味、成り立ちが知れてよかったです。
- ・この発表を聞いて、世界の風習や伝説を調べてみたいと思いました。
- ・特に興味を持ったのは、世界で活躍した日本人です。僕も世界で活躍したと思いました。

11時限目:【 本当の幸せとは何か？ 】

- ◆「どっちが幸せ？物質的な豊かさと精神的な豊かさ」をテーマにディベートをした。物質的な幸せチーム(11人)、精神的な幸せチーム(26人)で対決した。3回戦(討論7分、作戦タイム3分)を行い、勝敗は、参観してくださっていた先生にお願いした。結果は、26対26で同点だった。本当にすばらしいディベートになった。

●児童の感想

- ・ダライマラ14世が言ったようにGDP6、GNH4の割合で良いと思います。「足るを知る」っていい言葉だなと思いました。
- ・物質的な豊かさがあるからこそ、精神的な豊かさが生まれると思いました。
- ・どちらを求めるかは、国や国民によって違うものであり、どちらが良いのかはわかりません。
- ・色々な国にたくさんの文化があるように、色々な人に色々な考え方があるとわかりました。
- ・幸せとは、自分自身で決めるので、その基準は、自分が幸せと思えば幸せなので、答えは、ありません。
- ・精神的な豊かさが必要だけど、今、日本に住んでいて幸せだから物質的豊かさは、大切だと思いました。
- ・精神的な幸せを選びました。ずっと日本に生まれてよかったと思っていたので、ギリギリまで悩みました。わかったことは、ほどほどの満足(足るを知る)をすれば幸せになれるということです。ブータンの人々は、まさにそれにあてはまっていると思いました。
- ・ブータンの学習から世界や日本のことを学んでGDPとGNNのどちらを意識するかでディベートをしました。私は、精神的な豊かさが幸せにつながると思い、GNHを意識する側にいました。日本は、GDPやGNHの差が激しいのでGNHも大切にしていってほしいです。

12時限目:【ブータンから世界へ、そして日本へ、自分へ】

- ◆今までの学習を振り返り、「印象に残ったこと、心を動かした言葉や資料・写真、今までになかった新しい考え、視点、今日から生かせること、自分の中に取り入れたいこと」を短い言葉でワークシートに書かせ、一人一人に発表させた。

●児童が書いた言葉

- ・足るを知る(14人) ・物と絆 ・今を大切に生きる ・今、生きていることが幸せ
- ・未来の世界で活躍 ・GDPもGNHも両方大切 ・活躍できる ・幸せ? ・笑顔
- ・幸せ お金で買えない物がある ・みんな求める幸福は違う ・幸せの意味
 - ・お金があれば幸せだって買える!! ・世界に通じるGNH ・今が幸せならそれでいい
- ・今、生きていること ・今、食べる物があり、家族と暮らせて、生きていることが幸福

[5] 児童・生徒の反応／変化

1) 世界に目が向けられるようになった。(児童の感想)

- ・この授業を通して、ブータンのことだけでなく、世界のことまで知ることができました。今まで、「世界とは何なのか」を考えたこともありませんでした。世界に興味をもつことができ、世界で活躍したいと思いました。
- ・今まで世界に目を向けるといっても、アメリカや中国などの大国にしか目を向けていませんでした。でも、今回の授業のおかげでブータンやネパールなどの小国にも目を向けていけるようになりました。

2)「幸せ」には、多様な価値観があることに気が付いた(児童の感想)

・ブータンの勉強を通して、幸せとは何かということを考えるようになりました。そして、今での幸せの考え方と、今(授業後)の幸せの考え方では、ずいぶん変化したと思います。お金があるから幸せなのではなく、自分の心が豊かであることが幸せなのであることを学びました。やはり、僕は精神的な豊かさがあり、物質的な豊かさもほどほどあること(足るを知る)が幸せだと思いました。

【6】授業実践の成果と課題

【成果】

- ・ブータン王国から出発して、世界と日本の文化の違いについて実感してくれた。また、学習活動から興味・関心を持ったことを調べ、自分たちの言葉で発表することができた。
- ・世界で活躍する日本人を紹介したことで、自分の夢や生き方について考えることができた。
- ・実際に研修中に訪問した写真や画像を授業で使用したので、説得力があり、効果的だった。
- ・一緒に行った研修メンバーの授業を参観することで、新しい視点やアイデアをもつことができ、指導計画の作成や授業に生かされた。
- ・最後にディベートをしたことで、「幸せ」についての多様な価値観に気づくことができた。

【課題】

- ・幸せの国ブータンに行ったので、「幸せ」というテーマを柱にもっと深く授業展開ができればよかった。
- ・授業実践をもっと学校全体に広めたかった。特に「ポスターセッション」の発表会は、下学年(4・5年生)を対象にできれば、さらによかった。

【7】参考文献(引用文献・参考資料)

- ・ブータンの朝日に夢をのせて～ヒマラヤの王国で真の国際協力をとげた西岡京治の物語～

【8】使用教材

- ・かがやけ みらい 道徳5年 東京都版 学校図書
- ・テレビ東京「未来世紀ジパング【池上章がブータンへ！ ついに“幸福の国”の秘密があきらかに】
2012年8月6日(月)夜10時00分～夜10時54分放送

【9】教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

「夢」、「始まり」。この一年間の研修を通して強く心に残った言葉です。

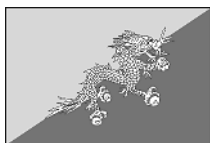
【夢】

「教師とは、夢を語る仕事」と JICA 地方行政支援プロジェクト津川専門家から声をかけていただきました。この1年間の研修の中で、ブータンの子供たちや先生方と、JICA のスタッフ(協力隊員など)と、そして、我々10人のメンバーと、「夢」をいっぱい語り合いました。お互いの想いをぶつけ合いました。ブータン王国というフィルターを通して、日常生活では、絶対に味わうことのできない体験をいっぱいさせてもらいました。「見通しを持ち、一步一步着実に進む」。夢の実現に向けて、これからもこの研修で出会った仲間を大切に、前を向いて歩んでいきたい。

【始まり】

9日目の振り返りミーティングでブータン JICA 事務所仁田所長から次のようなお言葉をいただきました。「みんなの言葉から、『始まり』を予感した。この10日間の研修を是非、『始まり』にしてほしい。これからの皆さんの活躍を期待しています」。

「このブータンの授業実践を通して、何か新しい視点や考え方を学んでもらいたい。そして、新しい自分に気づき、行動してほしい。夢に向かって進んでほしい。」という願いをこめて授業をしました。1時間、1時間の授業の中で子供たちは、しっかりと受け止め、一生懸命考えてくれました。私自身も四苦八苦しながらも子供たちに寄り添いながら、取り組んできました。「終わりは、始まり」。授業実践は、終わってしまいましたが、これからも貪欲に新しいことにチャレンジしていきたい。



BHUTAN

学校名：東京都立両国高等学校附属中学校

氏名：山藤 旅間

[担当教科：理科(生物)]

- 実践教科等：
総合的な学習の時間
- 時間数：7時間
- 対象生徒：中学2年生
- 対象人数：117人

[1]単元名

私の「幸せの地図」を描こう

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・「幸せの島」を描き、必要なものを島の中に、不必要なものを島の外にだすことを通し、「幸せ」に必要なキーワードを探す。
- ・「幸せ」について考える経験として、今までの学校生活、中2で実施した職場体験とイングリッシュキャンプ、被災地でのボランティア活動、さらにはブータンの話を通して考える。
- ・ブータンを通して、幸せの「本質」を実感すると同時に、異文化への興味関心を高める。
- ・ブータンやイングリッシュキャンプを通し、日本を「外」から見る視野を養う。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1、2	【ブータン研修の紹介】 ブータンならではの写真を中心に、教員研修の追体験	ブータンの写真をスライドで見せながら、何を感じるかを班で話し合う。さらに、疑問を感じたり、興味を持った内容についてワークシートに記入し、発表する。	ブータン研修の写真(パワーポイント)	ワークシートの記入の確認(疑問・興味を記入できているか)
3	【幸せの地図の描き方】 幸せの地図とは？ 幸せの地図の書き方(ルール)の紹介	幸せの地図に入れたいキーワードと外したいキーワードを個人作業で考える。	・ワークシート ・今までの学年通信 ・行事ファイル	ワークシートへの記入
4	※研究授業 【ブータンの教育から学ぶ】 1,2とは違い、メッセージを絞ってプレゼン。ブータンから学ぶ、日本での学びで大切なことを考える。	日本という環境について、途上国ブータンと比較しながら考える。 情報と物質が溢れる日本で、情報の「使い方」について生徒一人ひとりに考えてもらう。	・パワーポイント(比較の写真) ・ワークシート	ワークシートへの記入
5	【被災地から学ぶ】 被災地の体験、被災地の方からの講演を通して、「幸せ」について考える。	幸せの本質にせまる。 真の幸せとは「自立」することである。援助を受けているばかりでは幸せになれない。	・ワークシート	・個人の疑問や感想の記入
6、7	【幸せの地図を描く】 今までの経験を通し、幸せの地図を作製する。	幸せの島に入れたいもの、入れたくないものを班で相談しながら描く。	・今までの教材	班で協力をし、模造しに「幸せの地図」を描き、発表をする。

[4]授業の詳細

1・2時限目:【 ブータン研修の紹介 】 ※添付資料①を参照

スライドの内容

学校(授業の様子、制服)、ホームステイの様子、町の様子、国道、景色(棚田、ヒマラヤ山脈など)、ゴミ捨て場、地方行政局、テレビ局、食事、職業訓練所、僧院

→日本のマスコミが取り上げるブータンのイメージを変えることができた。また、ブータンを通し、国際理解の視点や興味を喚起することができた。

ココがポイント!

- ・日本との関わり(JICA 支援)を感じさせる写真
- ・日本の当たり前が当たり前でないブータンの現状

3時限目:【 幸せの地図の描き方 】 ※添付資料③(左)を参照

「幸せ」をキーワードにして、自分の人生に必要なこと(=幸せ)について、今までの学校行事や授業等から学んだことを思い出し、キーワードを抽出させる。

→今までの学校行事や授業のすべてが「学び」であり、未来につながる「点」であったことを理解させることができた。

4時限目:【 ブータンの教育から学ぶ 】 ※添付資料②、③(右)を参照

ブータンと日本の比較。写真だけをみせて、相違点を班で話し合い、みんなの前で発表してもらった。

→途上国のブータンを通し、情報や物質が溢れる日本だからこそ、どのように情報を使うのか、何が本当に必要なもの(物質)なのかを自分で考えてもらうことができた。

ココがポイント!

- ・日本とブータンの違いを想像させる
- ・本当に必要なものは何か、途上国から教えてもらえることを実感させる

5時限目:研究授業【 被災地から学ぶ 】

本時の前(金、土、日)で、被災地(岩手県大槌町吉里吉里)でのボランティア体験から学んだことを整理した。また以下の方々の講演を聞いた。

・被災地のボランティアセンターの芳賀氏

・被災地のボランティア活動が続ける明治学院大学教授の浅川教授

→浅川教授からは、「誇りは、他人に評価を受けて初めて生まれる。つまり、他人に評価をしてもらい、ほめてもらうことは大切」ということから、人間は支えられて生きていることを理解した。また「笑顔」の本質も学ぶことができた。一方、関谷氏からは、「支援を与え続けられているうちは真の幸せはつかまない。自立してこそ初めて幸せになれる」という深い言葉をいただいた。

途上国で学んだ経験とつながることがたくさんあった。

6・7時限目:公開授業【 ブータンの教育から学ぶ 】 ※添付資料④を参照

今までの学びを活用し、6人で1班で模造紙に「幸せの島」を描き、付箋を使って、必要な言葉はその中に、不必要な言葉は外にだして、みんなが幸せについて考えた。

ココがポイント!

- ・幸せの島に必要なものを付箋をつかって書き入れ、班で整理をさせた。

公開授業に位置付け、保護者や一般の方の授業参観もしていただき、各班に入り、大人の視点での言葉も加えてもらった。

→島の中には、「愛」「家族」「笑顔」「命」「誇り」「感謝する心」「協力」がどの班にも共通して取り入れられていることが印象的だった。また島の輪郭に、「情報」「インターネット」「お金」があり、使い方次第で幸せにも不幸せにもすると発表している班がいくつかあったのも印象に残る。

〔5〕児童・生徒の反応/変化

日本の幸せへの感謝とともに、本当に必要なものとは何かを考えたいという感想が多くみられた。また、「自立」する重要性も理解しつつ、支えてくれる親や仲間感謝する気持ちも発表していた。「愛」「家族」「笑顔」「命」「誇り」「感謝する心」「協力」というキーワードが共通して取り入れられていることが印象的だった。 ※添付資料④を参照

〔6〕授業実践の成果と課題

今後も、国際理解にかんする視野の授業を続けていきたい。また、毎年実践し、学年ごとの違いを比較し、生徒にも考えてもらいたい。

〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『地球の歩き方・ブータン』 地球の歩き方編集室
- ・『ブータン、これでいいのだ』 御手洗 瑞子 新潮社
- ・『幸福の国ブータンに学ぶ 幸せを育む生き方』 永田良一 同文館出版
- ・『ブータンに魅せられて』 今枝由郎 岩波新書

〔8〕使用教材(写真／図などの実物)

添付1 使用したスライドの一部



添付 1-1 ブータンでの出会い①



添付 1-2 ブータンでの出会い②



添付 1-3 ホームステイの思い出



添付 1-4 ブータン首都ティンプー

添付2 授業で使用した比較写真



添付 2-1 日本の授業風景とブータンの授業風景の比較



添付 2-2 日本の子供部屋とブータンの子供部屋の比較

添付3 使用したワークシート例

幸せの地図を描く①

○幸せの地図に入りたいキーワード

○幸せの地図から外したいキーワード

●あなたの「幸せの地図」を描こう

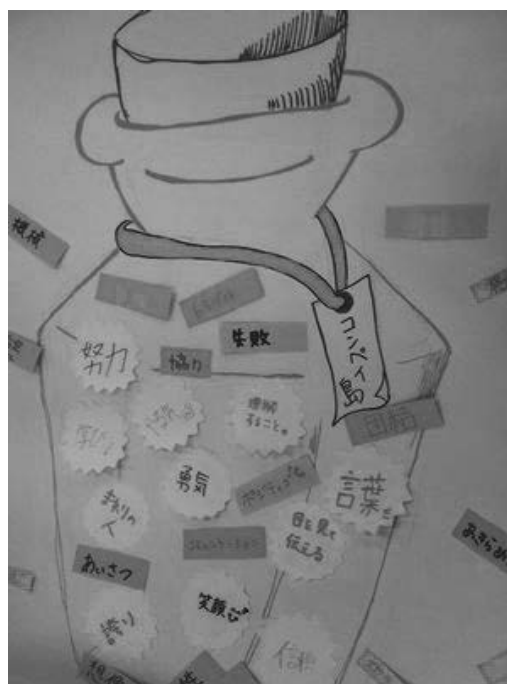
幸せの地図を描く②

課題①日本とブータンの授業の相違点とは？

課題②日本とブータンの部屋の装置点とは？

課題③日本という環境で学ぶ際、大切にしないといけないことは？

添付4 生徒の描いた「幸せの地図」



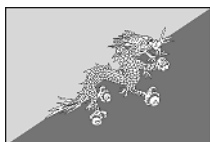
個人の情報をもとに、6人1班として「幸せの地図」を作成。地図の形、名前は班のオリジナル。

島の中には、「愛」「家族」「笑顔」「命」「誇り」「感謝する心」がどの班にも共通して取り入れられていることが印象的。

[9]教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

海外研修の経験は、教員人生の中でも強烈な経験の1つになった。海外旅行と大きく異なる点は、JICA事業に関する様々な機関や事業所を訪問できるところで、教育庁から学校、さらには地方行政局や、国営放送など様々な場所を訪問できた。さらには2泊のホームステイも体験させていただき、全行程10日間ではあるが、密度の濃い体験ができた。そのため、初めて訪問する他国であっても、教育面から行政面、さらには生活面についての話を、自分の言葉で生徒に伝えることができるようになった。授業で話す「言葉」に力強さが増し、生徒への説得力につながった。つまり、この研修の成果として、国際理解に関する教育効果となり生徒へ大きな影響力になったと実感している。

最後に、個人的な今後の展望として、大学等のスタディーツアーを通してブータン以外の途上国についての経験を増やし、国際理解を深めていきたいと思っている。この研修が「始まり」になった。



BHUTAN

学校名：東京学芸大学附属国際中等教育学校

氏名：藤木 正史

[担当教科：社会、日本史]

- 実践教科等：国際教養
- 時間数：2時間
- 対象生徒：中学2年生
- 対象人数：58人

[1]単元名

ブータンを通して考える“幸せの指標”

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・ブータンのGNHを通して、“幸せの指標”についての考えを深める。
- ・クラスの幸福度を向上させるための“幸せの指標”を作成しよう。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【幸福ってなんだろう?】 【ブータンって本当に幸福?】	・ブータンのイメージを問う ・Unit Question『幸せは何によってきまるのか?』と、Goal『みんなの“幸せ指標”をつくろう!!』を発表 ・学級の幸福度数を計算 ・ブータンの幸福度数(2005年)の提示 ・ロールプレイング(朗読劇)を行い、ブータンが抱える問題に気づく ・ロールプレイングのふりかえりと、GNHの確認 ・生徒が調べたGNHに関する意見などの共有 ・ブータンの幸福度数(2010年)の提示 ・GNHの調査方法の提示	・パワーポイント ・ワークシート ・Web サイト ・朗読劇台本 ・パワーポイント ・『GNH2010 アンケート』 ・夏休みの課題	・積極的な発言
2	【みんなの“幸せ指標”をつくろう】 【まとめ】	・幸せだと思うこと、幸せを感じることの共有 ・自分たちのクラスの幸福度を向上させるための指標の設定とポスターの作成 ・“幸せ指標”ポスターの発表と共有 ・『幸せの公式』の提示	・ワークシート ・パワーポイント	・グループワークへの貢献 ・ポスターの完成度

[4]授業の詳細

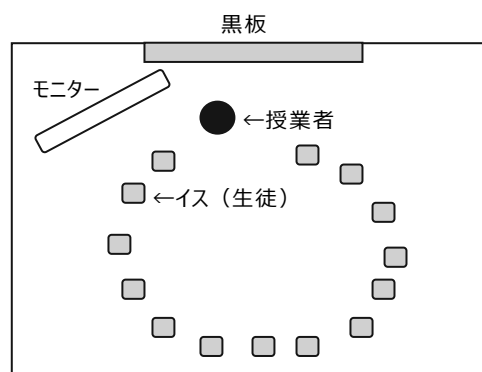
1 時限目：【幸福ってなんだろう?】

準備・導入・場づくり

教室の状態：ワークショップの一体感をだすため、また次に行うロールプレイングのために教室の中心にイスのみを持ち出し、大きな円を描いて参加者は座っている。

- Q.「ブータンと聞いて何を思いうかべますか?」(ブータンのイメージを問いかける)

生徒からは、「幸福」・「国王」・「GNH」・「チベット仏教」・「食べ物が辛い」などの答えがあがる。



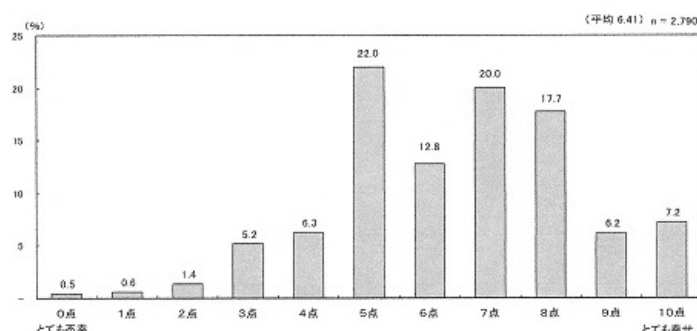
※こうした反応の背景として、事前に『ブータンが提唱する GNH についての考察(①ブータンが提唱する GNH とは、②GNHに対する私の考え)』を課していたこと、授業者による第 2 学年(授業対象学年)全体へのブータン研修報告会、2011 年のブータン国王の来日とそれとともなう、マスメディアでのブータンに関する報道など、が挙げられる。

- Unit Question『幸せは何によってきまるのか?』と Goal『みんなの“幸せ指標”をつくろう!!』の提示
ワークシートを配布し、本時の趣旨と Goal を明確にし、ワークショップ全体の流れを参加者全員で共有する。また、グランドルールとして、「人の話は最後まで聞く」、「人の意見を否定しない」、「積極的に!!」を確認。
- プレ・アクティビティ「クラスの幸福度をはかろう!」(場・雰囲気づくり)

まず自分の幸福度を「0 点(とても不幸せ)から 10 点(とても幸せ)」の 11 段階で評価、その後クラス全体の平均値を計算し、クラスの幸福度数を算出。あるクラスでは 5.2 点、またあるクラスでは 7.1 点となった。そこで、内閣府が行った『平成 23 年度国民生活選好度調査』(右図)の結果を提示し、日本人の平均値(6.4 点)とその傾向(日本人は、多くのアンケートで平均を選ぶ傾向がある)を確認し、他クラスとの比較などを行った。

Ⅱ. 平成 23 年度国民生活選好度調査結果

問 1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸せ」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。



- Q.「ブータンでは、どのくらいの人々が“幸せ”であると言っているか知っていますか?」(事前学習の確認)
生徒からは、国民の 97%の人々が「幸せである」と答えた、2005 年の調査結果が回答される。
※2クラスでワークショップを行った結果、97%という回答以外はでなかった。つまり、日本では報道やTV番組、書籍やインターネット等でも 2005 年の調査結果を大きく取り上げ「幸せの国ブータン」というイメージが形成されていることがわかる。この点は、調査の信用度とブータンの実情という部分で今後の展開の伏線としている。

● 朗読劇(ロールプレイング) 問題・課題の共有

「ブータン＝幸せ」という多くの人が持つイメージにゆさぶりをかけるため、朗読劇でブータンが抱える問題について理解する。

設定:「ティンブー在住の日本人がブータン・ナショナルディを祝う会を開いた席での一場面」

舞台	首都ティンブー市内のホテル。ブータン・ナショナルディ(12月17日)を祝うブータン在住日本人が集まり、みんなで食事をしている。
登場人物	■ JICA ブータン所長(男性:50歳)…落ち着いた感じのしゃべり方 ■ JICAシニアボランティア(男性:67歳)…すでにシニアボランティア3か国目。若者の成長が楽しみ。 ■ ブータン在住1年目の奥さん(女性:23歳)…旦那さんの仕事の関係でブータン在住になったものの、まだ不安の方が大きく、心配が絶えない。 ■ ブータン在住20年の奥さん(女性:42歳)…20年前に旅行に来たブータンで、現在の旦那さん(ブータン人)と恋におち、そのままブータン在住。とても元氣。 ■ ティンブー市職員(男性:32歳)…学生時代からブータンが好きで、とうとうティンブー市の職員となり、現在は環境・衛生面を担当している。 ■ その他…ブータン在住の日本人のみなさん(上記の人物担当以外の参加者)

とくに、「野犬の問題」、「ごみ処理の問題」、「若者の雇用の問題」を軸に、GNHの四つの柱や、ブータンの主要産業である建設業と観光業をめぐる問題、多くの労働者がインド・パキスタンからの出稼ぎ者であること、などブータンの国情についても把握できる内容とした。台本の内容については、研修時やその後の調査などで収集した情報を盛り込んでいる。

● 朗読劇のふりかえりと GNH の確認 **収束**→**拡散(対話)**

パワーポイントを使用し、ブータンをめぐる問題と GNH についてのふりかえりと確認を行い、情報を共有化す。その際、夏休みの課題として課した「GNH に対する私の考え」を使用した。今、学んだことと自分で調べたことをリンクさせることを目的に、数名の生徒に課題をふまえて、GNH やブータンという国に対する意見を発表してもらい、他の生徒からうなずきや質問をかえすことで、対話を促した。

生徒のレポート抜粋

生徒A: 国民のみんなが幸せだと思っていることは、とても良いことだと思います。ですがこれはブータンだから通用することであり、日本人からしたら理解できないんじゃないかと思いました。(中略) 日本はもう発展しすぎてしまって GNH の四つの柱と九つの分野を満たしていても幸せだと答えられる人は少ないんじゃないか？というのが私の考えです。けれどもこれは物などに富を求めすぎない考え方で人間が初心に戻れて良いのではないかと思います。

生徒B: 私は、GNH は良いと思うけれど、とても大変なものだと思います。(中略)ブータンでは医療も教育も無償で提供されます。しかし、ブータン政府の歳入・歳出を見ると、自主財源だけではまかないきれません。そのため、ブータンのまわりの国々(インド等)からの援助に依存しています。元々、無償で提供しなければ、と思うけれどそれでは国民の幸せ度が下がってしまうのです。(中略)このように GNH を提唱して人々の幸せを一番に考え発展させようとするのはとても良いと私は思いますが、中をあけてみると問題がたくさんあってとても大変です。この問題を解決するためには少しの負担も理解できるという国民の考え方が必要ではないでしょうか。

生徒の中には、事前課題を通してブータンが抱える現状をかなり正確に把握している者、幸福度をがかることの難しさを感じている者もいた。

● ブータンの幸福度数の提示(2010 年)と、GNH アンケートの調査方法 **新しい気づき**

ブータン研究所発表の資料(右図)を利用し、2010 年のブータンの幸福度数が 40.8%であることを提示し、朗読劇とあわせて、「ブータン=幸福」という思いこみに対してさらに“ゆらぎ”を与えた。

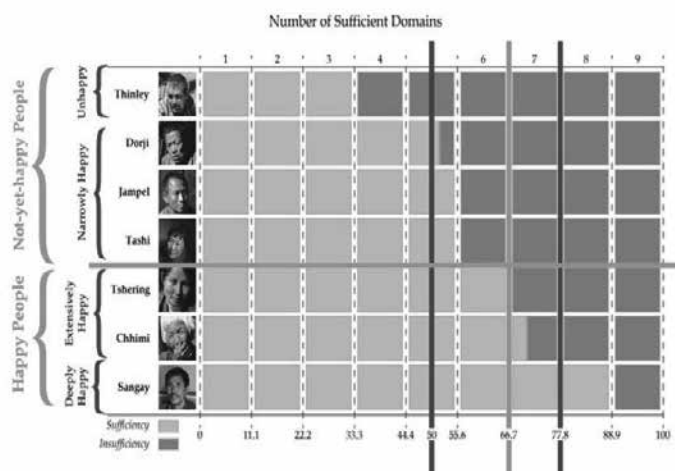
2010 年度調査: 政府調査員による対面調査。調査対象 7,142 人(人口の 1/100)。9 分野 33 項目に関して聞き取り調査を行い、項目ごとにポイントを設定しトータルの達成率が、77~100%が「とても幸せ」、66~76%が「まあまあ幸せ」、50~65%が「少し幸せ」、0~

49%が「幸せでない」と定義した。幸福度数 40.8%は、「とても幸せ」と「まあまあ幸せ」を足した割合。

2005 年度調査: 政府調査員がブータン全土の人間(外国人を含む)を対象に、「人口」「健康」「家族」など様々な分野についてのアンケートを行った。「幸福度」に関する調査は、「家族」に関する質問項目のひとつで、「とても幸せ」「幸せ」「あまり幸せでない」の三択。「とても幸せ」「幸せ」を足した割合が、96.7%。

生徒は、調査方法が違うこと、日本ではほとんどが 2005 年度の調査結果に基づいて報道等がされていること、調査の信用度についての気づきを得ていった。

Karasa Ura, Sabina Akkire, Tshoki Zangmo & Karasa W'angdi



2 時限目:【みんなの“幸せ指標”をつくろう!!】 **拡散・収束**

ワークシートを利用して、「あなたが幸せだと思うこと、幸せだと感じることを書きだそう」(**拡散**)を行い、グループをつくりお互いに共有していった。また、授業者は、教室をまわり、おもしろい意見や、対話のきっかけになる意見あどがあれば、随時フロアに発信していった。

● “幸せ指標”ポスターの作成と発表 **収束**

クラスを“幸福度”をはかる対象として設定し、その対象にふさわしい指標と調査方法をポスターにまとめて発表した。その調査で幸福度が 100%に到達した場合、クラスの全員が快適に楽しく充実して学校生活を行っている、ということを目的とした。発表時には、その意図や調査結果の計算方法なども説明させ、質疑応答などを行った。

調査項目としてあがったもの

- ・ クラスに対して貢献できることがあるか
- ・ 教室の環境は快適か、教室がきれいか
- ・ 食べ方がきれいな人はクラスの中にどのくらいいるか
- ・ 学校で 1 日にどのくらい笑えているか

● “幸せの公式”の提示 **気づきと継続**

「 $\text{幸せ} = \text{財} / \text{欲望}$ 」という公式を提示し、ブータンの人々の深層通念として存在する「足るを知る」という考えを紹介しつつ、幸福についての認識を今後も考え続けていってほしい、として授業をまとめた。

[5] 児童・生徒の反応/変化

新たに知るブータンについての情報、とりわけ GNH の調査方法と、実際に行われた調査のアンケートを提示した時には、大きな反応があった。生徒にさらなる興味・関心を抱くきっかけをつくれたと考える。ブータンという国を別の視点で捉えることができるようになったと考える。

[6] 授業実践の成果と課題

課題として、1 時限目と 2 時限目のつながりが挙げられる。1 時限目のブータンをとりあげた具体的な話題から、2 時限目の幸福度調査を自分たちでつくろうという抽象的なものへつなげ、内容の一般化をはかったが、その点に乖離があったと感じている。

成果として、朗読劇をおこなった後にふりかえりをして内容や話題を深化させる、という試みはある程度達成できたと考えている。ワークショップを行う上で、いかにしてその後のアクティビティに必要な情報を共有していくか、という点について挑戦ができた。

[7] 参考文献(引用文献・参考資料)

- ・ 「平成 23 年度国民生活選好度調査」<<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>> (2012 年 12 月 16 日アクセス)
- ・ 「An extensive analysis of GNH index」<<http://www.grossnationalhappiness.com/>> (2012 年 12 月 16 日アクセス)
- ・ 「The Second Gross National Happiness Survey Questionnaire April2010」
<<http://www.grossnationalhappiness.com/survey-results/index/>> (2012 年 12 月 16 日アクセス)
- ・ 第 1 回ブータンシンポジウム「変わるブータン、変わらぬブータン―GNH への挑戦―」、日本ブータン友好協会主催、2012 年 12 月 16 日開催
- ・ 「わたしたちの生活と未来 ブータン王国」公益財団法人愛知県国際交流協会、2012 年

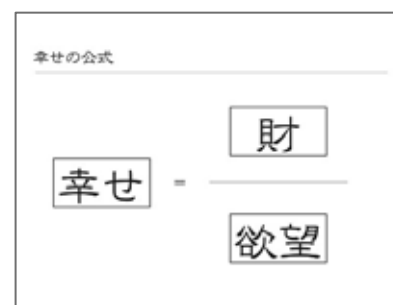
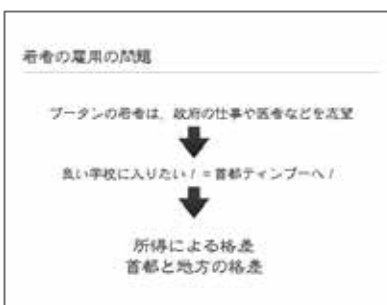
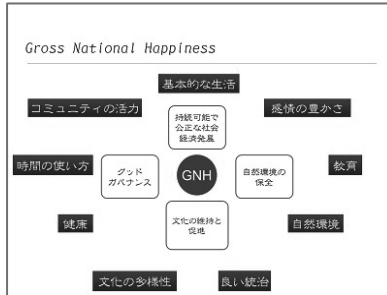
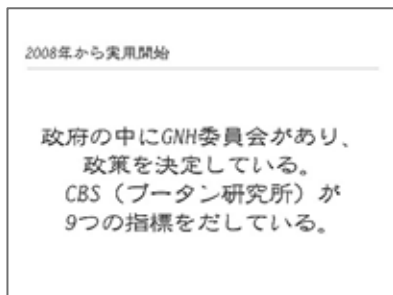
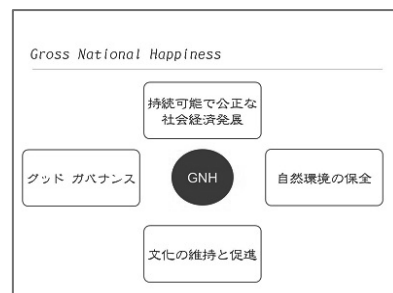
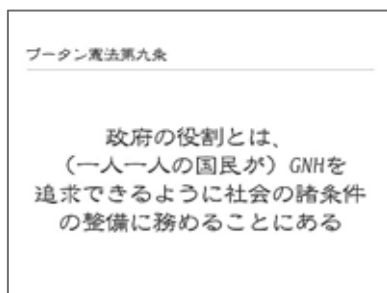
[8] 教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

教師海外研修で、はじめて途上国における支援の現場を訪れた。開発教育の勉強をしていた私にとっては、JICA が行っている支援のいくつかの現場に訪れ、担当者から話を聞くことができたことは、とても重要な機会だったといえる。社会科の教員として、授業で生徒に伝える内容はできるだけ、自分で見聞きしたものでありたいと常に考えている。その意味で、ブータンで見聞いたことはとても魅力的で、生徒に話したいと思えることばかりだった。

その一方で、消化不良であることもまた確かだ。国家として GNH を推進していくブータンという国の未来、政府の GNH 政策の検証、GNH の国民への浸透度や意識、チベット仏教について、ブータン王室の存在、ブータンにおける支援のあり方、ブータンと周辺諸国との関係、など、様々なテーマの切り口をもっと深化させることができると考えている。様々な側面からとらえたブータンを素材とするアクティビティやワークショップの事例を、ぜひまとめていきたいと考えている。

[9]使用教材(写真／図などの実物)

使用したパワーポイント



添付2 ワークシート

国際教養

単元名：ブータンを通して考える “幸せの指標”

2年 組 番 氏名 _____

今日の課題 ①ブータンのGNHを通して、“幸せの指標” について考えを深める
②決定したテーマに基づいて、“幸せの指標” を作成し、効果的にプレゼンテーションを行う。

Unit Question：“幸せ”は何によって決まるのか？

あなたの幸福度は？ _____ %

→クラスでの幸福度は？ _____ %

『みんなの “幸せ指標” をつくろう！』

1. あなたが幸せだと感じることをたくさん書きだそう。

2. “幸せ指標” ボスターをつくら 班 メンバー： _____

対象： _____ ex. 友達関係・学校・地域・国

対象の “幸福度” をはかるには、どんな指標が考えられるかな？

プータン・ナショナルデー（12月17日）のお祝い@ティンブー市内のレストラン

あなたの役割：プータン在住の日本人の皆さん（今日は楽しみましょう！！）
 重要な「参加者全員」のセリフを元気よくお願いします！！

ナレーション	セリフ
JICA 古家所長	今日は、プータンのナショナルデーです。プータン在住の日本人のみなさんが、首都ティンブーのレストランに集まって、お祝いをしています。
参加者全員	「みなさん、今日はお集まりいただきありがとうございます。忘年会もかねて楽しみましょう。乾杯!!」
参加者全員	「乾杯!!」
ナレーション	JICA プータン所長は、今年の春にプータンにやってきた本田さんに聞かれました。
JICA 古家所長	「本田さん、いかがでしたか。プータンの1年目の暮らしは？ 何か困っていることはありますか？」
本田さん	「そうですね。プータンの人たちはみんな親切で、思いやりがあって、さすがGNHの国だな、と思いました。」
JICA 古家所長	「ただ…。」
本田さん	「ただ…、どうしました？」
本田さん	「ティンブーの街中に、たくさんの野犬がいるのには驚きました。かまれたら狂犬病になると思いますし、5歳の息子がいるので心配です。つかまえたらいけないのでしょうか？」
JICA 古家所長	「それは、たしかに問題にはなっています。しかし、プータンはチベット仏教の国です。捕まえて処分したりできないんです。動物をふくめて生きとし生けるものを殺してはいけないので。GNHの四つの柱のひとつにも、自然との共生があります。そこには動物も含まれます。」
ナレーション	そこに、プータン在住20年の愛甲さんが話に加わってきました。
愛甲さん	「野犬の問題は昔からですが、最近は他にもいろいろな問題がありますよね。」
JICA 古家所長	「それは、どんなことですか？」
愛甲さん	「最近、ティンブーでも車を持っている人が多くなりましたよね。またとてもスピードをだすので、とっても危険です。」
本田さん	「そういえば、環境の事を考えて毎週火曜日がノーカーデーになったということですよね。」
愛甲さん	「たしかにそうですね。最近1月に1回第一日曜日に変更になってしまいました。本当に環境の事を考えているんですね。」
JICA 古家所長	「環境の事と言えば、ティンブー市内のごみ処理の問題はどうになりました。板村さん。ティンブーの町もきれいになってきたと思うのですが。」
ティンブー市職員：板村さん	「そうですね、今年の4月にごみのポイ捨て条例ができて罰金が課せられるようになったから、ゴミの不法投棄は少なくなっていますね。ただもっと大きな問題があります。」

添 付 3 朗 読 劇 本

愛甲さん	「どんな問題ですか？」
ティンブー市職員：板村さん	「ごみの処分問題ですね。ティンブーでは1日60tのごみが出るのですが、分別をしていないんです。生ごみはコンポスト処理場に運んで肥料にする予定だったのですが、そこまでいく道が崩れて、ゴミ収集車が入れないんです。すべてのごみは、ゴミ処理場に運ばれてどんどん積み重なっていつにありません。もう、ゴミ処理場は満杯状態で上から土をかぶせているのですが、ところどころゴミが顔を出していて、すごい数のハエがわいています。」
愛甲さん	「市では対策をたてられていないんですか？」
ティンブー市職員：板村さん	「ゴミの分別ができていないのですが、いつのまにか計画がなくなり…。この問題に対応しているのも、ボクを含めて3人ほどです。みんなごみ処理の専門家ではないので…。難しいですね。」
ナレーション	そこにJICAのシニアボランティアで、人材育成を担当している泉さんが話に加わりました。
SV：水本さん	「プータンでは若者に仕事がないことも問題ですね。ここ数年でティンブーの人口は爆発的に増えました。これは地方からティンブーに職を求めてきた人もたくさんいるということです。しかし、その人たちに与える仕事がない。」
本田さん	「でも、ティンブーは今、建設ラッシュですよ。たくさんのお家がビルが建設中ですが、そうした仕事もあるのではないのでしょうか？」
SV：水本さん	「たしかに、そうですね。しかし、お気づきかもしれませんが、そうした建設現場で働いている人の多くはインド人の出稼ぎの人々です。だいたい6000人から10000人いると言われています。プータンの若者は、そうした汗をかく仕事はやりたがりません。」
愛甲さん	「では、プータンの主要な産業である観光業はどうですか？」
SV：水本さん	「プータンの観光業は、国が管理しています。ガイドやコックも国のトレーニングを受けた人しかいません。今、観光会社は90社あると言われていますが、そのうち実際に活動しているのは、半分以上の416社。観光会社として成立して食べていける会社は50社程度しかないでしょう。」
JICA 古家所長	「プータンの若者は、政府などに努めたいと思っている人が多いようですね。もしくは医者など。そのためにいい学校にいかなくては、と地方からみんなティンブーに出てきます。そこに格差が生まれているように思います。急速に近代化をすすめているプータンですが、それによって格差社会をうまないことが、GNHの四つの柱の一つ、「健全な経済発展と調和」のはずなんです。」
本田さん	「日本にいたときは、幸福の国＝プータンというイメージがありましたけれど、プータンもたくさん課題を抱えているんですね。GNHが国の方針というけれど、プータンの人たちにとって本当に幸せなんでしょうか？」
JICA 古家所長	「そうですね…。JICAはGNHにもプータンの発展に援助をしているのですが…。お、新しいゲストが来ちゃいますね。難しい話はこれぐらいにして、もう一度乾杯しましょう。」
「それでは、みなさん乾杯!!」	
参加者全員	「乾杯!!」



BHUTAN

学校名：中央大学杉並高等学校

氏名：大塚 圭

[担当教科：外国語(英語)]

- 実践教科等：
総合的な学習の時間
- 時間数：7時間
- 対象生徒：高校1年～3年
- 対象人数：24人

[1]単元名

高校生のための国際協力入門

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・貧困や南北格差などの地球規模の諸問題を認識する。
- ・開発をめぐる問題の原因を考え、世界のつながりを理解する。
- ・地球社会のさまざまな課題を解決するために、相互に協力しあう態度を養う。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1	【国際協力を定義する】 国際協力は、一方的な支援ではなく、日本人の暮らしを支えるために必要な手段であるということを理解する。	・フィリピンのスラムに暮らす人々の生活を通して、国際協力について考える。 ・資料を使用して、日本と開発途上国の関係について気づいたことをワークシートに記入する。 ・「依存大国日本」を見て、日本と開発途上国の相互依存関係を理解する。	・パワーポイント ・資料 (日本・途上国相互依存度調査) ・ワークシート ・映像 (依存大国日本)	学習活動の観察 ワークシートの記述の確認
2	【世界の現状を理解する】 「世界がもし100人の村だったら」に描かれた現実を体験し、世界の現状を認識する。	・シミュレーション(疑似体験)を通して、貧富の格差を知る。 ・貧困や南北格差についての背景や原因を考える。 ・「世界がもし100人の村だったら 総集編」を読んで、世界の現状について理解を深める。	・「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」	学習活動の観察
3	【国際協力の現場を知る】 青年海外協力隊OBの体験談を聞き、国際協力の仕事について考える。 講師：浦 輝大さん	・青年海外協力隊(バヌアツ)での体験を通して、日本とバヌアツの価値観を踏まえた国際協力を考える。	・パワーポイント ・映像	感想シートの確認
4	【支援のあり方を考える】 「援助する前に考えよう」のワーク1(一枚の看板)を通して、援助する側やされる側の心理を考え、国際協力についての基本的な理解を促す。	・アイ子の立てた一枚の看板を見て、タイの小学校に寄付するかどうかを話し合う。 ・アイ子の活動の是非について議論する。 ・アイ子の活動がよりよいものになるためのアドバイスを考える。	・「援助する前に考えよう」 ・パワーポイント	学習活動の観察 ワークシートの記述の確認
5	【支援策を考える①】 ブータンのイメージを膨らませ、国家政策である国民総幸福量(GNH)を理解する。	・ブータンの位置やその近隣諸国を確認する。 ・写真(6枚)を使用して、ブータンについて気づいたことを話し合い、イメージを膨らませる。	・パワーポイント ・ブータンの写真 ・GDP, HDI, GNHの国別ランキング	学習活動の観察

		・国民総幸福量の概念を導入するために、GDP、HDI、GNHのランキングを比較する。 ・GNHの9つの指標について具体例を考え、GNH相関図を完成させる。	・GNH相関図	
6	【支援策を考える②】 ブータンで実施されているJICAプロジェクトを参考に、具体的な支援策を考える。	・クイズ形式で実際に行われている5つの支援プロジェクトを紹介する。 ・5つのプロジェクトについて優先順位を決定する。 ・最も重要であると思われるプロジェクトについて具体的な支援策を考え、ワークシートに記入する。	・パワーポイント ・ブータンの写真 ・ワークシート	学習活動の観察 ワークシートの記述の確認
7	【支援策を考える③】 支援策について自由な対話をし、より多くの意見を共有する。	・ひとつのテーブルを囲むように座り、各支援策についての感想やアドバイスを模造紙に記入する。 ・模造紙に書かれた意見を共有する。 ・最も印象に残った支援策を投票で決定する。	・パワーポイント ・模造紙	模造紙の記述の確認 支援策の発表

【4】授業の詳細 ここではブータンを取り扱った5、6、7時限目のみを取り上げる

〈この授業では、4人グループを6つ作り、すべての活動は、グループ単位で実施されている〉

5 時限目：【支援策を考える①】

まず、アイスブレーキングとして、グループで南アジアの7ヶ国（インド、バングラデシュ、ネパール、パキスタン、スリランカ、モルディブ、ブータン）を話し合い、授業を活性化するための導入とした。地図だけでなく国旗のヒントを参考に南アジアの国々をクイズ形式で確認した。

次に、支援策を考える国は、ブータンであることを発表し、今回の授業の目標は、ブータンのイメージを膨らませるとともに、ブータンの国是である国民総幸福量（GNH）を理解することであると伝えた。

ブータンのイメージを膨らませるためにフォトランゲージを行い、写真は、首都ティンプーの街の様子、ブータンの農村風景、ブータンの人々の生活、学校に通う子どもたち、チョルテンの周りを歩く人々、バザールの様子の6枚を使用した（添付1を参照）。各グループ1枚の写真について感じ取れるものや気づいたことを話し合い、その後、写真について補足的な説明を加えた。以下は、チョルテンの周りを歩く人々の写真について話し合ったグループの記述と6枚の写真についての補足説明である。

生徒の記述

- 服が独特である
- 宗教色が強い
- 同じ方向に歩いている
- 何の建物か不明
- 山に囲まれている
- 大人が多い
- 朝または夕方である



.....
ココがポイント！
 フォトランゲージで使用する写真は、生徒が最低3つのポイントを容易に想像することのできる写真を選択する。

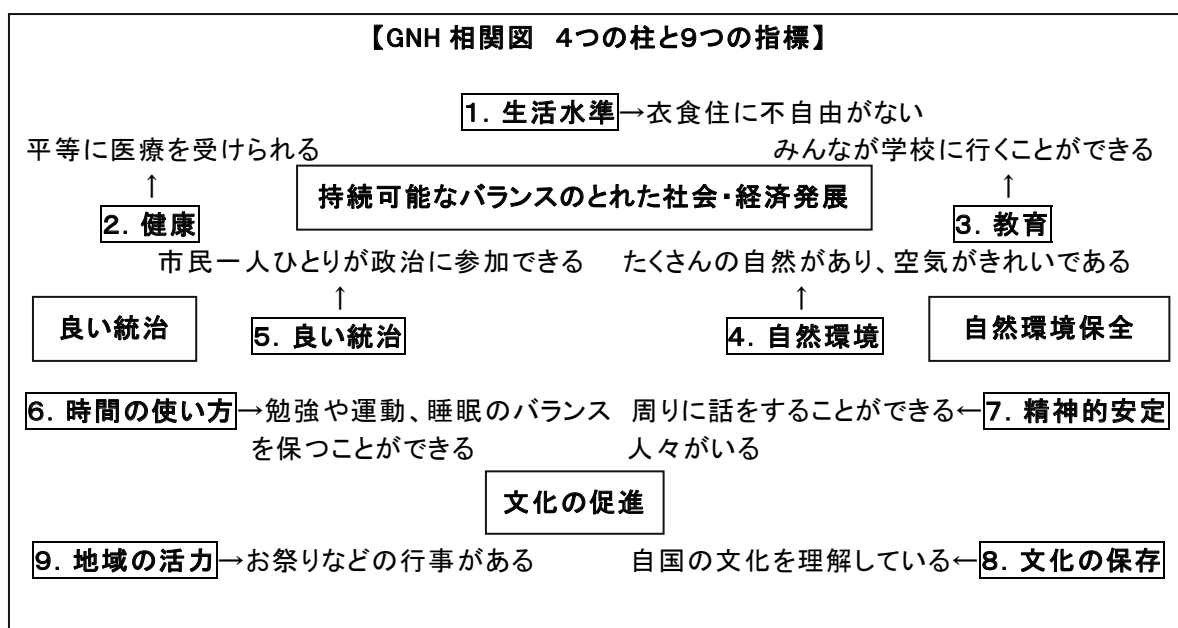
（補足説明の内容）

首都ティンプーの街の様子：山間に囲まれた小国、人口約70万人、九州とほぼ同じ面積
 ブータンの農村風景：森林の60パーセントを保護、人口の6割が農業に従事、米が主食
 ブータンの人々の生活：男性はゴ、女性はキラという民族衣装の着用、唐辛子と乳製品の使用
 学校に通う子どもたち：識字率60%、小学校以前から英語教育、国王に対する絶大な支持
 チョルテンの周りを歩く人々：チベット仏教を国教としている唯一の国、生活にチベット仏教の影響
 バザールの様子：ダシヨー西岡の栽培方法の指導、日本から多様な野菜を導入

次に、ブータンの国家開発計画の基本理念を理解するために、国内総生産（GDP）、人間開発指数（HDI）、国民総幸福量（GNH）のランキングを提示し、日本とブータンを比較しながら、何のランキングを表しているか話し合った。日本は、GDP、HDI、GNH と順位が下がっていく一方で、ブータンは逆に順位が上がっていくので、GNH が経済規模とは異なる指標であると理解するグループが多かった。

最後に、GNH 相関図を用いて、GNH の4つの柱と9つの指標について説明した。3つの指標（生活水準、健康、良い統治）について例をあらかじめ提示し、残りの6つの指標については、生徒たちが具体的な状況を考え、発表した。人々が9つの指標について幸せを感じることができれば、4つの柱の目標を達成し、GNH の向上につながるという、ブータン独自の開発理念を尊重した支援策を考えなければならないことを伝え、まとめとした。

国内総生産（GDP）		人間開発指数（HDI）		国民総幸福量（GNH）	
順位	国	順位	国	順位	国
1	アメリカ	1	ノルウェー	1	デンマーク
2	中国	2	オーストラリア	2	スイス
3	日本	3	オランダ	3	オーストリア
4	ドイツ	3	アメリカ	4	アイスランド
10	インド	12	日本	8	ブータン
26	台湾	26	シンガポール	15	オランダ
50	ルーマニア	50	ルーマニア	23	アメリカ
88	エチオピア	88	コロンビア	82	中国
121	カンボジア	101	中国	90	日本
166	ブータン	140	ブータン	125	インド
185	ツバル	187	コンゴ	178	ブルンジ



生徒が完成させた GNH 相関図

（生徒の感想）

ブータンという国は、ニュース等の報道で知っていたけれど、実際の生活の様子を見るのは初めてでした。日本に暮らしている私たちが考える「幸せ」や「豊かさ」とブータン政府の目指すものには、少し違いがあるかもしれないと思いました。支援をするにあたって、まずはブータンの目指す「幸せ」を理解することが大切だと分かりました。そして、4つの柱と9つの指標について考えてみると、身近な部分でも感じるがありました。

6 時限目：【支援策を考える②】

まず、実際にブータンで実施されている支援プロジェクトをクイズ形式で出題した。グループで写真2枚をヒントにどのような支援が行われているのか話し合い、その後、なぜそのような支援が行われているのか補足的な説明を加えた。出題したクイズは、JICA が実施している5つの支援プロジェクト（地方電化促進プロジェクト、生ゴミを肥料化するためのコンポストプラント、メディア支援、体育教員派遣、職業訓練校の質的強化プロジェクト）である（添付2を参照）。

生ゴミを肥料化するためのコンポストプラント

クイズの手順

1. 1枚目の写真を提示する
2. 何の支援か早押しで答える
3. 2枚目の写真を提示する
4. 何の支援か早押しで答える
5. 支援理由を説明する



(支援を必要とする理由)

地方電化促進プロジェクト・・・ブータンの地方農村部の電化率は、54%だが、ブータン政府は、2013年までに全国100%の電化を目標に掲げている。

生ゴミを肥料化するためのコンポストプラント・・・生活スタイルの変化に伴い、ゴミの増加が問題となっている。分別後の生ゴミを堆肥化することは、農業国のブータンの人々にとって受け入れやすい支援である。

メディア支援・・・テレビやインターネットは、地方の人々にとって、情報を得たり、知識を身につけたりする手段である。都市部と農村部の情報の格差をなくすることができる。

体育教員派遣・・・体育教科は2000年に正規教科となったが、教科として行われていない学校も少なくない。開発途上国では、情操教育のないカリキュラムも多い。

職業訓練校の質的強化プロジェクト・・・失業率は3%強とされているが、都市部の若年層に限ると10%を超える。水力発電所建設が行われているため、労働需要のある電気分野に力を入れて支援している。

次に、提示された支援プロジェクトについてグループで優先順位を決定した。4つのグループは、地方電化促進プロジェクトを、2つのグループは、職業訓練校の質的強化プロジェクトを最も必要な支援であると考えた。



優先順位を話し合う生徒たち

.....
ココがポイント！

優先順位を決める過程で、ブータンの人々にとってという支援される側の視点を持つことの重要性を促す。

(支援プロジェクトを選んだ理由)

地方電化促進プロジェクト

- ・電気は、人々の生活水準を向上させるだけでなく、産業の発展にも欠かすことのできないものである。
- ・ブータン政府は、2013年までに100%の電化を目指しているので、早急に対処しなければいけない。

職業訓練校の質的強化プロジェクト

- ・ブータンが自立するためには、人材を育成することが大切である。
- ・電化やゴミ処理も技術を必要とするので、人材育成(職業訓練)が優先である。

最後に、グループで選んだ支援プロジェクトについて具体的な計画を考え、ワークシートに記入した(7時限目を参照)。ワークシートは、ブータンの現状を理解し、その原因を探り、その上で、オリジナルの支援策を考えるものである。グループによっては、話し合いが進まなかったこともあり、地方電化促進プロジェクトについての例を提示した。授業内で終わらないグループは、例を参考に次回までの課題とし、次の授業では、各グループの支援策を発表することを伝えた。

(生徒の感想)

不足している全てのものを支援しようとするときりがなくなってしまうため、何をどのように支援するかを選んで決めるということが大切だと思いました。でも何が一番優先すべきなのか考えるのは意外と難しかったです。漠然と「支援する」と考えるのではなく、何をどのように支援して、またどのようなことが期待できるのか、具体的に良く考えることが重要だということが分かりました。

7 時限目：【支援策を考える③】

前回の授業で各グループが課題として取り組んだ支援策をワールドカフェ形式で共有した。ひとつのテーブルを囲むように座り、中央に模造紙と各グループの考えた支援策のワークシートを置いた。自由に意見交換をし、時々他のグループのメンバーとシャッフルしながら、各自が模造紙に意見を記入していった。ワールドカフェは、以下のような手順で進めた。



進め方

1. 自分のグループで支援策を考えた感想を話し合い、模造紙に記入する。
2. 各グループから一人を残して、それ以外の人とは他のグループのテーブルに移動する。
3. テーブルに残った人は、他のグループから来た人に支援策を説明する。
4. 新しいメンバーは、支援策について感想を話し合い、模造紙に記入する。
5. 数回移動を繰り返した後、テーマを支援策についてのアドバイスに変え、模造紙に記入する。
6. 自分のグループに戻り、模造紙に書き込まれた意見を共有する。

最後に、すべての支援策を見学する時間をつくり、その後、最も印象に残った支援策に投票をした。次のワークシートは、最も投票の多かった職業訓練の支援策である。

ココがポイント！

意見やアイデアをまとめるのではなく、より多くの意見を共有できる雰囲気を作ように心がける。

グループメンバー

文字は、大きくはっきりと丁寧に書くこと。模造紙 1.2 月 3 4 日 (金)

～ブータンを支援しよう～

職業訓練の質的強化

現状

ブータンでは、急速な人口増加が続いており、若年層の増加による雇用問題は深刻化している。ブータン全体の失業率は 3% 強とされているが、これを都市部の若年層に限ると 10% を超える状況にある。

考えられる原因

ブータンでは就職できる職種が限られていると考えられる。
また、若年層においては職業能力不足が原因であると考えられる。

プロジェクト名

プロジェクトPW

考えられる政策

職業体験を含む講演会を実施し、同時に教育者の育成も行う。
また、中学・高校・大学で職業教育も行う。

GNHの9つの指標との関係

GNHの指標
生活水準、教育、時間の使い方、精神的安定

GNHの指標との関係

講演会、中学・高校・大学などの教育の場をかりて、職業能力を高めることにより、様々な職種への就職が可能となり、生活水準が向上すると考えられる。
個人においては、職を得ることにより、精神的安定が得られ、積極的な時間の使い方を学べると考えられるため、ブータン政府の国家政策と交差することができると考えられる。

(生徒の感想)

支援策は、私たちのグループでは一時的な支援ではなく、その支援が終了したあとも、ブータンの人々だけで自立した生活ができるような政策を考えるようにしました。職業訓練校の設置や地方を発達させることで都市部の過密化を分散させようと考え、自分が本当に支援をしているような気持ちで取り組むことができました。

【5】児童・生徒の反応/変化

7回の授業を通して、生徒たちの国際協力についての知的理解だけでなく、日常生活における態度の変容を見ることができた。テレビなどの報道で開発途上国について興味を持ったり、ユニセフなどの街頭募金に耳を傾けたりする心の変化である。さらに、授業実践の題材がブータンであったため、物質的豊かさではない「幸せ」を考えるきっかけになり、より国際協力を日常生活と結びつけて考える機会になったようである。ある生徒の感想の抜粋を紹介する。「相手の国をよく知って援助をするということをして日常生活に置き換えれば、周りの人を手伝うときに、おせっかいのようにならない、ということになる。こ

のように、国際協力と日々の生活を結びつけて考え、自分自身を見直す良い機会になった」。

〔6〕授業実践の成果と課題

生徒たちが開発途上国を遠い世界の特別な存在ではなく、身近に捉えられるようになったことは嬉しい成果であった。また、日本と世界のつながりを認識し、世界を体感する機会を与えるという目的は、ある程度達成することができた。しかし、国際理解教育/開発教育の手法を取り入れた授業の経験不足もあり、ファシリテーターとしての役割に課題が残る。生徒たちからより多くの意見やアイデアを引き出すことができれば、より深い視点で生徒に刺激を与えることができたろう。

また、ブータンの支援策を考えるときに、「幸せの国に支援は必要なのか？」という疑問を払拭することができなかった。ブータンの幸せなイメージだけでなく、97%が幸せであると答えたアンケートの問題点や国家予算の4割を支援に頼っているなどの情報を明確に示す必要があった。

〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『ひとりじゃ生きられないニッポン』ひとりじゃ生きられないニッポン制作委員会、文化工房、2010年
- ・『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』開発教育協会、2003年
- ・『「援助」する前に考えよう』開発教育協会、2006年
- ・『「共に生きる」をデザインするグローバル教育』全国国際教育協会、メディア総合研究所、2012年
- ・『国際協力と開発教育』田中治彦、明石書店、2008年
- ・『幸福立国ブータン』大橋照枝、白水社、2010年
- ・『美しい国ブータン』平山修一、リヨン社、2007年

〔8〕使用教材(写真/図などの実物)

添付1(フォトランゲージ)



首都ティンブー



ブータンの農村風景



ブータンの人々の生活



学校に通う子どもたち



パズルの様子



地方電化促進プロジェクト



メディア支援



体育教員派遣



職業訓練校の質的強化プロジェクト



〔9〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

教師海外研修における一番の成果は、自分自身の授業の幅を広げることができたことである。国際協力の現場を肌で感じ、国際理解教育/開発教育の手法を学び、さらに授業で実践できたことは、大変貴重な経験となった。生徒たちに、「国際社会に参加できる能力と態度を養う機会」を与えるという目標を達成するための第一歩となった。今回は、英語科目での授業ではなかったが、今後は英語教育の枠組みの中で、国際理解教育/開発教育の手法を取り入れていきたいと考える。生徒たちが共通語としての英語を使用して、先進国だけでなく開発途上国で活躍するためのきっかけを提供できれば幸いである。

	学校名：東京都立雪谷高等学校	● 実践教科等：日本史B ● 時間数：3時間 ● 対象生徒：高校2学年 (選択) ● 対象人数：28人×3クラス
BHUTAN	氏名：奈木 いずみ	[担当教科：地理歴史科]

〔1〕単元名

近代日本を“幸せ”にしてみよう！

〔2〕単元の目的/目標(背景を含む)

〔背景〕

日本史Bの授業では、日本が開国以降、「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」などのスローガンを掲げ、世界の「一等国」といわれた国々に加わるべく、近代化に邁進してきた姿を追ってきた。今回の授業では、その過程や、到達点である国の姿(1920年当時)を、歴史的必然ではなく日本の「選択」とであると捉えさせたい。そのために、最近(といっても数十年前ではあるが)まで「鎖国」状態にあり、現在進行形で近代化を進めるブータン王国の事例との比較を考えた。

〔目標〕

- ブータンの提唱する GNH(国民総幸福量)を理解する。【知識・理解】【関心・意欲・態度】
- GNH の9つの指標に照らして、日本の選んだ道への批評を加える。【思考・判断】
- 現代の日本が抱える課題に向き合い、日本やわれわれ一人ひとりが何を選択すべきか、どう取り組んでいくべきかを考える。【思考・判断】
- 授業の中で発見したことや、考えたことをグループの中で出し合い、一つの見解としてまとめる。【関心・意欲・態度】【資料活用の技能・表現】

〔3〕単元の構成

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【ブータンを知ろう・GNHを知ろう】 ・単元の目標を伝える ・ブータンの国づくりと、さまざまな「豊かさの指標」について紹介 ・国の発展を新たな価値観で考え直す	・この授業のテーマを提示 ・ブータン紹介(講義とクイズ) ・ブータンは「豊かな国」？ ・フォトランゲージ(グループワーク) ・GNHに経済的豊かさは必要なし？ ・宿題について ・今日の感想	パワーポイント 作業プリント 写真	作業プリントへの記述 話し合いへの参加の態度 発表の充実度 本時の感想
2	【近代日本を幸せにするために？】 ・宿題について、グループ内のほかの意見を共有する。 ・意見に基づき、GNH 指標にてらした改善点を考え、明治政府に提案する政策をグループで考える。	・アイスブレイク“常識を突きぬけよう” ・GNH で近代日本の政策を分析せよ！(グループワーク) ・明治政府に政策提言せよ！(グループワーク) ・発表 ・今日の感想	パワーポイント 作業プリント	話し合いへの参加の態度 発表の充実度 本時の感想
3	【ブータンの光と影？】 ・GNH ですべてうまくいっているのだろうか？ ・ブータンのこれから ・これからの日本について考える	・桃源郷ではないブータン(講義) ・それでもブータンは一国で立とうとしている！(講義) ・武士道と GNH(講義)	パワーポイント 資料プリント 新聞記事	問題意識の高まり

[4]授業の詳細

1 時限目:【ブータンを知ろう・GNHを知ろう】

～ブータンの近代化から、日本のこれまでの国づくりの成果とこれからの課題が見えてくる！？～

○ ブータン紹介

・講義形式でブータンの概要を説明し、生徒はワークシート([8]参照)の穴埋めをおこなう。

・「けっこう似ている日本とブータン」

“幸せの国”というイメージを持っている生徒もいるが、あまり馴染みのない国・ブータンに親近感を持てるよう、「意外と似ている」と思える要素をクイズ形式をまじえて挙げていく。「こんなに日本に似ている国があるとは知らなかった!」「興味が湧いた」との意見が多かった。



近代日本を
“幸せ”にしてみよう①

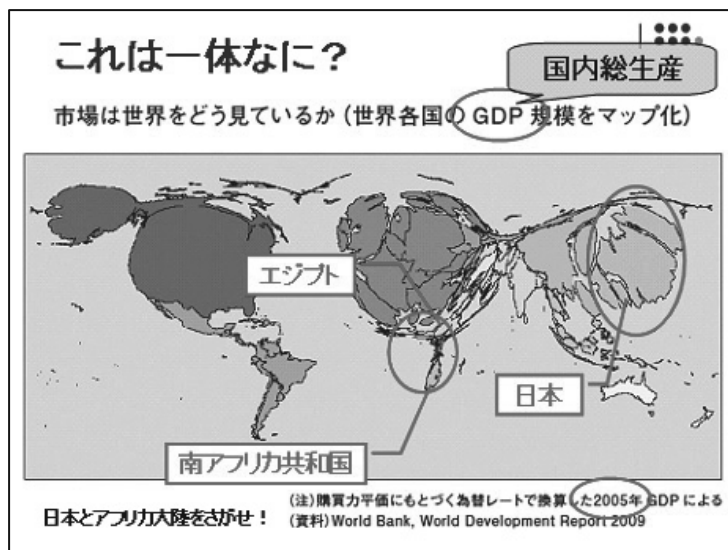
1954年、鎖国をやめた日本は
必死に、必死に近代国家になった。
いったい何のために?
どんな国になりたかったのだろうか?

ココがポイント!

ブータンを扱うが、あくまでスタートとゴールは日本史におくことを教師も生徒も意識できるよう初めにテーマを明示し、それがぶれないよう心がけた。

○ ブータンは「豊かな国」?

・一般的な世界地図と、主題図「市場は世界をどう見ているか」を比較し、日本とアフリカ大陸を探す。



▼フォトランゲージの様子



他の先進国と並んでまると描かれている日本の姿に「日本すごい!」という意見、他国との差に驚く声が上がった。

・さまざまな豊かさの指標と国別ランキングを紹介する。

GDPランキング(3位日本、166位ブータン)・HGIランキング(12位日本、140位ブータン)・GNHランキング(8位ブータン、90位日本)のデータが提示され、それぞれの指標がどのようなデータに基づいて作られたものかを考えた。

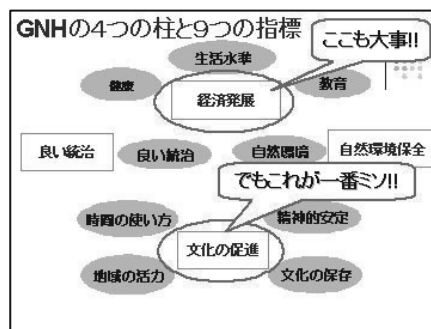
○ フォトランゲージ(グループワーク)

4～5人のグループを作り、ブータンの写真([8]参照)を見て気づいたことを話し合う。グループで出された意見を発表した。その後、教師からの補足説明で、ブータンの風土や産業、民俗や生活を紹介する中で、GNHに基づくさまざまなブータン政府の政策を別の写真をまじえて紹介した。

例)・棚田と山林の風景→国土の60%を森林とすることを憲法で規定

- ・市場での野菜売りのおじさん→日本の農業の技術支援の歴史、インドからの支援や輸出入
- ・ホームステイ先の仏間→国境であるチベット仏教の重視やおもてなしの心
- ・タ方のメモリアル・チホルテン→チベット仏教と仕事と時間の使い方
- ・ティンプーの手旗信号→景観保護、スズキ・マルチ・インドアの子(インド経済との結びつき)
- ・政治経済の授業→GNHを掲げる教育、国王の写真、英語授業、母国語保護の問題

○ GNHに経済的豊かさは必要なし？
「経済的豊かさではなく精神的豊かさ」に基づく指標といわれているGNH。ブータン政府の政策は経済的豊かさの向上を目指していないのだろうか？という疑問を投げかけ、GNHの4つの柱と9つの指標について紹介する。



○ 宿題

「明治政府の政策を9つの指標にあてはめる」

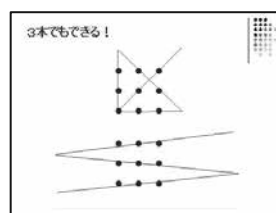
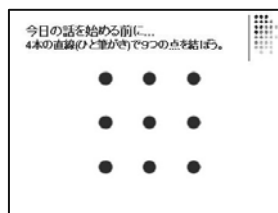
いままでの日本史の学習を振り返って、明治政府の政策から、GNHの9つの指標について「+のもの」、「-のもの」を考え。ワークシート〔8〕参照にまとめてくる。

2 時限目：【近代日本を幸せにするために？】

○ アイスブレイク

今日のグループワークでは「常識を突き抜けた意見を出す」を目標に、とアドバイス。

(今までの常識は植民地化されない日本、「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」をスローガンにがんばってきた明治政府の近代化政策である。)



○ GNHで近代日本の政策を分析せよ！

宿題で書いてきた政策を意見交換しながらグループ内で共有する。自分が書いていなかった政策、同じ政策を別の指標や異なる評価(+-)で記入している場合、グループ内で理由を述べ合い、赤ペンで書き足すように指示。

宿題がほとんどできていない生徒もいたが、必死に教科書を開いて政策を書き込んだり、メンバーの意見を聞いたりして表を製作することができた。

製作した表から、GNH指標では明治政府の政策にどんな要素が足りないのかを考えてみるよう指示する。

グループワークの自分の書いてきたものに他の人の意見を追加する

	-	9つの指標	+
学制		生活水準	
		健康	
お金が少なくなる		教育	学制
労働力とれる		良い統治	
		自然環境	
神農分業令		文化の保存	
お中や秋中が過ぎた		精神的安定	
		時々の使い方	
		地域の活力	

★ 追加は赤字で！ 近代日本に足りないもの、分析できました？

○ 明治政府に「日本のGNHを高める政策」を提案せよ！

グループワークで、明治政府のメンバーになったつもりで一つの政策を考える。明治維新が、「富国強兵」や「殖産興業」、欧米列強に追いつかねば！といった目標ではなかったら、どんな国づくりをしたのだろうか？という仮定で、具体的な政策を作った。

各グループ初めは困惑していたが、「どんな国になったら国民が幸せになれる？」「どんな国に住みたい？」という視点で考えればいいんだとアドバイスすると徐々に意見が出るようになった。

グループワークの明治政府になって考える

「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」ではない視点で・・・

日本のGNHを高める政策を提案せよ

説明とその理由を発表するよ

○ 発表

グループごとに考えた政策について、具体的な内容とその制度が必要だと思った理由を発表する。

〔政策の例〕

- ・平和宣言(戦争をしない、徴兵もしない)とシエスタ
- ・総理直接選挙法(総理大臣を直接選挙で選ぶ)
- ・薬の支給(未成年無料、伝染病に限り成人にも適用)
- ・農民さんに土地あげますよ政策(地主の土地を分配)
- ・ゆとり教育(子どものときはのびのび育つ)
- ・給付金制度(貧しい人でも豊かな生活ができる支援)
- ・減税・戦費削減(戦争ではなく国民のためにお金を使う)
- ・オリンピックを東京で開く(国際交流と日本の活性化を目指す)
- ・ファミリー法(家族との時間を大切にする)
- ・ハローワーク制度(みんなに安定した仕事、工場法みないにならない)



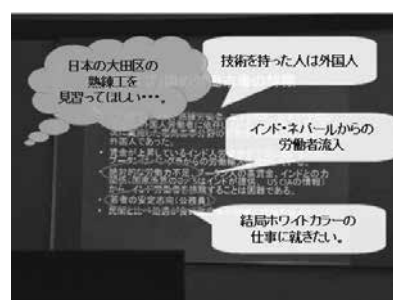
▲発表の様子

3 時限目：【ブータンの光と影？】

○ 桃源郷ではないブータン(講義)

教師が研修で見てきたブータンの姿について、まだまだ課題があること、政府がその問題に取り組んで

いる現状を紹介。それでもブータンは一国で立とうとしている(被援助国から卒業しようという具体的目標)、という展望を示す。



○ これからの日本を考える

「武士道とGNH」という文章を紹介。

明治政府が取り組んできた国づくり、ブータン政府が取り組んでいる国づくり、それを踏まえてこれからの日本の国づくりはどのようなものであるべきかという疑問を投げかけて授業を終了した。



[5]児童・生徒の反応/変化

○ 1 時限目

- ・「日本と、景色や人の顔が似ていて驚いた。豊かな自然が多く、日本の田舎のように思えた。“世界初の禁煙国家”素晴らしいと思った。」
- ・「クイズはすべて予想が違っていました。GDP の地図は日本が大きくてアフリカが小さくて、世界にはすごい差があるのだと改めて感じました。」
- ・「フォトランゲージが楽しかった。1 枚の写真からいろいろなことが知れた。ブータンに行きたくなった。」
- ・「日本にもブータンにもそれぞれよい所があると思うので一概にどちらが良いとかは言えないけれど、ブータンのような幸せの国でもよいなと思った。」
- ・「ブータンってすごいね。日本だとこれはできないだろう、って政策もあるけれど真似した方が良い政策もあったから日本も見習った方がいい。」
- ・「ブータン国王は来日したときから気になっていたので今日の授業はすごく楽しかった。ブータンと比べると、現在の日本という国の在り方について考えさせられる。日本を胸を張っていい国だと言えるようにしていきたい。」

○ 2 時限目

- ・「近代の日本の制度を現在の視点から見直し、改善点を見出す授業がとてもレベルが高くて面白い授業だなと感じた。日本が凄まじい早さで近代化を遂げたのはすごいことだと思うけれど、GNH(国民の幸せ)を考えたときに改善できたことが、皆それぞれ個性的ですごく面白かった。家族との時間を共有する『ファミリー法』が、一番当時の日本には必要だと私は思う。」
- ・「ブータンという、行ったことのない国の情勢を基に、日本の在り方考えるきっかけになった。国の方針や国民の意識次第でいくらかでも国をにぎやかにしたり、幸せにできるような気がした。自分がこれからの日本を考えるために、世界の国の情報をもっと知っておくべきだと思った。」
- ・「いろいろと政策について考える良い機会になりました。どのような政策でどのように社会を変えていくというのは思ったより難しいことだなと思いました。」
- ・「GNH を高める政策を考えるのは簡単なことではなかった。しかし F さんのぶっ飛んだ意見と E さんの的確な意見とが見事にマッチして素晴らしい政策をつくることができた。」
- ・「日本をよくしようと政策を出すのは自由すぎて逆に絞るのが難しかった。」
- ・「私にはいま日本が何をしたら良くなるのかわからないけれど、今回の選挙で日本が変わっていったらいいと思います。まず投票しないと何も言えないと思うので、20 歳になったらちゃんと行きたい。」
- ・「政策を考えるグループワークがおもしろかったです。班によっていろいろ考えることも違って、いろんな意見を聞くことができました。他の人の話を聞いてなるほどと思ったり、そんな政策があったらいいなと思ったりしました。この授業でたくさん“考える”ということができたと思います。」

「自分たちの班の政策は“減税”だったけれど、逆に“増税”したらヨーロッパのような幸せな国になっていたのかなって思ったりしました。」

○ 全体を通じて

「今回、ブータンの GNH について考えていったが、日本がそれを行うには大きくなりすぎてしまったのではないかと思います。ですが、GNH が世界各国に広まることができれば、日本もそれに参加したいという運動も発展していくのではないかと思います。」

「GNH は国の志としては素晴らしいと思うが、たとえば労働が 8 時間とかだったら明治時代の人びとが頑張って労働して産業革命を起こしたりして発展したように、欧米に並ぶ先進国にはならないと思った。現代の日本なら、すべてを実行しなくても参考にしている所がいっぱいあると思う。」

「ブータンの国民総幸福量という考えはすごくうやましく、いいなあと思いました。そこにはいろんなデメリットがあることもわかりました。そう考えると、『幸せ』と『苦勞』というものはセットになっているので、大変な思いをするからこそ幸せを感じる瞬間があるのだと思いました。今の日本人も、何か自分自身で活動し、『苦勞』というものを味わえていないのではないかと感じた授業だった。」

「ブータンという国は私たち日本人とは少し違った考えを持っているのかもしれない。そんな中で、お互いを理解することができればより良い方向に向かうと思った。」

〔6〕授業実践の成果と課題

ブータンでの研修成果を自分の専門科目の中でどのように活用するか非常に苦慮した。日本のこれから、世界のこれからを考える上で、示唆に富む国だと感じたが、その分、伝えきれなかったこともたくさんあり、自分の力量不足を感じるところが大きい。教科の枠の中での授業時間確保には限界があるのでこのような「ブータンの授業」という形はとれないが、これからも違った切り口で研修成果を生かせる授業作りを模索していきたい。

一番の成果は、今までの学習を踏まえ、ブータンという新しいフィルターをヒントに自分なりの考察や問題意識を持てた生徒が多かったことである。それは、前述の感想が「楽しかった」「いいと思った」から、徐々に多様で自由な「自分の見解」になってきているところに現れているように思う。また、意見交換の面白さを経験し、ともかくインプットになってしまう普段の授業から、アウトプットする授業になっても積極的に取り組むことができた。日本史の授業の中で、世界に目を向けるきっかけとなったと感想にあったのも成果だと感じている。

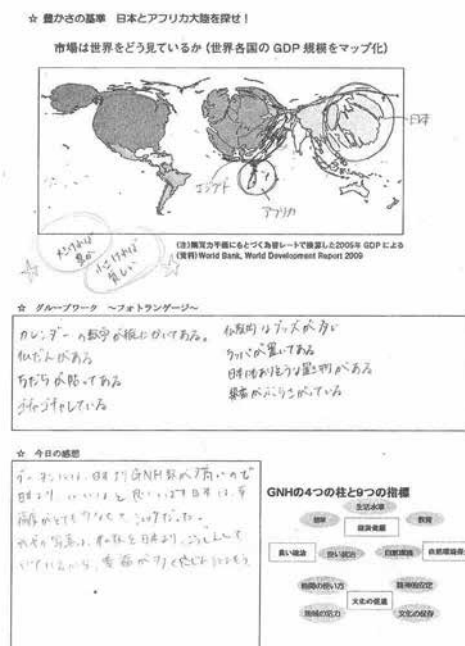
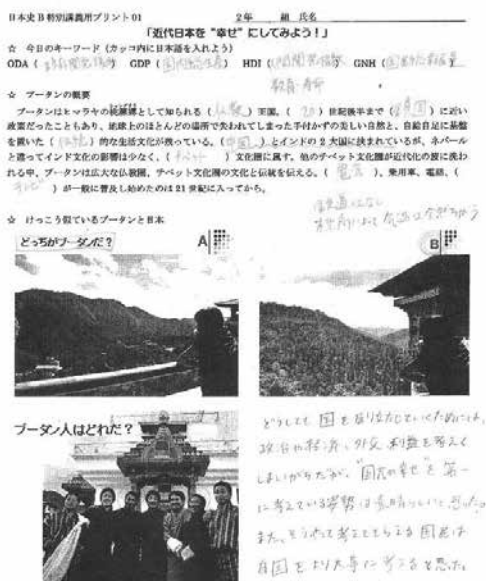
〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

NPO法人全国国際教育協会 『「共に生きる」をデザインする グローバル教育 教材と活用ハンドブック』 メディア総合研究所 2012

〔8〕使用教材(写真／図などの実物)

添付1 ワークシート1(表)

(裏)



ワークシート2

2年 組 氏名

☆ GNHの9つの分野で明治政府の政策を分析する

分野	明治	+
・郵政制度・近代銀行制度	・生活水準	・郵政制度・近代銀行制度・近代教育制度・近代医療制度・近代交通制度
・治安警察法	・健康	
・模範の指示・徴兵令	・教育	・学校・学校法・義務教育
・民法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法・民事執行法・民事再生法・民事執行法・民事再生法	・良い統治	・近代教育制度・近代医療制度・近代交通制度・近代治安制度
・麻薬取締法・衛生法	・自然環境	・近代教育制度・近代医療制度・近代交通制度・近代治安制度
・北海道旧土人保護法	・文化の保存	・近代教育制度・近代医療制度・近代交通制度・近代治安制度
	・精神的安定	
・正・民法	・時間の使い方	・近代教育制度・近代医療制度・近代交通制度・近代治安制度
・家制度	・地域の活力	・近代教育制度・近代医療制度・近代交通制度・近代治安制度

☆

・ハローワーク制度
(国民生活に安定した仕事を提供するため、工場法時代に及ばない程度でなく、しっかりとした制度を定める。)

☆感想

上の表に明治政府の政策を分析して、授業した時には気づかなかったことの政策を見直せることが出来た良かったです。

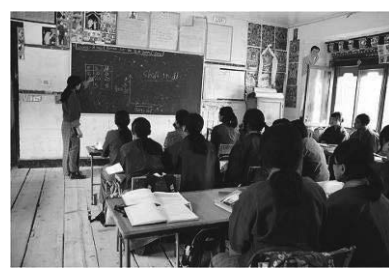
また、+の政策と-の政策をアセスメントできているのが政府のやり方とすごいなと思いました。

当時の明治政府もブータン政府もGDPよりGNHを重視していたら、今の日本はこんなに発展していただろうと迷った国になっていたと思います。

添付2 民族衣装



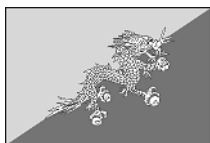
添付3 フォトランゲージで使用した写真



[9]教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

これまで、校外での国際理解教育の活動に携わる機会があったが、なかなか学校現場で、実際の授業としてその活動を生かす機会をつくることができなかった。今回、教師海外研修に参加し、教科内での実践を行う機会にめぐまれ、初めて現場に生かせる活動ができた。なぜもっと早くやらなかったのだろう、と今にして思う。

実際の授業づくりは、「こんなにも“JICA ならではの経験”をしたのだから」と、それをどう生かしたらいいのか悩みに悩み、非常に苦しかった。心残りもいくつかある。しかし、なんとか一つのかたちになったのは、研修メンバーのアドバイスや意見交換によるところが大きい。この研修での経験や出会いはこれから大切に、今後の教育活動に生かしていきたい。まだまだいろいろとできる気がする。



BHUTAN

学校名：東京都立田柄高等学校

氏名：保坂 理絵

[担当教科：外国語(英語)]

● 実践教科等：異文化理解
(外国文化コース)

● 時間数：4時間

● 対象生徒：高校3年生

● 対象人数：68人

[1]単元名

ブータン王国における日本の国際協力について学び、
似て非なる2つの国、ブータンとネパールの違いについて考える。

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- 1 授業者のブータン王国での JICA 教師海外研修での経験談から、日本の国際協力の観点から、ブータン王国の様子を知る。
- 2 異文化理解の観点から、ブータン、ネパールの文化、宗教について理解する。
- 3 両国を比較して、似ている点、異なる点を理解する。
- 4 自分が途上国に国際協力に行くとしたら、どんなことが出来るか、具体的に考える。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1 2	【ブータンにおける日本の国際協力について】 日本の国際協力の観点から、ブータン王国の様子を知る。 異文化理解の観点から、ブータンの文化、宗教について理解する。 自分がブータンに国際協力に行くとしたら、どんなことが出来るか、具体的に考える。	授業者は民族衣装(キラ)を着用。 パワーポイントで写真を紹介しながら、教師海外研修の報告を行う。 生徒は講義を聞きながら、ワークシートの設問に答える。	パワーポイント ワークシート 民族衣装 (ゴ、キラ) 買い物かご ルンタ ブータン国旗 ブータンのお菓子 レモンガラススプレー ブータン音楽 CD	授業への集中度 質問、発言 (興味・関心) ワークシートの 解答の正答率 及び文章量 (知識・理解)
3 4	【これはネパール？これはブータン？】 日本の民間レベルの国際協力の観点から、ネパールの様子を知る。 異文化理解の観点から、ネパールの文化、宗教について理解する。	授業者は民族衣装(パンジャビドレス)を着用。 パワーポイントで写真を紹介しながら、ネパールで学校を作る活動をしている日本人を訪ねた経験の報告を行う。 生徒は講義を聞きながら、ワークシートの設問に答える。	パワーポイント ワークシート 民族衣装 (パンジャビドレス) ルンタ	授業への集中度 質問、発言 (興味・関心) ワークシートの 解答の正答率 及び文章量 (知識・理解)

両国を比較して、似ている点、異なる点を理解する。	4時間の授業のまとめとして、ネパール、ブータンクイズに答える。		
自分ならネパールに住みたいか、ブータンに住みたいか、2国はどちらが豊かか、などを考えさせる。	ワークシートに自分の考えを書く。		

〔4〕授業の詳細

1～2時限目：【ブータンにおける日本の国際協力について】

授業の始まる前に、ワークシートを記入

◆「ブータンの話を聞く前に・・・ブータンに対してどんなイメージを持っていますか？」

パワーポイントで写真を紹介しながら、教師海外研修の報告を行う。以下のような事項を取り扱った。

- ブータンという国の特異性（インド、中国などの大嶽に隣接しながら支配を受けたことがない。）、地図で位置関係を確認。
- 国旗はドラゴン
- ゾンカ語講座（挨拶、自己紹介）
Let's speak !
- 気候
- 山岳地域、平野が少ない、幹線道路はいろは坂
- 「国土の60%以上が森林面積」と憲法で決められている。
- 川の水量が多い。（急流を利用した水力発電。インドに売電している。）
- 宗教は『チベット仏教』
毎日自宅の仏壇で、チオルテンに出かけて、お祈り。長期休暇ずっと五体投地する人もいるくらい信心深い。タンゴ僧院での教育の様子。
「ルンタ」の実物を見せて、説明した。
- ゾンの機能
プナカゾン、パロゾン、タシチョゾン いずれも寺としての機能と役所としての機能を併せ持っている。
- ダシヨー西岡について
1962年に JICA の前身の組織から西岡京治さんが農業指導に入る。以後30年間に渡ってブータンで活動。外国人として唯一「ダシヨー」の称号を賜る。ダシヨーの指導により、ブータンの農業の生産量はアップし、換金作物も作られるようになり、農業の機械化が進んだ。ダシヨー西岡を知らないブータン人は居ない。ダシヨー西岡の活動のおかげで、ブータン人は親日である。
- 学校訪問の報告
 1. デチェンチョリン小中学校
幼稚園年長から中学3年生まで、国語（ゾンカ語）以外の授業はすべて英語で行う。朝礼も英語で行う。ブータンでは日本の青年海外協力隊員の活動によって、体育の授業が正式の授業になった。
 2. クルタン職業訓練校
電気と機械の専門学校だが、日本式の教育5Sを原則としている。（5S=Seiri, Seiton, Seiketsu, Seikatsu, Shitsuke）
折角、職業訓練校で技術を身につけても、ブータン人は肉体労働を行うことを嫌うため、必ずしも就職に結びつかないという負の点もある。
 3. デュゲル小中学校、ろう学校
健常者の小中学校と共に、ろう学校が併設されている。
青年海外協力隊員によって美術の授業が行われている。以前は美術の授業自体が全く行われて

.....
ココがポイント！
○単なるブータンネタのコマ切れではなく、日本による国際協力を切り口に説明を行った。
○「コラム」コーナーでは、提示した写真から情報を読み取り、考えさせる、フォトランゲージの手法を使用した。（誰がブータン人で、誰が日本人？、交通事故、手旗信号、途上国の野犬など）
.....

いなかったため、道具をそろえるところから始め、大きな苦労がある。

ブータンでは日本で行われている実技教科は体育しかない。体育は学習指導要領が整備されたが、美術は準備段階だが、音楽は手付かずである。

4. 学校交流で行ったこと

全体の朝礼で：日本の踊りとして「ソーラン節」、日本の歌として「上を向いて歩こう」（日本語手話つき）

交流の授業で：日本事情、文化紹介、日本の小中高生の様子、折り紙、伝統おもちゃ体験（けんだま、こま、紙風船、竹とんぼなど）

- ブータン国営放送見学
テレビ（ゾンカ語と英語）とラジオ（ゾンカ語、英語、シャショック（ブータン東部の方言）、ネパール語（移民が多いため）の4言語）
- メメラカごみ処理場（ティンプー市内）見学
ごみ処理のシステムは進んでおらず、市内のごみを収集しているが、処理場に堆積させているだけ。処理のシステムを改善させる必要がある。
- 一般家庭でのホームステイ体験談
激辛なブータン料理、トウガラシ料理、仏間を大切に作る家の構造、食事の様子
- 市場（サブジマーケット）の様子
野菜、果物、米、穀類、肉、乳製品などが『量り売り』されている。買い物は買い物籠を持参。実際に、ブータンで購入した、買い物かごを見せた。
- 民族衣装の着用義務について
授業者はキラ（女性用）を着用し、ゴ（男性用）を男子生徒に体験させた。
生徒は「ゴ」の重さに驚いていた。
- まとめ GNH= Gross, National, Happiness
 1. 自然環境の豊かさ（真っ青な空、緑深き森、きれいな川）
 2. 伝統文化の保全と促進（仲間と一日中国技アーチェリー、家の仏間でお祈り、家族でピクニック）
 3. 良い政治（仕事は5時までで、まっすぐ家へ、家族と8時間、仕事は8時間、睡眠が8時間のバランスの取れた生活）
 4. 経済発展（農業、売電、観光）

2時間続きのため、途中10分間の休憩時間

授業前及び休憩時間中にブータン音楽 CD を流す

休憩時間後に、レモングラススプレーでリフレッシュ、そして、ブータンのお菓子を試食

ブータンの講義を聞いた後で、ワークシート記入

ワークシートの内容

- ◆ ブータンの話で一番印象に残ったお話はどんなお話でしたか。
- ◆ ブータンの話を聞いた後で、変化したイメージはありますか。
- ◆ 自分が青年海外協力隊員としてブータンに赴任することになりました。
どんな活動を行ってみたいですか？ ブータンの人とどのように関わりたいですか？
- ◆ ブータンに農業指導を行った日本人は誰ですか？
() さんと、() の称号を得た。
- ◆ GNHとは？ G=() N=() H=() であり、() を表すための指標である。
- ◆ ブータンや今日の授業に関する質問があれば書いてください。
- ◆ 今日の感想を書いてみましょう。

3～4時限目：【これはネパール？これはブータン？】

授業者はネパールの民族衣装(パンジャビドレス)を着用して授業を行う。

パワーポイントで写真を紹介しながら、ネパールで学校を作る活動を見学しに行った際の報告を行う。
以下のような事項を取り扱った。

- 首都カトマンズの風景(ブータンの首都ティンブーとの雰囲気の違い)
- ヒンドゥー教の聖地マナカマナについて、ヒンドゥー教について
- 仏教の開祖ブッダの生誕の地ルンビニについて
- チトワン国立公園の動物たちについて
- 村で飼育されている家畜について
- 日本の民間の支援で出来た学校、橋(30万円で、小さな校舎や鉄筋の橋が建てられる)
- ホームステイの家庭の様子
- 家庭の仕事(薪集め、とても重労働)体験

ブータンの講義を聞いた後で、ワークシート記入

ワークシートの内容

ネパールの首都名は？ ()

ネパールで最も多く信じられている宗教は？ ()教

ルンビニは()生誕の地である。

ルンビニで生まれた人は()教の開祖である。

◆ ネパールの話で一番印象に残ったお話はどんなお話でしたか。

◆ ネパールとブータンは似ていると思いますか。Yes or No で答えよう。

Yes or No その理由を考えてみよう。

◆ ネパールとブータンはどちらが豊かだと思いますか。

ネパール or ブータン その理由を考えてみよう。

◆ 自分がネパールかブータンかどちらの国に住むとしたら、どちらが良いですか。

ネパール or ブータン その理由を考えてみよう。

◆ 今日の授業の感想を書いてみましょう。

今回の単元のまとめとして、ネパール、ブータンクイズを行う。

パワーポイントで画像や写真を見せながら、ブータン、ネパールの2択になっているので、ネパールはどちらかを左右で選択し、解答をワークシートの解答用紙に書く。

-
: ココがポイント！
: ○ ブータンの勉強を前回の授業で行っているの、今回はブータンとネパールの違いに注目する
: 授業展開にする。
: ○ 国レベルの国際協力だけでなく、民間のレベルの国際協力も行われていることを知る。
: ○ 最後はネパールブータンクイズで参加型にし、楽しく一連の授業の復習を行う。
:
.....

〔5〕児童・生徒の反応/変化

本校では外国文化コース3年生は必修で異文化理解という授業がある。今年度は年間を通して主に発展途上国や国際協力について学んでいる。1学期に JICA 地球ひろば、海外移住資料館を見学し、授業ではアフリカの貧困について学んだ。2学期は、ガーナに青年海外協力隊員として赴任した経験を持つ本校教員の体験談を聞いた。そういった経緯の後でブータン、ネパールの授業を行ったので、生徒たちは『国際協力として自分に何が出来るのか』を考えることが出来るようになって来た。

今回の授業のポイントとしては『異文化理解』の授業を発展させるために、自分の考えをワークシートという形で表現させた。ブータンについては、異文化理解の授業の前に、教科横断的な学習として、現代文の授業で今枝由郎氏の『ブータンの時間』を扱っていただいたので、ブータン人の生活における時間の流れについてはある程度の理解はあった。

ワークシートから生徒の反応を分析すると、異文化理解の授業以前のブータンのイメージは、のんびり、ゆったり、人が優しい、思いやりがあるといったもので、現代日本と対極にあるという感じだが、授業後のブータンのイメージは日本(人)に似ている、思ったより日本に近い生活をしている、意外に豊かという意見が多く、大きくイメージが変わったようだ。生徒たちなりに、ダショー西岡以来日本の国際協力が根付いているということを誇らしく感じ、ブータンに青年海外協力隊員として赴任するとしたら自分たちに何が出来るのか、考えてみようという項目では、様々なアイディアが出た。

「幼稚園、小学校などで活動したい」、「子供たちと関わりたい」、「ごみ処理の方法を教えたい」、「日本のことを教えたい」、「日本料理を振舞ってみんなで食事がしたい」、「英語で会話したい」、「ダンスと音楽を教えたい(みんなよろこんでやみたいだから)」、「日本語を教えてゾンカ語を学びたい」、「美術、工芸、工作を教えたい」、「ご飯を食べるときはテーブルの上に乗せて食べたほうが良いと教えたい」、「どんなことを教えれば役に立つのか一緒に考えて、お互いの文化を知ってから、必要なことを教えたい」など自由な発想ながらも、ブータンの人と深く関わりたいという思いに基づいた、また『国際協力は相手あつての協力』という基本を理解したうえでの解答がたくさん出たと思う。

またネパールとブータンはどちらが豊かか、またどちらに住みたいかという質問に関しては、圧倒的にブータン優位であった。その理由は、ネパールの経済的な貧しさをあげる場合と、ブータンの GNH の高さを挙げる場合に分かれた。GNH の高さの判断根拠には888の生活を挙げる生徒が多く、現代日本の高校生が忙しさに疲れていることが感じられた。

〔6〕授業実践の成果と課題

67人を対象に一斉授業で、生徒参加型の授業を行うことは困難で、パワーポイントによる講義を中心としたが、民族衣装やその他の現地の実物を目の当たりにし、ネパールブータンクイズなどに参加し、生徒たちは、いつもと違う授業として楽しんだようだ。高校生として、自分の意見をワークシートという形でまとめ、学期末考査では小論文として更に発展させることは難しかったようである。2学期の期末考査の論文は以下の5題から2題を選択して論じる形式で、多くの生徒は、A、B、D を選択し、格差や国際協力について論じていた。

- A.ガーナの水道も井戸もない地域に井戸を作ることになりました。村の人たちに使ってもらえるようにするために、井戸の利点をどのように説明しますか。
- B.青年海外協力隊員としてブータンに赴任することになりました。現地の人たちを支援するために、自分にどんなことができますか。現地の人とどう関わりたいですか。
- C.ネパールとブータンはどちらが豊かだと思いますか。自分の考えを、書いてみよう。(理由を述べること。)
- D.中国南部雲南省の山岳部の田舎の村の暮らしと都会である成都の暮らしを比較して、何故そのような格差が生まれるのか、考えてみよう。
- E.イギリス、ガーナ、ネパール、ブータン、中国、日本のうち国民の幸福度(GNH)が一番高い国は何処だと思いますか。自分の考えを書いてみよう。理由も説明すること。

〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

「国際協力の仕事～国際協力の仕事をするための入門書」 アルク

「AERA 2012年 7/2 号変わるブータン:「幸せ」の裏側」朝日新聞社

「秘境ブータン」 中尾佐助 岩波書店

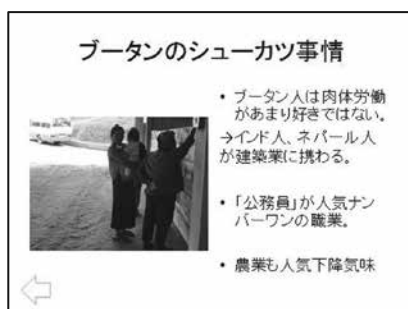
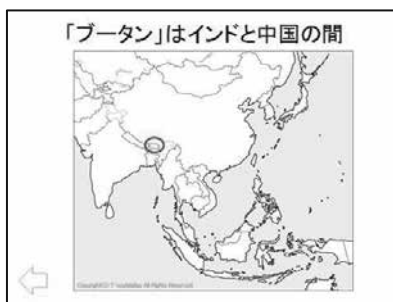
「未来国家ブータン」 高野秀行 集英社

「ブータン人の幸福論」 福永正明 徳間書店

「グローバル教育－教材とハンドブック」 全国国際教育協会 メディア総合研究所

「身近なことから世界と私を考える授業」 開発教育協会 明石書店

〔8〕使用教材(写真／図などの実物)

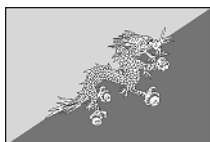


〔9〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

教師海外研修の研修先として数ある途上国の中でもブータン王国を訪問できて良かった、と、授業実践を終えて改めて感じた。JICA が行っている途上国支援の中でも、必ずしもすべての国で日本の支援が肯定的に受け入れられているわけではないと思うが、ダショー西岡以来、ブータン王国では日本の協力を深い感謝がなされている。農業が発展したことをきっかけとして、現在行われている教育、医療、行政における青年海外協力隊などの活動が肯定的に受け入れられていると研修を通して感じられた。そのような実情を通して、国際協力について高校生が勉強することは非常に意義深いと感じた。まず「途上国の人の役に立つことが出来る」という観点から国際協力に興味を持ち、どういうものか理解した上で、この先大学生になったり、就職した後に、国際協力の負の面などに気づくことがあったとしても、支援物資を送ると、関税がかかってしまう、良かれと思って行った支援が受け入れられなかったり、迷惑がられたり、など思い通りに支援が受け入れられない現状がある。「支援慣れ」してしまうと途上国の人の本当の意味で役に立つことにはならないのではないか、など。

現在勤務する田柄高校では、外国文化コースが設置されており、在京外国人入試なども実施されている関係で、外国籍の生徒が多く在籍する。そのため、学校生活を通して毎日が異文化理解という面もあるが、投げ込みの講演会ではなく教科として 1 年間異文化理解の授業を受けられるのは、日本人の生徒にとっても外国籍の生徒にとっても相互理解に大きく影響すると思われる。実際にフィリピンや中国、ミャンマーなど途上国から来ている生徒が多い中で、国際協力について授業で扱うことに少し躊躇はしたが、特に批判的なコメントなどを聞くことはなかった。日本に生活する中で日本人としてのものの考え方もできるようになってきているのかもしれない。

来年以降も今年度の授業をブラッシュアップし、今年度の課題であった、2 クラス合同の大人数の授業で如何に生徒参加型にさせるか、という点を改善し、生徒が自分でものを考えることのできるような授業をしていきたい。



BHUTAN

学校名：群馬県立万場高等学校

氏名：生形 文子

〔担当教科：地理・歴史〕

- 実践教科等：日本史B
- 時間数：2時間
- 対象生徒：高校3年
- 対象人数：16人

〔1〕単元名

21世紀の世界と日本

〔2〕単元の目的/目標(背景を含む)

高度経済成長以降、成長や競争・合理化に重きを置いた社会が形成されてきた日本であるが、これからは「経済効率よりも、人間らしく働き、生きる社会をつくる」という道を選ぶべきかについて、幸福度という視点で世界的に注目されているブータンを理解し、日本のあり方について考える。

〔3〕単元の構成

「21世紀の世界と日本」では「人類は戦争をなくせるのか」「米軍基地は必要か」をテーマにディベートを実施し、日本の展望や国のあり方について考えさせた。今回も「幸せ」という観点から日本の未来について考えさせる。

- ・ディベート「人類は戦争はなくせるか」—1時間
- ・ディベート「日本には米軍基地が必要か」—1時間

〔4〕授業の構成

1 時限目：【ブータンを知る】

3年教養コースは発言が活発で、時事問題に関心を持っている生徒が多い。ただし、ブータンという国に対する理解度は低く、事前アンケートで「ブータンと日本のどちらが幸せか」と問うと、「ブータンがよく分からないので選べない」という生徒が18人中10人と多数であった。地域の特性上、海外が身近ではない彼らにとって、「世界の中の日本」という捉え方をしてもらうためには、この時間にブータンの特徴をいかに理解できるか次第であり、次の時間でディベートを実施するため、できる限り精選されたブータンの情報を提供することが重要になった。

2 時限目：【ブータンと日本、どっちが幸せ？】

日本との交流も深いブータンの特徴を理解した上で、ブータンが世界的に注目されている理由を理解する。写真資料や統計資料を見ることでブータンに行ったことがなくてもブータンが世界へ発信しているGNH政策を知り、日本との比較を通して、「ブータンと日本どちらが幸せか」というテーマでディベートを行い、日本のあり方についても考える。

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【ブータンってどんな国？】 ・ブータンと日本の共通点に気付く。 ・民族衣装、首都・人口・面積・宗教・言語・通貨などのブータンの基礎情報を知り、ダショー西岡さんの紹介などからブータンへの関心を持つ。	【ブータンと日本は仲良し！？】 ・パワーポイントの資料、ブータン国旗、ブータン国王夫妻の結婚記念紙幣などを見て、ブータンのイメージをつかむ。日本とブータンの共通点について考え、ブータンと日本の関わりの深さを知り、ブータンへの親しみを持つ。	・民族衣装(ゴキラ) ・ブータン国旗 ・結婚記念紙幣 ・パワーポイント ・ワークシート	・積極的に発言しようとしているか。 ・ワークシートに記入しているか。

	【同じアジアのブータン、日本とどんなところが違うのか？】 ・「食生活」「環境」「学校」「暮らし」について違いについて発表する。	【グループ学習】 ・グループ学習で「食生活」「環境」「学校」「暮らし」の写真を見て、ブータンと日本の違いを見つけ、発表する。他のグループの意見を聞くことで、ブータンに関する理解を深める。	・写真 ・パワーポイント ・ワークシート	・積極的に発表しようとしているか。
2	【GNH 政策ってどんな政策？】 ・ブータンが「幸せの国」と言われるようになった理由をつかむ。 ・「医療費・教育費の無料、世界で最初の禁煙国家」などの GNH 政策の具体的な内容を知る。 ・ブータンと日本の GDP を比較する。	【GNH は幸せのための政策】 ・ブータン人の約 97% が幸福を感じているということや国王自ら「GNP よりも GNH が大切だ」と宣言し、約 70 万人の幸福のために国家政策を施行していることを知る。 ・GNH 政策は経済成長を重視する姿勢を見直し、伝統的な社会・文化や民意、環境にも配慮した「国民の幸福」の実現を目指す考え方であることを知る。 ・世界最貧国の 1 つと言われるブータンと経済大国の 1 つと言われる日本の格差を知る。	・パワーポイント ・ワークシート	・ワークシートに記入しているか。
	【日本って幸せな国なの？】 ・日本人の幸福度は世界的に見ると、決して高いことを知る。	【日本の幸福度は？】 ・OECD が発表した「よりよい暮らし指標」によると、日本では自分の生活に満足している人の割合は約 40%にとどまり、加盟国平均の約 59%を大きく下回っていることを理解する。	・パワーポイント ・ワークシート	・ワークシートに記入しているか。
	【幸せってどんな時に感じる？】 ・幸せを感じる瞬間について発表する。	【幸せってそもそも何？】 ・「どんな時に幸せを感じるか」について考え、発表する。	・パワーポイント ・ワークシート	・積極的に考え、発言できたか。
	【豊かでなくても幸せな国ブータン！？】 ① 「8・8・8」 ② 自給自足の生活 ③ 「足るを知る」 の 3 点から幸福度が高い意味を理解する。	【幸せの秘密】 ・1人あたりの国民総所得は約 19 万円程度であるにもかかわらず国民の 97% が幸せと回答していることを理解する。	・パワーポイント ・ワークシート	・ワークシートに記入しているか。
	【日本とブータン、どちらが幸せか？】 ・豊かでなくても幸せな国ブータンと豊かで幸せではない国日本という構図とする。	【ディベート】 ・日本の良いところ、悪いところ、ブータンの良いところ、悪いところを挙げる。 ・賛成派をブータン、反対派を日本とし、意見交換を行う。	・賛成・反対札 ・名前プレート ・ワークシート	・積極的に発言し、言葉で表現しようとしているか。 ・日本のあり方について考えようとしているか。
	【JICA ってどんな組織？】 ・世界の飢餓について知り、日本が世界に貢献していることを知る。	【JICA 紹介】 ・JICA 群馬デスクの矢部さんに「JICA 事業」について説明を聞く。	・JICA 事業プリント	・支援について理解できたか。

[4]授業の詳細

1 時限目:【ブータンを知る】

◎導入 ゴ・キラ◎

生徒から「着物みたい」という意見が出て、ブータンと日本の共通点が多いことを理解してもらえました。

このあと、国旗・紙幣などブータンの基礎情報について説明し、「2011年11月23日の5代国王ワンチュク国王夫妻の来日の際には決して裕福ではない国としては破格の援助とも言える、100万ドル(約8000万円)の義捐金を提供してくれた。」という説明や「ダショー西岡さんは日本人はほとんどの人は知らないのに、私が出会ったブータン人は全員知ってたよ。」という話をし、ブータンと日本は共通点も多く、仲良しという話をしました。

<ブータン衣装の説明>



<ブータン上陸>



◎発表 生徒の気づき◎

<ブータン・日本比較 グループ学習>

学校

- ・教室に国王の写真がある
- ・1つの机を共同で使っている
- ・「前習え」の位置が高い
- ・校庭に遊具がない
- ・体育の授業のあとに民族衣装を着せ合っている
- ・女子の髪の毛が1つ結び



食生活

- ・商品の置き方が無造作
- ・フリーマーケットみたい
- ・唐辛子など刺激的なものが好き
- ・英語の商品ばかり
- ・秤で野菜を売っている
- ・お菓子の袋が膨らんでいる



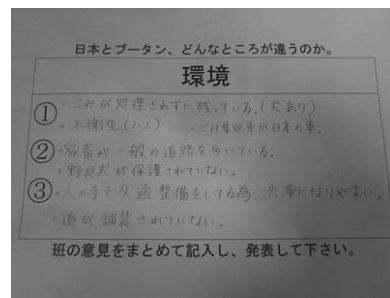
環境

- ・ゴミが処理されず残っている
- ・ハエがいっぱいいる
- ・家畜が一般の道路を歩いている
- ・野良犬が保護されていない
- ・町の写真に信号がない
- ・人の手で交通整備をしているため、渋滞になりやすい
- ・道が舗装されていない

<グループ発表>



<気づいたこと>



暮らし

- ・家の中の明かりや壁が暗い
- ・仏壇がある
- ・たばこが禁止の看板がある
- ・トイレにきんかくしがない
- ・トイレの便器の近くにパケツがある

ココがポイント!

写真を見ている時はヒントをなるべく言わずに、発表の時に「ここには気づいてくれなかったのか～、残念だな」と言いながら、たくさんの情報を提供し、生徒の中でのブータン像を膨らませる。

2 時限目：【ブータンと日本、どっちが幸せ？】

<ワークシート 記入例>

◎本題へ ブータンの日本の良いところ・悪いところ◎ 生徒に伝えたこと

・2005年の国勢調査で「あなたは幸せか？」というアンケートを行ったところ、とても幸福と答えた人が45.1%

幸福と答えた人が51.6%

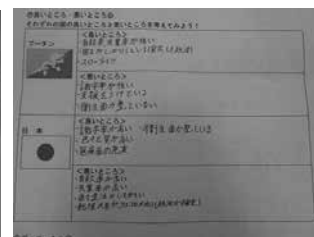
すなわち国民の96.7%の人が幸せと回答し、→「幸福の国」「幸せの国」として世界中の注目の的になりました。

・きっかけは国王であり、国王自ら経済成長を重視する姿勢を見直し、伝統的な社会・文化や民意、環境にも配慮した「国民の幸福」の実現を目指す考え方を提唱しました。

→国家の経済的な豊かさよりも国民の幸せを国家政策の指針にしました。

・国民総幸福GNHの4本柱①持続可能で公平な社会経済開発②環境保護③文化の推進④良き統治であり、具体的政策としては①医療費と教育費が無料②世界で最初の禁煙国家③国土の森林面積の割合を60%以上などを紹介しました。

・最後に失業率、識字率、平均寿命、自殺率を比較したグラフを見せて、多様な見方でブータンと日本の実態を掴んでもらえるようにしました。



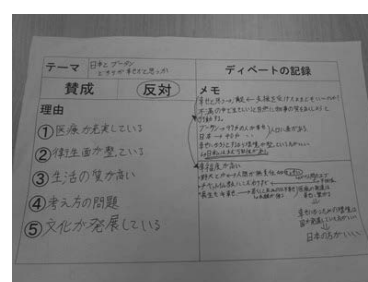
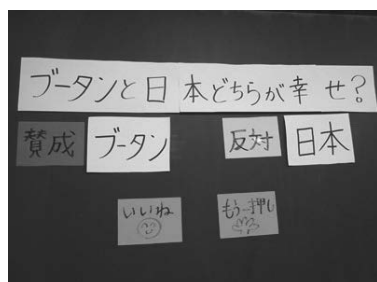
◎ディベート ブータンと日本どちらが幸せ？◎

賛成派をブータン、反対派を日本として、意見交換を行いました。

<ディベート 板書>

<討論の様子>

<意見例>



<賛成派＝ブータン派の意見>

- ・お互いを助け合う人間関係が築かれており、現状を幸せと感じていることは素晴らしい。
- ・96.7%の国民が幸せと言っているなら幸せに違いない。
- ・野犬について日本では去勢手術もできるのにお金がかかるという理由で保健所で殺してしまうこともあるので、ブータンは犬を殺さないし、不殺生なのは素晴らしい。
- ・日本は自殺率が高く、幸福度が低いので、ブータンの方が幸せだ。

<反対派＝日本派の意見>

- ・ブータンは日本の支援を受けているのに、現状に満足して良いのか。
- ・「足るを知る」ということは支援を受けているのにその状態で満足しているということになるので、それで良いのでしょうか。
- ・生活環境が良く、寿命が長い日本は幸せを感じられる機会が多いのではないかな。
- ・日本の方が衛生的で環境が整っているので、幸福になるために何でもできるので日本の方が幸せだ。

ディベート授業は3回目で生徒も慣れていましたが、「幸せは個人の価値観だから難しい。」という意見も多かったです。

◎JICA事業の説明 群馬デスク矢部さんより◎

開発途上国では「3秒に1人の子どもが貧困のために命を落としている」という話をした後に、JICA群馬デスク矢部さんに支援についての話をさせていただきました。JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の3つの手法、「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」を一元的に担っているという説明を行っていただきました。



〔5〕児童・生徒の反応/変化

感想

国民が幸せになるにはトップがしっかりしなくてはいけないと感じた。日本の場合、国民主権なので、1人1人が政治や政策に関心を持ち行動すべきだと思った。ブータンの人々は今を幸せと感じられているところが良いと思う。逆に日本人は向上心があることがとても良いと思うが、少し今を楽しむことが必要なのではないかと思った。重要なのは「おもしろくなき世をおもしろく」(高杉晋作)なのかもしれないと感じた。

実はこの授業を受けるまで、ブータンという国について名前を聞いたことがあるくらいで、あまり深く知りませんでした。しかし、説明を聞いていくうちにブータンという国は貧しいながらも国民1人1人が幸せに感じている割合が高い国だということが分かり、今の、自殺者などが増え続けている日本にとっては学ぶべきところもあるのではないかと思います。また、その後にした、「日本とブータンどちらが幸せか」というディベートでは私は日本派だったのですが、意見を交換していくうちに、ブータン派の意見の中には「なるほどな」と思うような意見もあり、ブータンもいいなと思うようになりました。最終的に日本派に軍配が上がりましたが、両者共に活発に意見を交換し合うことができ、良いディベートになったのではないかと思います。

〔6〕授業実践の成果と課題

<成果>

1、授業実践を通して、教師の幅を広げるための“チャレンジ”ができたこと。

T・Tでの授業、ディベート授業、モノや写真の積極的活用、民族衣装着用など、今までやりたいとは思っていたが、校種が高校ということで「どのように生徒に受け止められるか？」ということで自分の中で憚っていた部分を形にでき、授業を展開できたこと。

2、日本の将来について生徒に考える機会を与えることができたこと。

日本は震災・原発・少子高齢化など様々な問題を抱え、大きな舵取りが叫ばれているが、こんなご時世だからこそ、生徒たちに日本のあり方について一度考えてもらいたいという願いが日頃からあり、世界の注目を集めるブータンは格好の教材だった。次世代を担う生徒たちに、日本の将来のビジョンについて、現実路線なのか、はたまた理想を追求していくのか…政治家さへ自信を持って言えないこれから先の日本をどうしていくべきか、2年後に選挙権を得る生徒たちに考えてもらいたいと思っていたため、ディベート授業を通して日本の良いところ・悪いところについて考える時間を確保できたことはとても良かった。

<課題>

1、対象の生徒が高校3年生であり、時期も12月になってしまい、2時間という限られた時間の中、授業実践を行うことになってしまい、展開が忙しく、もう少し生徒たちが考える時間をじっくり取れば良かったということ。20分程度は熟考する時間が確保できればなお良かった。

2、ブータンの情報がテレビでたくさん放送されている時にデータ化しておき、授業に活用できる映像を収集しておく必要があったこと。授業展開を考えるうちに、「このデータが必要だったのに録っておくのを忘れた」など後悔に思うことが何度もあった。事前や事後にできる限りデータ化しておく必要があった。現地での視察は重要だがハードスケジュールなので、意外と授業のことまで考える余裕がない。実は日本でできることもたくさんある。インタビューや画像などを話や写真だけではなく、随所に映像を流しながらポイントを伝えていく展開の授業の方がおもしろかったと思い、反省点であり、今後の課題である。

〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

日本の幸福度 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎著 日本評論社
「美しい国ブータン」 平山 修一 リヨン社
「ブータン」 Wikipedeiaホームページ
「ブータン～国民総幸福量(GNH)を尊重する国」 外務省ホームページ

〔8〕使用教材(写真／図などの実物)

パワーポイント

豊かではなくても幸せ？

1人あたりの国民総所得は約19万円程度であるにもかかわらず国民の約97%が幸せと回答している。

→豊かでなくても幸せな国なのである。

日本って幸せなの？

*OECDが発表した「よりよい暮らし指標」によると、日本では自分の生活に満足している人の割合は約40%にとどまり、加盟国平均の約59%を大きく下回っている。日本は2011年19位で、2012年は21位(36か国中)となっている。

→日本人の幸福度は決して高くない。

幸せの秘密

①家族との時間を大切にしている。「8・8・8」

→8時間労働、8時間睡眠、8時間家族と過ごす時間

②自給自足の生活である。

→牛やニワトリを飼い、チーズや牛乳を作り、卵を採り、自分の土地で米、野菜を作る。食べ物には困らない。

③チベット仏教に根付く「足るを知る」という考え方が浸透している。

足るを知る

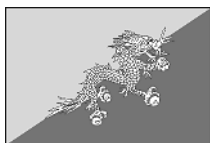
* **足るを知る者は富む**(たるをしるものはとむ)と言う句があります。今を満ち足りたものとし、現状に不満を持たない者は、満ち足りた心で生きていける。己の身の程を知り、それ以上を望まないことが、豊か生きるということである。

〔9〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

参加する前は地理歴史科の教員として、「JICA事業が世界でどのように受け止められているか」ということが最大の興味であり、日本の支援が好意的に受け止められているのかということは現地でしか分からないと考え参加したが、実際得られたものは「人として」というとても道徳的で教員である自分をもう一度振り返る機会となった、不思議な経験であった。同じ職業を持つ者同士の悩みの共有だったり、仕事や家族に対する思いであったり、色々な人生があり、そんな色々な価値観を持つ人が授業をするからこそ、価値があるのだらうと教員としての原点に戻るような気持ちにさせられた。現地だけでなく、日本でもよりよい授業のために語り合えたことは生涯の思い出となり、宝物となった。特に得られたものを5点挙げたい。

- 1、教師海外研修に参加された熱心な先生方からたくさん刺激を受けたこと
- 2、JICAスタッフの方々のスピーディーで臨機応変な対応力に感動したこと
- 3、技術協力専門家・青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの活動をこの目で見られたこと
- 4、授業実践を通して、ディベート授業への挑戦ができたこと
- 5、事前研修や事後研修で、授業の手法について学ばせていただいたこと

教師海外研修で様々なことを学ばせていただき、JICAスタッフの方々の暖かい対応には本当に感謝しています。国際理解教育のために今後も尽力していくことが恩返しだと思っておりますので、微力ながらも頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。



学校名: 東京都立小平特別支援学校

氏名: 清水 マヤ

[担当教科: 遊びの指導、生活単元学習]

- 実践教科等: 総合的な学習の時間
- 時間数 : 6時間
- 対象生徒 : 肢体不自由校 小学部5学年
- 対象人数 : 8人

[1] 単元名

“ブータン”ってどんな国？

[2] 単元の目的/目標(背景を含む)

＜本校の教育課程＞

- 自立活動を主とする課程・・・自立活動の指導を中心に編成された課程
 - ★ 知的代替課程・・・各教科等を合わせた指導を中心に編成された課程。
- (以下の各単元目標と単元の構成に、該当する教育課程の記号●★を記す。)

- ① ブータンという国に興味を示し、それぞれが主体的に活動に取り組もうとする。●★
- ② 民族衣装や音楽等に触れ、体験して感じたことを顔の表情や発声で表したり、言葉で伝えたりする。●★
- ③ 友達の活動に注目したり、聞いたりして学習を楽しむ。●
- ④ ブータンの生活や文化を通して、あいさつや仲間との協力の大切さに自ら気づく。★

[3] 単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1 2	【ブータンという国に興味をもつ】	①ブータンの写真や動画を見る ・ブータンの風景や人、食べ物等具体的な写真や民族ダンスの動画を見て、文化を知る。 ②ブータンのあいさつを知り、使ってみよう ・「クズザンポーラ！（こんにちは）」と一人一人あいさつをする。	CD 写真 動画 マイク 民族衣装 お香	●★提示物や映像に、視線を向けて注目する。 ●★口の動きや発声、発語により、あいさつをする。
3 4 5	【ブータンという国を知る】	①ブータンものしりゲーム ・ブータンの国や文化等の様子についてクイズ形式のゲームをする。 ②民族衣装を着る。 ・ゲームに勝ったチームは民族衣装を着る。	テレビ PC ipad スイッチ 民族衣装 シール マイク お香 ルンタ ついたて ホワイトボード	●★授業の見通しをもって活動する。 ●★友達が活動しているところを視線の動きや応援することで注目する。 ●★体験したことを顔の表情や発声等で表現する。 ★日本と同じところや違いに気づく。 ★自分の考えを自信をもって伝える。
6	【ブラックパネルシアターの鑑賞】	①前回までにやったクイズの復習をする。 ②ブータンの「フレンドシップストーリー」のパネルシアターを鑑賞する。	テレビ PC パネルシアター	●★前回までの授業を思い出す。 ●★シアターに注目し、話を聞く。 ★話を聞いて感想をもち、伝える。

〔4〕授業の詳細

1・2時限目：【ブータンという国に興味をもつ】

ブータンのあいさつを使って遊ぼう！

- ① ブータンの衣装を着てお香を持って登場。
- ② ブータンの話を映像を見ながら聞く。
- ③ ブータンのあいさつ遊びをする。

⇒ブータン音楽がかかっている間は歩き回り、音楽が止

まったら近くにいる民族衣装を着た ST に「クズザンポーラ！」とあいさつをし、ブータンの言葉に慣れ親しんだ。児童の声が聞こえやすいことや声を出そうとするきっかけ作りのために、マイクを使用した。

いつもの先生が違う格好をしていることに興味をもっている児童が多かった。

ココがポイント！

ブータンへの興味関心を高めるため、五感で感じられることを大切に。民族衣装での登場（視覚）、お香（嗅覚）、音楽（聴覚）を取り入れた。

3～5時限目：【ブータンという国を知る】

ブータンものしりゲームをしよう！

- ① 一人ずつ「クズザンポーラ！」とあいさつをする。
- ② 2チームに分かれてゲームを行う。
⇒個別に出題された課題や質問に取り組み成功・正解すると、チーム全体にブータンシールが配られる。最終的にシールの枚数が多いチームに、民族衣装が着れる権利が与えられる。一方のチームは ipad を使ってその様子を写真撮影する。
結果発表の時は盛り上がり活動に注目できていた。

ココがポイント！

児童の障害実態が幅広いため、重度重複の児童も活躍できることに配慮し、教育課程毎に出題内容を考えた。また、活動の見通しがもてるよう繰り返し同じ活動を行った。

教育課程	「ブータンものしりゲーム」での出題内容	出題する上での留意点
●自立活動を主とする課程	○旗(ルンタ)掲揚 ○ブータンの国旗はどっち？	・比較やマッチングが難しい児童であるため、児童の自発的な動きや表出を引き出すような課題を出題する。
★知的代替課程①	○ブータンの国旗はどっち？ ○ブータン人はどっち？ ○ブータンの食べ物どっち？ ○ブータンの伝統衣装はどっち？ ○ブータンダンスの動画再生とダンス	・児童にとってわかりやすく達成感を味わえるようなものにする。 ・友達の前での発表を意識できるようにものにする。 ・名称や対象物の比較を中心とした課題を出題する。
★知的代替課程②	○日本とブータンの位置や大きさの比較 ○この国旗はどこの国旗？(マレーシアの国旗) ○これは何だと思う？(ブータン唯一の手旗信号) ○ブータンの食べ物どっち？	・昨年度学習したマレーシアのことも思い出せるようにする。 ・写真を見てそれは何か考える時間をつくる。

＜ものしりゲーム＞

児童一人ずつ出題をしていく。

2択の問題で、スイッチを使って答える。



国旗を貼ったスイッチ。
正解を押すと・・・
「ピンポーン」と鳴る。
児童にわかりやすく、
うけもよかった。



ルンタの掲揚

TV に映ったルンタの写真を見て、当てられた児童が実際どんな物かみんなに見せた。

持ちやすいように輪にした紐や、コントラストをはっきりさせるために黒のついたたと布を使い、布を引っ張り終えた時のルンタの登場をわかりやすくした。



布を引っ張ってみると・・・
ルンタが出てきた！
みんなに見せられたね。

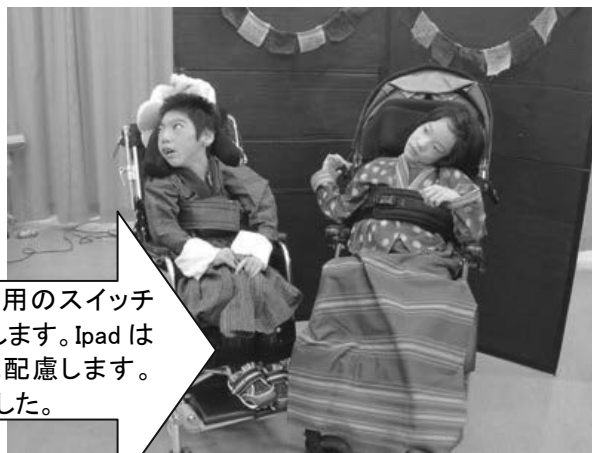


民族衣装の写真撮影

チーム対抗で、ボタンシールを多くもらったチームが民族衣装を着られる。一方のチームは Ipad につなげた特殊なスイッチを押して写真撮影をする。



撮影係が、専用のスイッチ
を使って撮影します。Ipad は
目線の高さに配慮します。
上手に押せました。



特殊な電源スイッチ
をつなげることで、
児童がシャッターを
押しやすくなる。

6限目:【ブラックパネルシアターの鑑賞】

ブータンのフレンドシップストーリーのブラックパネルシアターを見よう！

- ① 一人ずつ「クズザンポーラ！」とあいさつをする。
- ② 前回までのものしりゲームの振り返りをする。
- ③ フレンドシップストーリーの話をブラックパネルシアターを鑑賞しながら聞く。

⇒ブータンのあらゆるところで見かける動物の絵がある。
この話を友達と協力したり、大切にすることを感じてもらえることをねらいとし行った。

ブラックパネルシアター



ココがポイント！

視覚的に弱い児童が多いため、部屋を暗くしてブラックライトで光らせるシアターにした。重度重複障害の児童は、これにより注視する様子が見られた。

「鳥が落とした種に、うさぎ、猿、象がそれぞれのやり方で木を育てた。協力して大きな木になっている果実を取り、みんなで分け合って食べた」という簡単なストーリーをブラックパネルシアターで鑑賞する。
児童によっては、最後の感想文にこの話で感じたことや、今後がんばることを書いてまとめた。

＜全授業終了後の児童の感想＞

日本とブータンの「ちがうところ」と「おなじところ」を書いてもらって、

- ・しんごう
- ・はた
- ・ごはん
- ・ふく

が共通してあげられていた。理由を聞いてみると、「(形状等)にほんとちがうけど、ブータンにもあるんだとおもった。」という感想を聞いて、児童なりの気づきに驚かされた。
ブラックパネルシアターを鑑賞しての感想も書いた。

「ブータンのじゅぎょうをしてみよう」

先生が書いてみたいこと！	かんがえたこと
ブータンのあいさつは？	クズザンポーラ
ブータンと日本のちがひ、何かわかったかな？	しんごう、はた、ごはん、ふく、男女
ブータンと日本でおなじところ、何かわかったかな？	しんごう、ごはん、ふく
ものしりクイズをして、わかったこと・すこしいと思ったことは？	自分たちは人をもててくると、ブータンの人は日本のおもてなし
パネルシアターを見て、思ったことは？	みんな力をあわせてがんばる
ブータンのじゅぎょうをうけて、これからがんばろうと思うことは？	みんなをみんなまで力をあわせて、いっしょにがんばる

〔5〕児童・生徒の反応/変化

～印象に残る児童の反応や変化～

MT 突然カーテンの後ろから民族衣装を着て、お香を持って登場し、「クズザンポーラ！」とブータンの「こんにちは」を言う。

児童 突然のことにびっくりする児童や笑顔になる児童がいた。

→インパクトがある教材を突然提示したことで興味をひいた。

MT 「クズザンポーラ！」と言いながら、1人ずつマイクを向ける。

児童 授業を重ねる度に発声することが増えた。

→同じ学習内容を繰り返すことで授業の見通しがもちやすくなった。

〔6〕授業実践の成果と課題

●授業実践のきっかけ●

現在、私は肢体不自由校5年間重度の児童の担当をしてきた。児童たちは発語はないが、見たり、聞いたりすることを大切とした授業の中で人と関わる楽しさや、社会性、コミュニケーション力等を身につけている。小学校では外国活動が導入されたが、特別支援学校ではあまり盛んでなかったり、限られた学級でしか外国文化に触れる機会がないことに疑問をもっていた。重度の児童たちにもわかりやすく提示、経験させることで、「何かいつもと様子が違う?!」や「この音楽好き!」等の児童1人1人の新たな興味を引き出せると考えたため、児童の実態が幅広い学年全体の授業で行うことにした。

●授業実践の成果●

教育課程毎の出題内容・・・ブータン文化を中心とした出題内容にした。児童の実態の幅があるため教育課程毎で出題内容を考えたおかげで、それぞれの課題の目標が達成しやすくなった。

教材・環境の工夫・・・わかりやすい提示のため写真を多く取り入れたり、スイッチ、ブータンシールを使うことで活動への興味につながった。Ipad のカメラボタンをタッチすることに困難がある児童が多いため、スイッチをつなげることで押しやすくなった。パネルシアターは、ブラックライトを使うことで重度の児童も注目しやすかった。MT の背景の色を統一することで、余計な情報が遮断され注目すべきところが児童にとってわかりやすかった。(背景にカーテンをひいた)

児童の興味・関心・・・重度の児童の中には、ブータン音楽が流れると身体の動きが止まり、聞き入っているような様子が見られた。また、「来年はどこの国やるの?」とブータン以外の国に興味をもったり、外国文化に触れる機会を楽しみにしたりする様子が見られた。「(テレビでブータンの特集を見て)ブータンだって気づいた!」という声もあった。ゲーム方式でブータンの文化について考えたり、民族衣装を着る経験をしたことで、児童の印象に残りやすく次への期待感も高まった。

●授業実践の課題●

ブータンについて「異文化体験」を中心とした学習を行った。ねらいにそった内容にしたつもりだったが、メインであるものしりゲームが3回設定だったのは重度の児童にとって短かったことと、6限目の内容を1回しかできなかったことは残念だった。基本的に同じ内容を毎回繰り返すが、児童の実態が幅広いため、児童によっては前回の授業から変化をもたせた指導対応をもっとするべきだった。

〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

・『平成 23 年度教師海外研修報告書』 JICA 地球ひろば

・『平成 25 年度都立特別支援学校教育課程編成の基本方針』 教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

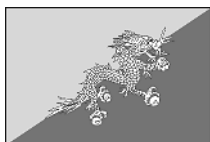
〔8〕使用教材(写真/図などの実物)

授業の詳細等で紹介

〔9〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

以前から国際理解教育には興味があり、特別支援学校でもやりたいと考えていた。昨年度、初めて国際理解教育に携わった経験から、現地から学べることを全児童にどうやったら伝わりやすくなるのか考え始めるようになった。他校種の教員と共に過ごし、考え合うことで様々な国際理解教育の手法を学ぶことができ、特別支援学校でもできることを再考し共有できたことが今回の大きな収穫だと感じている。

今後は、過年度の教師海外研修に参加した特別支援学校の教員と情報交換をし、東京都の特別支援学校での国際理解教育普及に関われたらと思う。



BHUTAN

学校名：群馬県立榛名養護学校

氏名：清水 香奈

[担当教科：全教科]

- 実践教科等：ロングホームルーム
- 時間数：4時間
- 対象生徒：高校1年生
- 対象人数：8人

[1]単元名

みんなちがってみんないい～文化も考え方も～

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・ブータン王国について知り、世界を広げるきっかけをつくる。
- ・皆違ってそれぞれに良さがある「みんなちがって、みんないい」という「他者を認め、受け入れる心」を育てる。
- ・「助け合いの精神」と「思いやりの心」を育てる。

<背景>

本校は知的障害の生徒が在籍する特別支援学校である。本学級の生徒は、知的障害からくる生活経験の不足や過去の辛い経験などから、自分に自信を持てず、他者と関係を築くことを苦手とする面がある。本実践では、国への理解から、自己理解、他者理解へ広げていきたい。異文化に触れ、受け入れていく経験をすることで、自分とは異なる個性を持つ他者を理解し、互いに協力し合う気持ちを育成していきたい。また、生徒には社会に出てからも、新しい環境や人との出会いが待っているが、相手を認め、環境を受け入れていく柔軟な力を身に付けてほしいと考えている。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の方法
1	ブータンを知ろう。	①ブータン式のもてなしを体験する。 ②日本人とブータン人の顔を比較する。 ③世界地図で、日本とブータンの位置を確認する。 ④ブータンの写真や動画を見て、ブータンの様子や日本との繋がりを知る。	・民族衣装(キラ) ・ルンタ(旗)・お香 ・ブータンのCD ・ガジャ(ミルクティー) ・クッキー ・世界地図・顔写真 ・動画 ・パワーポイント	・学習活動の観察 ・感想
2	ブータンと日本を比べてみよう。 ～文化・生活・人々～	①1時間目で紹介した、クズザンポー(こんにちは)で挨拶をする。 ②ブータンと日本の比較をする。 ③食事について1枚の写真を見て、日本と同じ所、違う所を見つける。 ④カディンチェラ(ありがとうございます)で挨拶をする。	・民族衣装(キラ) ・ルンタ(旗)・お香 ・「同じ」「ちがう」カード ・赤、青シール、磁石 ・ワークシート ・写真(民族衣装、食事) ・動画 ・パワーポイント	・学習活動の観察 ・ワークシートへの記入 ・感想
3	ブータンと日本を比べてみよう。 ～考え方・幸せ①～	①クズザンポーで挨拶をする。 ②瞑想体験をする。 ③「助け合い」「思いやり」「ゆずり合い」の場面を見て、自分ならどうするか考える。 ④幸せについて考える。	・ブータンTシャツ ・「同じ」「ちがう」カード ・写真(僧、授業) ・動画 ・パワーポイント	・学習活動の観察
4	ブータンと日本を比べてみよう。 ～考え方・幸せ②～	①「クズザンポー」で挨拶ゲームを行う。 ②「殺生を嫌う」ことについて考える。 ③物語から尊敬、協力、友情について考える。 ④ブータンの子どもたちからのメッセージビデオを観る。	・ブータンTシャツ ・ブータンのCD ・挨拶シート ・シール ・動植物の絵 ・動画 ・パワーポイント	・学習活動の観察 ・感想

[4]授業の詳細

1 時限目:【ブータンを知ろう。】

学習内容	生徒の活動〔〕教師の支援及び留意点	評価の観点
○ブータン式のもてなしを体験する。 ココがポイント! 生徒がいつもと違う雰囲気を感じられるような環境作りを行う。 	・ルンタ(旗)、お香があり、ブータンの音楽がかかった教室に入る。 [教師は、キラを着て生徒を出迎える。「クズザンポー」と挨拶をして、ゾンカ(ブータンの母国語)と英語で話をする。] ・ガジャとクッキーでブータン式のもてなしを体験する。 [ゾンカと英語で語りかけ、ガジャとクッキーを配る。]	・いつもと違う雰囲気を感じ取ることができたか。
○日本人とブータン人の顔を比較する。 ココがポイント! 選ぶ時点では、日本人以外の人がブータン人であることは明かさない。   (日本人) (ブータン人)	・自分は何人であるか確認する。 ・ワークシートの日本人とブータン人の顔写真の中から、日本人を選ぶ。 [生徒が選び終わったところで、<u>パワーポイント</u>を用い、正解を発表する。] ・日本人以外の人たち(ブータン人)はどんな民族衣装を着ているのか写真を見る。 [ここで初めて、本日はブータンについて学習することを伝える。] 	・顔は似ていても、違う国の人であることが理解できたか。
○世界地図で、日本とブータンの位置を確認する。 	・日本とブータンの位置を確認する。 [どのくらい離れているかを捉えやすくするため、飛行機で何時間かかるかを具体的に伝え、遠く離れていても、顔が似ている国であることを伝える。]	
○ブータンの写真や動画を見て、ブータンの様子や日本との繋がりを知る。 ・地形、言葉、町並み、学校、家、日本(JICA)のマークなど。	・パワーポイントをみて、もし自分がブータンを旅したらどのような雰囲気かを味わい、ブータンを知る。 ・日本人が人気者であるのはなぜかを知る。 [興味を持てるように、クイズを出題しつつ、エピソードを紹介する。]	・クイズに参加できたか。

2 時限目:【ブータンと日本を比べてみよう。～文化・生活・人々～

学習内容	生徒の活動〔〕教師の支援及び留意点	評価の観点
○ブータンと日本の比較をする。 (例)ポスト、トイレ、皿洗い、道路、自然、田、ポイ捨て、信号、買い物、秤、授業、国王、生徒会、お弁当 ココがポイント! パワーポイントのコメントに着目して同じか違うかを判断する。 	・ブータンの写真や雑貨を見て、日本と「同じ」か「違う」かを判断し、「同じ」「ちがう」カードを挙げる。 [一人で考えることが難しい生徒は、教師の問いかけに答える形で選ぶようにする。正解、不正解はなく、答えた生徒の考えを採用する。日本と同じと感じる人も、違うと感じる人もいて良いことを伝える。] 	・比較をしてカードを挙げられたか。

○食事について1枚の写真を見て、日本と同じ所、違う所を見つける。	・食事の様子を見て、何が同じで、何が違うか自由に考える。 [文字で表現することが難しい生徒は、同じ所(青)、違う所(ピンク)にシールを貼れるようにする。] ・全体で、写真を見ながら考えを発表しあう。 [自分と同じ考えの人も、違う考えの人もいて良いことを伝える。] ・ブータンの食事についての説明を聞く。 [まとめとして、「紹介したのは、教師が見てきたブータンの様子であり、紹介したこと以外にもブータンには様々な文化があり、様々な民族がいる。」ことを伝え、イメージが偏らないようにする。]	・同じ所、違う所を見つけられたか。
---	---	--------------------------



3時限目:【ブータンと日本を比べてみよう。～考え方・幸せ①～】

学習内容	生徒の活動 [] 教師の支援及び留意点	評価の観点
○瞑想体験をする。 ココがポイント! 「瞑想をすると自分の考えがどこにあるか分かる。一番大切なことは『考え方』であり、考え方を素晴らしくすることで『口』は悪口を言わなくなり、『体』をきれいにすることができる。」という僧から聞いたエピソードを図を用いて生徒に分かりやすく伝える。	・2分間、前を向いたまま目を閉じて、頭の中を空にする。 [「ブータンで、お坊さんや子どもたちが学校で行っていることをまねてやってみよう。」と瞑想とは言わずに、体験できるようにする。] ・瞑想の説明を聞き、考える。 [ブータン人が瞑想を行う理由を、考え方、口、体の図を使い説明する。]	・考え方が大切であることに気付くことができたか。
○「助け合い」「思いやり」「ゆずり合い」の場面を見て自分ならどうするか考える。 ・年上の人が年下の人への面倒をみる。 ・鼻血が出てしまった子に友達が付き添う。 ・コマや竹とんぼが人数分なくても、譲り合って遊ぶ。 ・挨拶をするときは、皆笑顔になる。	・ブータンで教師が見てきた「思いやり」や「助け合い」などのエピソードを聞いて、自分と同じか違うかを考え、「同じ」「ちがう」カードを挙げる。 [写真や動画、文字など視覚的な情報を提示し、自分だったらどうするか想像できるようにする。]	・比較をしてカードを挙げられたか。
○幸せについて考える。 <生徒のアンケート 抜粋> ・ごろごろのんびり ・ゲーム ・本 ・歌 ・ダンス ・アイス食べたとき ・車に乗っているとき ・勉強がんばったとき ・みんなと仲良かったとき ・友だちといるとき ・友だちが笑顔のとき ・友だちが優しいとき ・みんなと協力できたとき	・事前に行った「あなたが幸せ(嬉しい)と感じるのはどんな時ですか。」というアンケートを振り返る。 ・ブータンの子どもたちがどんな時に幸せを感じるのか、英語で答えているインタビュー映像を見て、何を言っているのか予想する。 ・自分と同じかどうか比較する。	・自分とブータン人の感じ方を比較できたか。

4時限目：【ブータンと日本を比べてみよう。～考え方・幸せ②～】

学習内容	生徒の活動 [] 教師の支援及び留意点	評価の観点
○「クズザンポー」で挨拶ゲームを行う。 ココがポイント！ ブータン流は笑顔を忘れずに。 	- 音楽に合わせて動き、ストップしたところで近くの友だちと挨拶をする。 - 挨拶を交わした相手の挨拶シートに自分のシールを貼る。 [全員と挨拶できるように呼びかける。挨拶を覚えられない生徒が読めるように、挨拶シートには「クズザンポー」と書いておく。]	笑顔で挨拶できたか。
○「殺生を嫌う」ことについて考える。 ココがポイント！ 様々な動植物を登場させることで、捉えやすくする。 	- 自分に蚊が止まったらどうするかを表現する。 [蚊の模型を用い、自分ならどうするか想像しやすくする。] - ブータン人が「殺生を嫌う」エピソードを聞く。 [様々な動植物の絵を登場させ、ブータン人は「周りの生き物全てが幸せになる」ことを願っていることを伝える。]	自分とブータン人の考え方について比較できたか。
○物語から尊敬、協力、友情について考える。	  - ブータンで有名な「4フレンズ」の物語を聞く。 [パワーポイントや動物、木、実の絵を用い、物語を話す。] - 動物がどうやって木の実を採ったか考える。 [ブータン人が尊敬、友情、協力を大切にしていることを伝える。]	物語を聞き、ブータン人の思いを知ることができたか。
○ブータンの子どもたちからのメッセージビデオを観る。	英語のメッセージを見て、何を言っているか予想しながらメッセージビデオを観る。	

【5】児童・生徒の反応/変化

【1 時限目】

ブータンの民族衣装を身に付け、ゾンカや英語を話す教師をみて、生徒はいつもと違うと感じ、「いつもの先生に戻って。」と言っていた。しかし、教師に合わせ、知っている英語で答えなければと頑張ったり、ジェスチャーを見て雰囲気で活動したり、それぞれ楽しめていた。ガジャとクッキーを「シェ(どうぞ)」と言いながら配っていくと、照れつつも嬉しそうにしていた。

日本人とブータン人の顔写真の中から日本人を全て選べた生徒はおらず、正解を発表すると、「日本人と間違えちゃった。」という呟きが聞こえてきた。「日本人ではない人たちは、このような民族衣装を着た人達です。」とブータン人の写真を見せると、『ゴ、キラ』という民族衣装の名前をすぐに覚えた。

世界地図で、日本の位置は分かる生徒がいたが、ブータンは探しても見つけられなかった。地図で見ると2国は近く見えるが、「歩いていけるか、自転車で行けるか、バスで海の中も行けるか・・・」と1つずつ聞いていくと、「違う、行けない。」という答えが返ってきたので、「では、どうやっていく？」と聞くと、「飛行機」と答えられた生徒がいた。日本からブータンに行くには10時間かかるというと「近い」と感覚的に答えたので、「朝ご飯を食べて夕ご飯を食べるまでずっと移動中。」と伝え、遠いと捉えられた。

中国やインドを知っている生徒は半数いたが、ブータンは1人だけ何となく聞いたことがあると答えた程度であった。ブータンについてのパワーポイントを見つつ、クイズを出すと、答えを予想したり、自分たちと比べたり、とても反応が良かった。日頃、返答に時間をかける生徒も、答えがぼんぼん返ってきて、とても楽しめている様子だった。最初にガジャとクッキーを食べたように、ブータンではいつもおもてなしをしてもらえると伝え、行きたいという声があがった。

<授業後の生徒の感想>

- ・お茶、クッキーおいしかった ・挨拶はクズザンポー ・日本人の顔みたい ・清水先生が着たのはキラ
- ・先生の衣装がとてもにあった ・飛行機でブータンに行ってみたい ・牛が外を歩いてた
- ・ブータンのけしがとてもきれい ・戦国時代みたい ・三丁目の夕日みたい ・何台車があるんですか
- ・何で道がせまいのですか ・建物は何で竹で作るんですか ・ブータンの街、店に行ってみたい
- ・アーチェリーの喜びダンスをみたい ・ポップコーンの袋をブータンに持っていくとふくらむ
- ・ブータンは男の人と男の人が手をつなぐ仲のよい国

【2時限目】

正解、不正解はないと伝え、周りを気にすることなく、自分の考えで「同じ」「ちがう」のカードを挙げ、その理由を答えることができた。例：「ポイ捨て」は自分もごみ拾い活動をしているから「同じ」、「手を挙げて発表」は自分たちも授業でしているから「同じ」、「ポスト」は書かれている字が読めないから「違う」、「道路」は土じゃないから「違う」、「自然がたぐさん」は前橋の風景とは「違う」など、様々な視点で多くの意見が出た。ブータンと日本の相違点や感じ方は人それぞれ異なるということを捉えられた時間となった。

「食事の様子」を見て、同じ所の例として、「コップ」を提示すると、違う所として、生徒から「手で食べている」と意見が出た。この2点を全体で確認したのみで、それ以外は自分たちで次々と見つけることができた。言葉にしたり、字が書けなかったりする生徒はシールを自分から貼ることができた。（例：ペットボトルは「同じ」と答える生徒もいれば、水は水道から飲み、ペットボトルではないと考え、「違う」と答える生徒もいた。）

＜授業後の生徒の感想＞

- ・ブータンに田んぼあった
- ・ご飯を食べていた
- ・ブータン肉を食べる
- ・ブータンにも鍋がある
- ・ポストは何で丸いのか
- ・清水先生カディンチェラ

【3時限目】

瞑想は難しいかもしれないと予想していたが、「前を向いたまま目を閉じて、頭の中を空っぽにする。」と具体的に説明すると体験できた。ブータン人が1番大切にしている部分は、考え方、口、体のどの部分か予想する時間をとると、意見は様々で、「体が大切」と予想した生徒が多かった。

「助け合い」「思いやり」「ゆずり合い」「挨拶は笑顔」のエピソードについては、自分と同じと感じる生徒もいれば、違うと感じる生徒もあり、中には、できる時もできない時もあると答えた生徒もいた。

ブータンの子どもたちが英語で答えたインタビュー映像を見ると、「難しい、分からない。」と言いつつも、一生懸命聴いていた。事前に自分たちが答えた幸せについてのアンケートと比較し、前の活動で用いたカードを自ら挙げ、同じか、違うかを考えている生徒もいた。スタディやフレンドなど、何度も出てくるキーワードをリスニングできるように伝えておいたが、聞き取りは難しいようであった。何よりも、ブータン人が話していることに興味津々であった。

【4時限目】

挨拶ゲームを行う前に、『ブータン流で、笑顔で目を見て挨拶をするとシールをもらえる』というルールを説明すると、とても良い表情で挨拶できていた。毎時間「クズザンポー」の挨拶をしていたため、発語が難しい生徒も自分なりに発音できていた。感想で、「良い気分」「嬉しい」と答えており、挨拶の良さを捉えられたようであった。

「殺生を嫌う」の学習では、蚊の模型を用いると、手でよけたり、手で叩いたりして、日頃自分がどうしているのか実演できていた。ブータンの人たちは全ての生き物を大切に作る心から、蚊も殺さないという殺生を嫌うエピソードを伝え、自分たちと比較し、驚いていた。

ブータンで有名な「4フレンズ」の物語を動物を登場させながら話したところ、興味深そうに見ていた。動物が実をとる方法を一生懸命考え、色々な案を出し、最後には「乗る」という方法に気づけた生徒がいた。ブータンの人々がこの物語から伝えたいこととして「尊敬、協力、友情」について話すと、難しそうではあったが、その後意識して行動している姿が見られた。

ブータンの子供たちから日本の子供たちへ送られたメッセージビデオを観ると、「ありがとう」「日本にきてね」とメッセージに答え、とても嬉しそうにしていた。

＜授業後の生徒の感想＞

- ・ブータンの人は蚊を大切にすると聞いた ・助け合いがよく分かった
- ・ゆずり合い、思いやりはよくできた ・ブータンの授業これからもがんばる ・メッセージをありがとう
- ・「ブータンに来てください。」がうれしかった ・ブータンの人ぜひ日本に来てください
- ・ブータンの人がぼくたちに勉強をがんばってと言っていてうれしかった ・日本人の学校に来てね
- ・清水先生がブータンから日本人へのメッセージをいただきカディンチェラ ・ブータンに行ってみたい

【6】授業実践の成果と課題

生徒が最初に関心を示したのは、キラを着た教師と写真の中の教師である。生徒の学ぶ意欲は、自分にとって馴染みのあることから「未知なる世界」へ広がっていく。生徒にとって身近な存在である教師が、現地で体験し、伝えたことに大きな意味があったと思う。また、視覚的な教材を多く使用したことで、生徒の関心は高まり、理解が深まったと思う。自分と友だちの意見も、日本とブータンもどちらが良いではなく、それぞれに良さがあることを感覚として捉えられた実践だったと思う。

今回は毎時間違う内容を扱ったが、特別支援学校の場合、繰り返しの学習が定着に繋がるため、内容を厳選し、繰り返し行うことも必要である。また、私自身が深く感動したブータン人の「考え方」について扱いたいと考え、自分たちとの比較という形でブータン人の「考え方や幸せ」を伝え、生徒にとって抽象的な概念を捉えることはとても難しかったと思う。より深い学びにするために、より具体的なエピソードや物を用いるなど他の方法も考えていきたい。

【7】参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『読売新聞』2012年5月25日朝刊「教育ルネサンス」
- ・「ブータン-Wikipedia」<<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%B3>>
ウィキメディア財団(2012年9月6日アクセス)
- ・「旅倶楽部 こま通信」小松良一氏個人ブログ(2012年9月6日アクセス)
<<http://komatsusin.hopto.org/koma/modules/iDiary/index.php?mode=show&date=20120126>>
- ・「無料イラスト素材のイラストポップ」<http://illpop.com/animal_top01.htm>
(2012年10月15日アクセス)

【8】使用教材(写真／図などの実物)

【1時限目 (パワーポイント)】

(日本のマークたくさん)



【2時限目: 日本と比較をしてカードを挙げる (パワーポイント)】



【3時限目: ブータンの子どもたちの幸せインタビュー (動画)】



【4時限目: 挨拶シート】【4フレンズ(パワーポイント)】【ブータンの子どもたちからのメッセージ (動画)】



【9】教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

特別支援学校において、国際理解/開発教育は未開拓の分野であるが、私は「生徒の世界を広げる」という意味でとても重要であると思う。生徒に「今年一番楽しかったこと、頑張ったこと」を聞くと、『ブータンの授業』と答えた生徒が半数おり、日常の中でも「ブータン」「クズザンポー」と口にしていて生徒がおり、印象に残ったということが分かる。

研修では、現地に根付いた体験をたくさんでき、生徒へ伝えたいことばかりだった。今回は「比較から捉える互いの良さの尊重」というところをねらいとして授業を行ったが、どこに焦点を当てるかで様々な授業展開ができる。今後も担当した生徒へ、その生徒の実態にあった授業実践を行っていきたい。

何よりも、私自身が異文化の中で、感じ、考え視野を広げられたことが、一番重要な国際理解/開発教育の実践であるように感じる。

国際理解教育/開発教育プログラムのご案内

JICA教師海外研修2013

教師海外研修に参加して、国際理解教育/開発教育への取り組みを深めてみませんか？

JICA教師海外研修とは…

開発途上国の現状、日本との関係や国際協力への理解を深め、子どもたちに伝えることを目的とした1年間のプログラムです。小中高・特別支援学校の教員を対象に実施され、毎年、全国で約150名の教員が参加しています。（後援：文部科学省、外務省、各教育委員会など）



国内研修の様子



海外研修の様子（ブータン）



授業実践の様子

👉 **2013 年度の海外研修予定国** ※派遣国は年度により異なります

東京・栃木・山梨・群馬の教員：フータン

埼玉・千葉・新潟の教員：エルサルバドル

👉 **応募期間** 2013年4月1日（月）～5月13日（月）必着

👉 **研修スケジュール（予定）** ※原則、全日程にご参加いただく必要があります

事前研修	6月16日（日）、7月6日（土）、7日（日）
海外研修	7月下旬～8月上旬の10日間程度
帰国時研修	8月25日（日）
各校での授業実践	9～12月
授業実践報告会	12～2月（各都県毎）
報告書提出	海外研修報告（8月下旬）、授業実践報告（1月上旬）
全体研修	3月上旬～中旬の日曜日

※内容は変更する可能性があります。詳細については、4月以降に配布される教師海外研修2013募集要項にてご確認ください。「JICA 地球ひろば」ウェブサイトでもご確認ください。

JICA 地球ひろば」ウェブサイトで研修の様子をご紹介します。
4月以降、2013年度応募用紙をダウンロードいただけます。
<http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/teacher>

【お問合せ】

JICA 地球ひろば 地域連携課 教師海外研修担当〔滝下・近藤〕

電話 03-3269-9023 jicajgp-kyoiku@jica.go.jp

<http://www.jica.go.jp/hiroba/>



過去に研修に参加した教員の取組のご紹介

教師海外研修に参加された教員の方々は、研修後も勤務校や地域で国際理解教育／開発教育に取り組まれています。活躍されている先生方の一例をご紹介します。

■国際協力エッセイコンテストを活用した取り組み

群馬県立伊勢崎興陽高等学校 中山見知子教諭（平成 19 年度カンボジア研修参加）
関口めぐみ教諭（平成 22 年度ブータン研修参加）

群馬県立伊勢崎興陽高等学校では、二人の教諭が教師海外研修に参加し、国際理解教育／開発教育の授業を実施されたことをきっかけに、生徒たちの開発途上国への関心が高まりました。生徒たちは毎年、中山教諭、関口教諭らの声かけにより JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに参加し、授業や課外活動を通じて感じたこと、考えたことをエッセイに書いて応募しています。（今年度は「これからの日本、これからの世界～私たちができること～」のテーマに対して、同校から 96 名が応募）そして同校は今年度、多くの作品に応募した学校に贈られる「学校賞¹」を受賞しました。



興陽フェスタでクレープ販売により募金活動をする援助技術研究部の生徒たち

同校では、カンボジア研修に参加された中山教諭の授業を受けた生徒の「自分たちのできることをしたい」という声から、平成 19 年に課外クラブ「援助技術研究部」が発足し、これまでにカンボジアの

孤児院に通学かばんを贈る活動等を実施してきました。同部は今年度、効果的な募金の方法、カンボジアの観光PR、新聞に掲載される世界の国や地域の比較の3点をテーマに活動し、年

に2回開催される「興陽フェスタ」において、研究の発表とクレープの販売による募金活動を行いました。顧問の中山先生は、「活動を通じて生徒たちには、企画力や実行力が身についていると感じる。エッセイコンテストへの応募は、研究をまとめる良い機会になっている」とのこと。

また関口教諭は、担当する英語の授業の中で積極的に開発途上国の話題を取り上げ、夏休みの課題として、コンテストへの挑戦を呼びかけました。コンテストへの参加について関口教諭は、「生徒にとってエッセイを書くことで自分を振り返るよい機会となる。また作品を読むと、普段はあまり口に出さないけれど、生徒が世界や自分について深く考えていることが分かる。」と話してくださいました。



生徒たちは、カンボジアの魅力について発表しました

¹ 60 作品以上の応募または全校生徒の3割以上の応募のあった学校には「学校賞」が、5年連続で学校賞に該当する応募のあった学校には「特別学校賞」が贈られます。

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストとは…

JICA では、開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解を深め、自分たちに何ができるのかを考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。上位入賞者には、開発途上国への研修旅行が贈られます。平成 24 年度は 7 万 3 千件を超える応募が寄せられました。



■グローバル教育コンクールに入賞！

新潟県村上市立村上第一中学校 小黒 淳一教諭（平成 19 年度カンボジア研修参加）

教師海外研修への参加をきっかけに、JICA をはじめ地域の様々な機関と連携しながら国際理解教育に取り組まれてきた小黒教諭は、これまでの実践をまとめた作品を応募し、グローバル教育コンクール 2012・国際協力レポート部門で佳作に入賞されました。

「つなげる！学校と世の中を、日本と世界を！～国際理解教育の推進と活性化へのヒント～」と題した小黒教諭の作品は、教室の中だけに学びを限定しない、学校と地域がつながった取り組みが高く評価されました。小黒教諭に、国際理解教育の取り組みについて伺いました。



自身の写真展で話をする小黒教諭

Q. 国際理解教育の実施にあたって、工夫していることを教えてください。

まずは生徒に日本と外国との違いを楽しんでもらうことを心がけ、そこからもっと知りたい、もっと学びたいという気持ちに火をつけ、心に訴える道徳的な授業につなげています。また、「知る、考える、疑問に思う、話し合う、行動する、発信する」といった流れを意識して実践をしています。

Q. 国際理解教育を通して、生徒さんにどのような変化がありましたか？

当たり前だと思っていたことがそうではないと分かった時に、生徒は大きな衝撃を受け、当たり前感謝する気持ちが生まれました。そして、給食を残さ

ず食べたり、ペットボトルキャップを回収したり、自分たちにできることを考えて、実行に移すようになりました。

Q. 国際理解教育を通して、ご自身や周りの教員にも何か変化があれば教えてください。

国際協力や国際交流に関わる素敵な方々との出会いが増えました。そのつながりから、国際理解教育へのアドバイスをいただいたり、学校に来て講演をしていただいたり、学びが広がっています。他の教員にも国際理解教育の取り組みを見てもらい、生徒の変容を通して、国際理解教育のやり方や面白さを感じてもらっています。

Q. 実践を続けるための秘訣は何でしょうか！？

まずは教員がアンテナを高く立てて、新たな出会いや学びにドキドキすることだと思います。私の場合は、教師海外研修で撮った写真をもとに写真展を開催したり、グローバル教育コンクールに応募したり、生徒と共に国際理解教育プレゼンテーションコンテスト（新潟県国際交流協会主催）に出場したりしました。これからも、自分も学びつつ、自分から発信もしていきたいと思っています。

Q. 今後取り組みたいことがあれば教えてください。

海外の経験がある特定の教員のみが国際理解教育を展開するのではなく、生徒の発達段階に応じて、どの教員でもできるようなカリキュラムや教材を作りたいと考えています。出会いに心ときめかせ、ホンモノに感動し、明るい未来につなげていきたいです。



プレゼンテーションコンテストで発表する生徒たち



写真展「風～モンゴルとカンボジアの息吹～」の様子

グローバル教育コンクールとは…

JICA では、グローバル教育を実践する際に活用できる作品のコンクールを行っています。コンクールには「写真・映像」部門と「国際協力レポート」部門の 2 部門があります。「国際協力レポート」部門は、学校や市民団体での国際協力や教育への取り組みを始め、NPO や NGO などの国内・海外での活動のレポートを対象としています。

■国際協力出前講座を活用してキャリア教育を展開

東京都立松原高等学校 藤木 優子教諭（平成 19 年度ラオス研修参加）

学校や地域の講座で JICA ボランティアの経験者が体験談を話す国際協力出前講座は、毎年全国で約 2 千件が実施され、約 20 万人が受講しています。平成 19 年にラオス研修に参加された藤木教諭は、出前講座を活用したキャリア教育の授業を実施しました。

2 月上旬の午後、都立松原高等学校の視聴覚室に約 190 名の 2 年生が集まりました。『「職」を通じて広がる世界』と題されたこの日の講座は、5 名の JICA ボランティア経験者が講師です。青年海外協力隊 / シニアボランティアについての説明の後、職業訓練（中国）、農業（パナマ）、幼児教育（中国）、看護（チリ）、陶芸（エジプト）の分野と国で活動した講師達が、現地語を交えながら自己紹介をしました。それぞれの活動や現地での生活について、また帰国後の進路や心境についても語られ、「もっと話を聞きたい!」という気持ちが高まったところで、1 時間目の講座は終了しました。



様々な分野で活動した 5 名の JICA ボランティア経験者が体験談を語りました。講師には、同校の卒業生も…。

2 時間目は各分科会に分かれ、興味のある分野の講師の話にじっくりと耳を傾けました。講師の一人の中国で活動した石山さんは、「なぜ自分は中国で現地の

人に助けられながら活動ができたと思う?」と生徒に語りかけ、歴史的な背景や言葉や習慣の違いを越え、お互いに理解しようとする気持ちが大切であることを伝えました。このように世界で活躍したボランティア経験者からは、職業の話だけではなく、広い視野を持って人生を切り拓いていくことへのメッセージが伝えられました。生徒からは「どの分野に進学しても、世界と関わるができることが分かった」「日本で当たり前なことは、日本を出たら当たり前じゃない。実際に行ってみたいと思った」「貧しいからといって苦しいとは限らない。陽気で楽しそうな面もあり途上国のイメージが変わった」といった感想が聞かれました。

藤木教諭は、生徒たちが卒業後の進路を考えるにあたり、働くことの意味や、経験を活かして社会に貢献することも考えて欲しいという想いで講座を企画されました。「JICA ボランティア経験者は“熱い想い”を持っていて、それが生徒に伝わり、生徒が熱心に聞いていたと思う」と感想を話していただきました。

国際協力出前講座は、国際理解教育 / 開発教育、キャリア教育、環境教育、道徳教育、平和教育等での様々な実施事例があります。学校現場での教育活動の充実には是非お役立てください。



生徒と対話しながら話を進める講師の石山さん

国際協力出前講座とは…



開発途上国で活動してきた JICA ボランティアなどが、学校や地域の講座で体験談をお話します。国際協力や開発途上国の文化や暮らしについてはもちろん、学校 / 教師の希望のテーマや内容に合わせた講師を派遣します。JICA ボランティアは世界 70 カ国以上、100 以上の分野で活動しており、現場での実体験にもとづいた話が好評です。

■特別支援学校 / 学級における国際理解教育を推進

東京都立城北特別支援学校 相沢 友紀教諭（平成 20 年度ラオス研修参加）

千葉県立長生特別支援学校 鈴木 優成教諭（平成 22 年度ブータン研修参加）、他 17 名

教師海外研修の参加者で特別支援学校 / 学級に勤務している教諭が中心になり、「JICA 教師海外研修 特別支援教育チーム」が平成 23 年に立ち上がりました。メンバーには JICA ボランティアの経験者や国内外の特別支援教育に興味を持つ関係者も加わり、総勢 25 名からなるメンバーは、定期的な勉強会やお互いの実践現場の見学等の活動を行っています。

特別支援教育チームで活動されている、相沢教諭と鈴木教諭にお話を伺いました。



実践報告集を手にする相沢教諭（左）と鈴木教諭（右）

Q. 特別支援学校での国際理解教育の状況や、特別支援チームの活動について教えてください。

（相沢教諭）特別支援学校では自立活動等の優先すべき課題が多く、残念ながら小・中学校に比べると国際理解教育はあまり実施されていません。実施事例も少ないため、特別支援教育チームでの研究や情報交換がとても役に立っています。



勉強会で活動を報告するメンバー

Q. 国際理解の授業を通して、生徒さんにどのような変化がありましたか？

（鈴木教諭）例えば、学校での授業をきっかけに、家庭でもテレビの海外のニュースに気付き、家族と話をするなど、生活における興味の引き出しが増えた生

徒がいました。このように、生活を豊かにするという面からも、障がいの有る無しに関わらず国際理解教育は必要であると感じています。

Q. 教師海外研修への参加を通して、ご自身にはどのような変化がありましたか？

（鈴木教諭）現地で国際協力に関わる JICA 専門家やボランティアとの出会いを通して、自分も教師として特別支援教育の専門性を高めていきたいと感じました。また、海外と日本の違いに生徒が気付くためには、まず日本を知ることの大切さを実感し、日本や地域のことを知る授業も実施するようになりました。



「国立特別支援教育総合研究所」を訪問しての勉強会の様子

Q. 特別支援教育チームやご自身の今後の展望について教えてください。

（相沢教諭）特別支援教育チームは、研究テーマとして「インクルーシブ教育」を掲げ、特別支援学校と普通校が交流を通してお互いに学び合うことを探究していきたいと考えています。特別支援教育チームも、校種や地域を超えた仲間が集まるからこそ学びが深まっていると感じます。個人的には、すぐに多くの実践をするのは難しくても、ゆるやかに国際理解教育の輪を広げていきたいと思っています。

教師海外研修特別支援教育チームが編集した「授業に役立つ特別支援教育の国際理解 / 開発教育 平成 21 年度～23 年度授業実践報告書集」（JICA 教師海外研修 特別支援教育チーム編集・JICA 地球ひろば発行 / 平成 23 年 3 月）を希望される方は、JICA 地球ひろばまでお問い合わせください。

■国際理解教育に関する教育委員会への協力

埼玉県立鴻巣高等学校 田島 雅野教諭（平成 23 年度 ウガンダ研修参加）
新座市立片山小学校 原 真奈美教諭（平成 23 年度 ウガンダ研修参加）
加須市立加須南小学校 平澤 由美子教諭（平成 21 年度 モンゴル研修参加）

埼玉県立総合教育センター（埼玉県行田市）には、平成 23 年より JICA 展示コーナーが設置され、JICA 地球ひろばの展示の一部や、教師海外研修に参加された教員が作成した国際理解教育のための教材が展示されています。同センターには、教員研修を中心に年間のべ 4 万人を超える来所者があり、埼玉の教員や地域の方に開発途上国の現状や国際理解教育について知っていただく機会となっています。

ウガンダ研修に参加された埼玉県立鴻巣高等学校の田島教諭は、英語と総合的な学習の時間において、ウガンダへの援助について考える授業を展開しました。またそれ以外にも、日本人にとって情報や訪れる機会が少ない同国について多くの生徒に知ってもらうため、同校のホームページに「ウガンダ便り」を掲載したり、壁新聞を作成したりして生徒たちにウガンダの現状を伝えました。ホームページや新聞での発信を通して、生徒だけでなく他の教員や保護者にもウガンダや授業の様子について知ってもらう

ことに繋がりました。

また新座市立片山小学校の原教諭は、海外研修で訪れたウガンダの小学生が描いた絵を使った授業を展開しました。原教諭は、担任していた小学 1 年生が、ウガンダやアフリカと自分たちとの繋がりに気づくよう、ウガンダの子どもたちが描いた絵、楽器、チンパンジーを主人公にした自作の紙芝居等、様々な教材を活用しながら 17 時間に及ぶ授業を展開しました。



原教諭が作成した道徳教材「チンパンジーのキキ」

二人が作成した教材は指導案と併せて展示され、教材を見た教員から「国際理解教育に取り組むヒントを得ることができた」「教材から教師が生徒に伝えたいメッセージが伝わってきた」「自分も国際理解教育に挑戦したいと思った」等の声が聞かれました。



田島教諭が作成した壁新聞



教師海外研修に関する展示の様子

埼玉県立総合教育センター（JICA 展示コーナー担当） 柳 充指導主事のお話

JICA 展示コーナーは、研修でセンターを訪れた教員が、世界の様々な国の現状や日本と世界との関係を学ぶことができる貴重な空間です。ここには、JICA 教師海外研修に参加した教員が作成し、授業等で活用した教材が展示されています。児童生徒の興味関心を高め、発展途上国の抱えている課題を身近な問題として考えさせる工夫がなされた数々の教材は、国際理解教育に関する多くのヒントを現場の教員に提供しています。今後も、国際理解教育に関する情報の共有と発信の基地として、多くの方々に活用していただけたらと思っております。

また、埼玉県教育委員会主催の初任者研修（小・中・高等学校）では、教師海外研修に参加した３名の教員が講師となり、ESD（持続発展教育）や国際理解教育の取り組みについて伝えました。



初任者研修での平澤教諭の講義の様子

加須市立加須南小学校の平澤教諭は、平成 21 年度にモンゴル研修に参加され、訪問前に感じていた「モンゴルは大草原が広がっているだけで貧しい生活をしている」といったイメージが変化し、日本にはない良さを感じたそうです。そのことを児童に伝えるため、小学 1 年生の生活科の授業で、モンゴルの大草原のゲルでの生活を紹介しました。ゲルでは無駄のない生活をしており、例えば羊を食べる時にも全ての肉を食べることや、骨も捨てずに大事に使い、子どもの遊び道具になることを伝えたところ、児童たちの興味は日本の伝統的な遊びについても広

がり、「日本の遊びを外国の人に紹介しよう」という取り組みにつながりました。

また、モンゴルでは食べ物を大切にしていることに気付いた児童がいたことをきっかけに、平澤教諭は、開発途上国のマンホールで暮らす子どもたちの話をしました。そのことをきっかけに、児童たちの



JICA 展示コーナーの様子

食べ物を大切にするこゝへの意識が高まり、今では給食の時間には、食べられるだけの量をよそって全員が残さず食べるようになりました。

平澤教諭は、「自分の生まれ育った国を外から見るという経験は、国際理解教育を進めていく上でとても大切になるのではないかと思います。ぜひ、いろいろな機会を活用して自分自身を磨き、子供たちのために活躍してください」と初任者の先生方にメッセージを伝え、講義を締めくくりました。



一般公開「集まれ！センター探検隊」に会場し、
JICA 展示を体験する子どもたち



JICA 展示コーナーでの教員研修の様子

埼玉県立総合教育センター（教職員研修担当）瀧澤 誠指導主事のお話

新学習指導要領に、ESD（持続発展教育）の視点が加わり、学校現場において国際理解教育等の重要性は益々高まっているといえます。JICA の青年海外協力隊や教師海外研修に参加した先生方の、開発途上国での実体験やそれに基づいた実践等の講義は、具体的で参考になる点が多いと感じています。今後も貴重な経験を、児童生徒への教育に役立てることは勿論、実践事例や教材等を多くの先生方とも共有し、国際理解教育を推進していただくことを期待しています。

学校・教員のための 国際理解教育支援プログラム

JICAでは、世界の現状や開発途上国が抱える課題への理解を深めるため、学校現場で活用いただける国際理解教育／開発教育支援のための各事業を実施しています。

教員向けプログラム

●教師海外研修

開発途上国の現状、日本との関係や国際協力への理解を深め、その成果を子どもたちの教育に役立てることを目的とした研修です。校種や地域の違う先生方がチームとなって国内と海外の研修に取り組みます。研修で得た学びと感動を、授業や教材作成を通じて子どもたちに伝えてください！毎年、全国で約150人の教員が研修に参加しています。



●国際理解教育セミナー

教員をはじめとした国際理解教育に関心がある方々を対象にした国際理解教育／開発教育の基本的な考え方を学ぶ講座を、各地のNGOや教育委員会、国際交流協会と協力して開催しています。ワークショップや参加型学習の手法を体験しながら、世界を学ぶ授業作りにお役立てください。



●グローバル教育コンクール

世界が抱えるさまざまな問題について考え、その解決のために行動できる人材を育成するため、学校現場などで活用できる素材を作品として募集しています。応募部門は次の二つ。

- ①「写真・映像」部門・・・写真や映像を通して現地の人たちの暮らし、表情、そして言葉などと共に、「こんなことを、伝えたい！」というメッセージをお寄せください。
- ②「国際協力レポート」部門・・・学校や市民団体での国際協力や教育への取り組みをはじめ、NPOやNGOなどの国内・海外での活動について報告ください。

●青年海外協力隊（現職教員特別参加制度）

教員の方々が身分を保持したまま、青年海外協力隊または日系社会青年ボランティアへ参加するための制度です。毎年、春募集時（3～5月）に募集しています。

児童・生徒向けプログラム

●国際協力出前講座

開発途上国の実情や日本との関係、日本の国際協力について知っていただくために、教室にJICAボランティアの経験者が講師としてお伺いします。講座は、異文化理解、教育や農業、医療、スポーツ、音楽といったテーマや、対象国や地域を決めて行うことも可能です。また、道徳や人権学習、ボランティア学習、環境教育、キャリア教育などの授業でも活用されています。



●国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

毎年、開発途上国や国際協力をテーマに中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを開催しています。上位入賞者には、開発途上国でのJICA事業の現場視察など研修に参加する機会が与えられます。コンテストの開催概要や募集作品のテーマについては、毎年6月頃にJICA地球ひろばのHPで発表されます。



国際理解教育／開発教育のための教材

●ぼくら地球調査隊 小冊子5種

環境、感染症、教育、食料問題など、私たちの身近で起こっている地球規模の課題について、楽しく学ぶことができます。

※ホームページよりダウンロードいただけます



世界の水問題
(環境)



学校に行けない
世界の子どもたち
(教育)



砂漠化する惑星
(環境)



いのち、輝け!
(保健・公衆衛生)



世界の食料
(食糧)

●ぼくら地球調査隊 ウェブコンテンツ

博士と3人の子どもたちが世界を旅しながら地球について学ぶウェブコンテンツです。アニメーションを見ながら、地球で起きている様々なことを知り開発途上国を身近に感じることができます。



「JICA地球ひろば」のご案内

●JICA地球ひろば

JICA地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、開発途上国での活動体験談や参加型体験学習を組み合わせたプログラムを実施しています。修学旅行、社会科見学等の団体訪問も受け入れており、年間約1万人に見学いただいています。

開館時間：10時～20時（平日）／10時～18時（土・日・祝）

休館日：第1・第3月曜日、年末年始 ○入館無料

連絡先：〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL：03-3269-2911／0120-767278



あなたの近くのJICA相談窓口

●JICAデスク

開発途上国で活動した経験を持つ国際協力推進員が、皆さんのお越しをお待ちしています。

東京都(23区外)八王子市役所市民活動推進部国際交流課内 Tel: 042-620-7437

✉ jicadpd-desk-hachiojishi@jica.go.jp

※東京都(23区)については、JICA地球ひろばまでお問合せください。

埼玉県 (財)埼玉県国際交流協会内 Tel: 048-833-2992

✉ jicadpd-desk-saitamaken@jica.go.jp

千葉県 (公財)ちば国際コンベンションビューロー内 Tel: 043-297-0245

✉ jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp

栃木県 (公財)栃木県国際交流協会内 Tel: 028-621-0777

✉ jicadpd-desk-tochigiken@jica.go.jp

群馬県 (財)群馬県観光物産国際協会内 Tel: 027-243-7271

✉ jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp

新潟県 (公財)新潟県国際交流協会内 Tel: 025-290-5650

✉ jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp

山梨県 (財)山梨県国際交流協会内 Tel: 055-228-5419

✉ jicadpd-desk-yamanashiken@jica.go.jp

詳しくはコチラ

JICA地球ひろば

検索

おわりに

今日の社会は、情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人、物材、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっています。このような状況の中で、教育現場では様々な課題に応えるため多くの先生たちが日々汗を流しています。一昨年の東日本大震災以降、既存の価値観に疑問が投げかけられることも多く、将来に緊張感を持って臨むことの必要性を強く感じるようになりました。学校においても、従来のやり方で全てがうまくいくといった方程式はもはや当てはまらなくなってきました。

今回の教師海外研修では、忙しい毎日を過ごしている先生たちがしばし立ち止まり、自身のこれまでの取組を見つめ直すとともに、これからのグローバル化社会に生きていく児童生徒たちに必要となる授業のヒントを見つけることを目指しました。

これまで途上国はとかく馴染みが薄く、訪問に際して不安や疑問を感じられた方々も、意外と日本との心理的距離は近く、共に生きていく仲間である、ということに気付かれたのではないのでしょうか。日本人の生活が世界の多くの人々との関係性の中に成り立っていることに、先生方自身が体験を通して気付くことは非常に重要なことであると考えます。

参加された先生方お一人お一人が、海外研修や国内の事前・事後研修、また各学校における授業実践等の中で得られた多くの「気づき」を、社会の変化やニーズを踏まえてさらに発展させ、ご自身の授業に生かしていかれることを期待します。

JICA 学校教育アドバイザー 掛川 達雄

平成 24 年度 教師海外研修報告書
～国際理解教育の授業実践事例集～
ブータンコース



独立行政法人 国際協力機構 地球ひろば
〒162-8433
東京都新宿区市谷本村町 10-5
Tel:03-3269-9023
<http://www.jica.go.jp/hiroba/>